

建築物、構築物を起因物とする墜落・転落の死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生日	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	1	11～12	橋補修工事でつり足場のチェーンを取付ける作業をが終わったので、橋に上がるためはしごを登り欄干を跨いでいたところ滑って川に墜落し溺死した。	30199	1～9
1999	1	11～12	ビルの屋上において点検作業中、屋上の端から約17メートル下の地上に墜落した。	30201	1～9
1999	1	10～11	事務所屋上で吹きだまった雪を落とすため、プラスチック製のスコップを持って様子を見に屋上へいったときに、誤って約8m下の地面に墜落した。	170209	100～299
1999	1	0～1	ビル屋上の貯水槽の定期清掃及び点検業務で、作業を終了し最後の点検を貯水槽が乗せられている台の上に立ち行っていたときに、足を踏外して、貯水槽の載っているエレベーターホールの塔屋から、屋上まで墜落した。	150101	1～9
1999	1	15～16	水内の調節ゲートの塗り替え作業で、塗装面の下地処理に使用したサンドブラストの砂を落とすためにノズルで散水しているときに水中に転落した。	30203	1～9
1999	1	10～11	配送先の事業場で運搬してきたダンボール箱1個を1階扉のないエレベーター出入口からエレベーターに載せようとしたが、搬器が1階になく上の階に上がっていたため荷とともに約3m下のピット底に墜落した。	40301	30～49
1999	2	9～10	鉄骨組立作業で、ボルト締め中に安全帯のカラビナが損傷していたため17. 3メートル下のコンクリート床面に墜落した。	30201	1～9
		10	高速道路の法面上部にある排水溝清掃作業において、休憩場所から作業場所		

1999	2	～	11	に向う途中にフェンスを乗り越えて飛び降りたときに足を踏み外し、法面を 仰向きの状態で頭から9.6m下の道路脇に転落した。	150109	10～ 29
1999	2	～	3	2 校舎4階の音楽室内を巡回警備中に、吹奏楽部の生徒が気が付かず音楽室の 扉を施錠したため扉が室内から開かず閉じ込められたので、電気ドラムのコー ドを固定して窓から垂らし地上に降りようとして墜落した。	170201	300 ～
1999	1	～	15	14 工場新築工事で天井裏の配管作業中に70センチのすき間から5.3メートル下 のコンクリート床に墜落した。	30201	1～9
1999	1	～	15	14 木造2階建住宅新築工事で羽子板ボルト締め作業を行っていたときに、1階の コンクリート基礎部分に墜落した。	30202	1～9
1999	2	～	9	8 鉄筋コンクリート建物解体工事で、歩行健康器具を同僚と2人で4階の窓から 地上のコンテナ車に投下しているときに、皮手袋が健康器具のボルトに引っ かかったため、歩行健康器具とともに1階コンクリート土間まで墜落した。	30201	50～ 99
1999	1	～	12	11 対面するビルの工事に伴う環境測定のため、4階屋上で屋上部分の面積を測 定する作業中、メジャーの端を持って後ろ向きに歩いていたため、パラペッ トを乗り越え地上に墜落した。	170209	10～ 29
1999	1	～	14	13 福祉施設の大会議室の天井の電球が切れたため、天井裏に上がりキャット ウォークと呼ばれる通路から鉄骨の梁の上を渡って、約4メートル離れた球 切れした電灯まで行ったところで、周囲に敷き詰めてあるグラスウールポー ドを踏み抜いて約6メートル下に墜落した。	170209	1～9
1999	3	～	10	9 新築工事現場において、ドライチャンバー室内の資材等の片付け作業中にコ ンベヤーの土台から深さ88cmのピットに転落した。	30302	1～9
1999	1	～	16	15 砂防工事現場において、高さ8mの既設ダム堰堤上部で切削機の試運転して いたときに、誤って堰堤上部から川底に墜落し、同時に落下した切削機が右 下腿部を直撃した。	30106	1～9

1999	3	13 ～ 14	仮設橋の解体撤去作業で、架台支柱の内の14mの支柱に登り、支柱と仮設橋の桁をつないでいたボルトを取り外したところ架台が転倒したため架台の支柱に登っていた作業員2名が支柱から墜落し、1名が死亡し、1名が負傷した。	30199	1～9
1999	3	9 ～ 10	セメント工場の配合場横の塩ビ配管の漏水修理のため、アルミ製はしごをシャッター扉収納部の突き出し部分に立て掛けて作業を行っていたときに、2. 85メートル下のコンクリート床に墜落した。	10901	10～ 29
1999	3	13 ～ 14	マンション屋外の3階建て立体駐車場で、2階部分に許容高さを超える軽トラックが駐車して屋根が3階プレートの底部に接触したため、この復旧のため軽トラックの隣にあるプレートに上がるため駐車設備のフレームからプレートに移動中、フレームとプレートの隙間から墜落した。	170209	10～ 29
1999	4	11 ～ 12	電波障害調査のため、4Fのペントハウス屋上の柵外にあるテレビ機器収納盤にケーブルを接続し、その状態の写真撮影を行っていたときに、高さ約50センチのパラペットを超えて19. 5メートル下の地上に墜落した。	170209	10～ 29
1999	3	8 ～ 9	鉄塔の撤去工事において、玉掛けするため鉄塔に登っていたところ、鉄塔が真中から折れて鉄塔と共に地面に墜落した。	30209	1～9
1999	4	8 ～ 9	雑用水ポンプアップ用の井戸の築造工事において、井戸上部のマンホールから移動用はしごで降りていたときに、誤って7mの箇所から底まで墜落した。	30110	10～ 29
1999	4	14 ～ 15	精米プラントの解体工事のため、バケットエレベータの点検床に乗って床およびタラップとの接続箇所をガス溶断していたところ、2本のボルトで固定されていた点検床が作業員の体重と自重により抜け落ち点検床と共に5. 25メートル下の土間コンクリート上に墜落した。	30302	1～9
1999	4	9 ～ 10	アマチュア無線のアンテナ用鉄塔の解体で、鉄塔に昇って作業していたときに高さ約12mのところから墜落した。	30201	1～9

1999	4	10 ～ 11	ホテルの5階客室の窓を清掃するため、窓枠に足を掛け身体を乗出すようにして作業を行っていたとき、バランスを崩し3階の底部分に墜落した。	140101	50～ 99
1999	3	16 ～ 17	部品棚を組立てるため、高さ2.5メートルの鉄骨上でボルト締め作業を行っていたときに、バランスを崩し、途中高さ1.25メートルのところにある鉄骨にバウンドして地上に墜落した。	30209	1～9
1999	5	13 ～ 14	ビルの3～4階で階段の掃除をしていたときに、階段の途中から3階踊場に転落した。	150101	100 ～ 299
1999	5	16 ～ 17	事務所兼賃貸アパートの外壁張り替え作業で、2階の棧を跨いで、外へ身を乗り出してビニール波板を釘で打ち付けていたときに、バランスを崩して墜落し、下にあったフォークリフトのフォーク上のスノコの上へ落ちたのち地面へ首から墜落した。	30202	1～9
1999	5	13 ～ 14	老朽化した鋼製タンクを2階から1階に降ろす作業で、2階吹抜けの上部に設けた手動式チェーンブロックでタンクを吊上げ手摺越しに1階に降ろそうとしたが鋼製タンクが上がらないため、開口部手すりの一部をグラインダーで切断し、鋼製パイプでこじ拡げる作業をしていたときに、手摺端部が折れ2階床より1階コンクリート床上に墜落した。	11204	10～ 29
1999	5	14 ～ 15	造成工事において、法面階段工の階段ブロック設置作業の下地モルタルをバケツにより運搬していて、調整池に転落した。	30109	10～ 29
1999	4	15 ～ 16	1人で宅地造成地北側の法面(高さ約6m)において「植栽用のシート」を張り付ける作業を行っていたが、現場監督が発見したときには法尻付近に倒れていた。	30108	10～ 29
1999	2	17 ～ 18	看板を撤去するため広告塔の内側からボルトを外していたときに、作業床を踏み抜いて12.6メートル下の地面に墜落した。	30209	1～9

1999	1	14 ～ 15	S造2階建て事務所の解体作業中に、高さ3.8メートルのひさし部分から墜落した。	30309	10～ 29
1999	5	9 ～ 10	高さ4メートルのブロック積み擁壁上で、上方の伐採する立木を予定の位置に伐倒するため立木にかけたロープを引っ張っていたところ、作業床の端に近付きすぎて作業床の端から墜落した。	30199	1～9
1999	2	15 ～ 16	砕氷塔のシューターを動かすウインチのワイヤロープを交換する作業で、砕氷塔の砕氷機下の作業床で新しいワイヤロープをウインチへ巻き取る作業を終えて移動しようとしたときに、足を踏み外して後ろの開口部より5.9メートル下のコンクリート床面に墜落した。	10109	1～9
1999	6	10 ～ 11	倉庫の鉄骨建て方作業で、高さ11mの柱を10本建てその後、移動式クレーンで梁を吊って所定の位置に移動させ、その梁の上を這って柱の方へ移動しているときに、柱が傾いて倒れたため、柱とともに11m墜落した。	30201	1～9
1999	2	9 ～ 10	個人住宅の外壁塗装工事現場で、高さ3.46メートルの下屋付近でウエスを使って塗料の拭き取り作業中に地上に墜落した。	30209	1～9
1999	6	11 ～ 12	砂防工事現場において、アンカー敷設のため削岩機を用いて法枠から法面に達する孔の穿孔作業を朝から行い、昼の休憩を取るために法枠上を降りようとしたときに、高さ約7.2メートルの箇所から転落した。	30108	1～9
1999	6	13 ～ 14	生ゴミ置場の屋根葺作業中に、風にあおられて屋根材のトタン板と一緒に約2.2m下のアスファルト面に墜落した。	30203	1～9
1999	6	16 ～ 17	高さ31mのビル屋上のパラペット脇の溝のゴミを取り除く作業を手すりの外側に出て行っていたところ、足を滑らして約27m下の1階底上に転落した。	80109	100 ～ 299
1999	7	13 ～	3階の梁上にいたとび工から「ボルトを取ってくれ」と声をかけられたので、下から手を伸ばしているるとび工にボルトの入った箱を渡そうとしたとき	11209	1～9

		14	に、約7メートル下の地面に墜落した。		
1999	7	15 ～ 16	法面に植栽してある高さ50センチの庭木の周りの草取り作業中、1メートル80センチのL型よう壁からアスファルト面に転落し、後頭部を打撲した。	60101	10～ 29
1999	8	10 ～ 11	建造中の自動車運搬船の右舷側の工事用出入り口となる部分(高さ2m, 幅1.9m)の扉の切断を行っていたときに、すべてを切断したために扉が外側に開き、そこから約8m下のドック底へ墜落した。	11501	300 ～ 499
1999	8	6 ～ 7	事業場の守衛が敷地(ビアガーデン)の草むしりをしていて、約4メートル下の河原に転落した。	10202	1～9
1999	8	9 ～ 10	建築工事で玄関部分を養生するため、足場と玄関の庇の間に約25cm間隔で鋼製布板(幅24cm)を45枚掛け渡し、番線で固定作業を行っていたときに、27枚目の布板と共に墜落した。	30201	1～9
1999	8	11 ～ 12	ホテルに新しいエレベーターを設置するため、4階エレベーター機械室のピットスラブコンクリートのはつり作業を行って、コンクリートガラを集めていたときに、足元のスラブコンクリートが抜け落ち、19.5m下のエレベーターピットに墜落した。	30309	10～ 29
1999	8	11 ～ 12	工場の天井裏にある空調ダクトの移設作業において、移設した空調ダクトのつなぎ目をボルト締めするため天井裏を移動中に、釣り木及び野縁がともに折れ約4.1m下に墜落した。	30309	1～9
1999	8	15 ～ 16	2棟の倉庫間の連絡用通路建築のため、ブラケット一側足場2層目の手すりと同建方中の鉄骨上に足を掛け、鉄骨もやを梁に設置する作業をしていたときに、地上約4.6m下に墜落した。	30201	1～9
1999	8	14 ～ 15	粉碎機の原料タンク内が空になったことを、センサーが検知し粉碎機の運転が自動停止したので、タンク内に入って、タンクの原料中に埋没した。	10909	1～9
		13	工場の新築工事現場において、2階南側の外壁用鉄柱(縦2.7m、重さ約		

1999	9	～ 14	130kg)の取り付け作業中に、約4.5m下の道路に鉄柱と共に墜落した。	30201	1～9
1999	6	7 ～ 8	ぎ装中のフェリーの空調ダクト工事のため、船に横付けされていた貨物船のデッキを経由してフェリーに渡しているタラップを渡ろうとしたときに、バランスを崩してタラップの手すりと通路の手すりとの隙間(116cm)から、船の間の海上へ後向きに転落した。	11501	1～9
1999	10	10 ～ 11	貸店舗新築工事現場において、高さ4.4mの鉄骨柱上で作業を行っていて、地面に墜落した。	30201	1～9
1999	11	13 ～ 14	高速自動車道の高架橋建設工事において、箱桁の内部に配水管を取付けるため墨出し作業で、墨出し糸の端を持って箱桁上を歩いていたときに、検査孔から18m下の箱桁支持用の支保工の基礎に墜落した。	30105	1～9
1999	11	13 ～ 14	生コンクリート工場において、高さ約8メートルの砂ビン内の砂の残量を確認していて砂の中に生埋めとなった。	10901	10～ 29
1999	3	9 ～ 10	産業廃棄物処理施設において、ガス冷却室(炉の燃焼ガスを水冷する施設)の側面のマンホールから上半身を入れて内壁の付着物を除去しようとして、冷却室内に約10メートルを落下した。	150102	10～ 29
1999	11	14 ～ 15	ビルの窓ガラスの清掃作業で、3階喫煙室の外側の窓を清掃するため左足を脚立にのせ、右足を高さ約1mの窓枠にのせてスクイズで水切り作業をしていたときにバランスを失い、高さ約7m下の屋外階段のコンクリート踊り場に墜落した。	150109	1～9
1999	11	8 ～ 9	ごみ焼却処理場において、ごみ収集車をピット前に車の後部で誘導していて、ピットの端からコンクリート製の底(深さ6.1メートル)に墜落した。	150103	1～9
1999	9	13 ～	公園の災害復旧工事現場において、道路脇法面の緑化ウォールをよじ登っていたときに下の道路上に墜落した。	30199	10～ 29

		14			
1999	12	8 ～ 9	鉄塔(完成時の高さ35メートル)の組立現場において、高さ約15メートルの箇所から墜落した。	30301	10～ 29
1999	11	0 ～ 1	砂利プラントのホッパー側壁の溶接補修作業が終了したので、ホッパー側壁をよじ登って外へ出ようとしたときに墜落ホッパー底部で頭を強く打った。	10909	10～ 29
1999	10	20 ～ 21	移動式クレーン(つり上げ荷重2.63t)を使用して、冷蔵庫(重さ100kg)を2階駐車場から吹き抜けを通して1階へ降ろす作業中、2階駐車場に居た合図者が手すり(高さ100cm)を乗り越え4.5m下に墜落した。	80209	1～9
1999	12	14 ～ 15	木造2階建住宅新築工事で、網戸取付け作業が終了したため、同僚が行っていたバルコニー手すり取付け箇所に立ち寄ったときに、仮止めしてあった手すりを押倒して高さ4.82メートルのバルコニーの床から地上に墜落した。	30209	10～ 29
1999	12	10 ～ 11	喫煙のため、8階の喫煙室に行き誤って窓から転落した。	170209	300 ～ 499
1999	4	14 ～ 15	町道の拡幅工事で埋戻し作業に従事していた者が場所を移動しようとしてガードレール基礎コンクリート上から足を踏み外し約1.6m下の側溝に転落した。	30106	100 ～ 299
1999	12	13 ～ 14	2階にある物置の内部造作のため、ベランダに梱包してある化粧合板(12枚束)の開封作業中にベランダの端から地上に墜落した。	11209	10～ 29
1999	12	17 ～ 18	研究室において、窓枠に上って窓を拭いていたときに、誤って墜落し、2階ベランダに激突した。	120109	100 ～ 299
1999	12	16 ～	橋梁の解体作業において、床板の張出部をコンクリートカッターで切断し、中央部をアンカーボルトで吊って玉掛け作業していたところ、床板を保持し	30105	10～

		17	ていたアンカーボルトが抜け落ち、床板と共に約6メートル下の川底に2名が墜落し、うち1名が死亡した。		29
2000	6	14 ～ 15	鉄骨平屋建駐車場の新築工事現場において、デッキプレートを敷設した屋根にコンクリートを打設するため外周にコンクリート止めの鉄板の溶接を行って2.8m下に墜落した。	30201	1～9
2000	6	14 ～ 15	架空地線の延線工事において、新設鉄塔(高さ58m)に架けた電線に難着雪リング等を取付けるため宙乗機に乗り込んだときに、宙乗機と共に約52m下の地面に墜落した。	30301	10～ 29
2000	9	13 ～ 14	マンション新築工事の完成検査のうち15階屋上で行われた消火栓水圧検査が終了したので20mのホースの後片付け中、43m下の駐車場に転落した。	30201	1～9
2000	1	10 ～ 11	無人のコイン精米機に溜まった糠を取り除くよう依頼を受け、単独で無人精米所へ向かったが、糠タンクと道路の間にある地面より1メートル程水面が下にあるコンクリート製の側溝内に倒れているのを無人精米所へ来た客が発見した。	80209	1～9
2000	11	11 ～ 12	膨張タンクの解体作業を電動工具で行っていたときに、ブレーカーが落ちたので、復旧するため電源のあるエレベーター機械室内を歩行中、口部から足を踏み外し約16.35m下に墜落した。	30302	1～9
2000	3	11 ～ 12	産業廃棄物の中間処理施設建設工事において、休憩後に外壁取付け箇所に戻ろうとして、深さ2.98mのコンクリート製中間処理槽に転落した。	30199	10～ 29
2000	4	0 ～ 1	深さ4.8mのマンホール内で電線管内部の清掃と導通試験を行っていて、昼食のためマンホールのタラップを昇って外に出ようとしたときに墜落した。	30199	1～9
2000	8	14 ～ 15	アンテナ設置作業の準備のため、2階屋上で同僚と2人で写真撮影をしていて、全体を写すためカメラのファインダーを覗きながら後ずさりをしていたときに、屋上のパラペットにつまづき8.5m下の地上に転落した。	30301	10～ 29

2000	2	13 ～ 14	新築工事現場において、屋上のペントハウスから吊るした親綱に固定していた幹線ケーブルを長さ30mのロープに移し替えて地上に降ろす作業をしていたときに、13階廊下の手すりを越えて36.5m下に墜落した。	30201	1～9
2000	3	16 ～ 17	事務所に附属する高さ約3.4mのベランダの端に温室の屋根と壁板を取り付ける作業で、温室側面のサッシと屋根の隙間に波板を取り付けるため床の端に脚立(高さ約1m)を置いて作業していてバランスを崩し地面に墜落した。	30201	1～9
2000	4	14 ～ 15	工場床面から走行車最下部までの高さが3.27mある走行車の上で作業して作業後昇降設備を使用せずに降りようとしたときに、80℃の湯が入っている槽(3.38m×0.6m×0.61m)に墜落し全身火傷を負った。	11209	10～ 29
2000	3	10 ～ 11	住宅屋上の防水工事で、共同作業者と2人で墨出し作業のためチョークラインの一方を持って後ずさりしたときにパラペットを乗越え高さ14.2メートルの屋上から墜落した。	30309	1～9
2000	8	15 ～ 16	トラックで荷物を運搬してきて荷降ろしを行うため、電源コネクタを持って電源ボックスに向う途中に高さ97cmのプラットフォームより転落した。	40301	50～ 99
2000	2	10 ～ 11	植込み作業の休憩時に飲む飲料水を買に行くため、幅37cmの植込みの縁を歩いていて吹き抜けになっている地下ピットに墜落(高さ5m54cm)した。	60101	1～9
2000	4	10 ～ 11	給水配管の取替工事で、塔屋屋上の給水配管の下見作業中に工具を取りに塔屋屋上から既設のはしごを降りていて高さ5mのところから墜落した。	30309	10～ 29
2000	9	19 ～ 20	屋上の雑草取りを行ってごみ袋に入れて屋上に置いたままにしていたが、夜になってから風が強くなってきたのでごみ袋が気になり、屋上に行って墜落した。	150101	100 ～ 299
2000	10	11 ～ 12	5階建ビルの窓ガラス清掃中、次の窓ガラスを清掃しようと移動をしたときに、約14m下の道路面に墜落した。	150101	50～ 99

2000	10	15 ～ 16	8階建ビルの外部窓ガラスをブランコを使用して清掃中、屋上の端でバランスを崩し、27m下の路上に墜落した。	150101	10～ 29
2000	12	14 ～ 15	鉄骨庇の改修工事で、屋根鉄板を解体した木毛セメント板に載ってしまい木毛セメント板(約60cm×80cm)を踏抜いて約6m下の地上に転落した。	30209	1～9
2000	12	0 ～ 1	立体駐車場で、クレーンを使用して内装材をパレット上(高さ約40m)に荷降し作業中に、パレットに偏荷重がかかり、荷取作業をしていた2人のうち1人は途中のパレット上に、1人が地上にあった装置上に墜落した。	30201	100 ～ 299
2000	12	13 ～ 14	午前中に倉庫工事現場の大掃除を実施し、昼食後に最終確認のため倉庫2階に上ったときに床部分より約4m下に墜落した。	30202	30～ 49
2000	2	10 ～ 11	休憩時間を終えて持場に戻ろうとした時に手袋を忘れたので取りに戻るときに、高さ3.25mの石積み天端の上を転落防護柵に捕まりながら移動していたら転落した。	30199	10～ 29
2000	6	10 ～ 11	建築資材置場で移動式クレーンを使用して建築物の棚の上に積まれたコンクリート・パネルを荷台に積込むため、玉掛作業を行っていて足を滑らせ約4m下に墜落した。(オーバーステイの外国人)	30201	1～9
2000	6	11 ～ 12	7階の窓ガラスの外側の清掃を、部屋の内側から手を伸ばして行っていて墜落した。	150101	50～ 99
2000	7	15 ～ 16	木造建築工事現場で、3階軒鉄骨梁部分と外壁端との間に金属製水切板を取付中に、約8m下の地上に墜落した。	30202	10～ 29
2000	10	15 ～ 16	住宅地で剪定後の切り枝などを集めて高さ115cmの生垣から約2m下の道路へ落としていたときに生垣を越えて道路へ墜落した。	60101	1～9

2000	12	13 ～ 14	3階建物に付設した荷取りステージにフオークリフトで運び込んだ荷を地上から3階荷取りステージに取り込むため、テルハクレーンの準備をしているときに荷取り込み口から7.35m下に墜落した。	170209	50～ 99
2000	3	14 ～ 15	鉄骨2階造増改装工事現場で2階床で間仕切壁の下地取り付けの作業をしていて、取り付けた胴縁(下地鋼材)をはしごの代わりに登っていたところ、胴縁の一本の溶接をし忘れていたため胴縁が外れ開口部から地面に墜落した。	30201	1～9
2000	7	16 ～ 17	民家の高さ約0.75mに作られた土止庭に植えられている庭木(直径約0.4mの玉ツゲ)の剪定を行っていたときに、足を滑らせて後方に転落し持っていた剪定鋏が右胸に突き刺さった。	60101	1～9
2000	5	9 ～ 10	鉄塔組立工事現場において、地上で鉄塔組立の作業指揮をしていた被災者は、部材の組立状況を確認するため、あらかじめ部材に取付けられていた長さ5mのキーロック式移動ロープにより順次確保しながら鉄塔を登っていたところ、地上から31メートルの地点で後ろ向きに倒れ、約2.1m墜落した地点で宙吊り状態になり、そのときに鉄塔の部材に激突した。	30209	50～ 99
2000	9	13 ～ 14	倉庫の解体作業で、高さ約1.6mのブロック塀に上り解体作業をしていたときに隣地の庭に墜落して頭を打った。	30209	1～9
2000	2	8 ～ 9	木造住宅の2階の入母屋のラス張り中に、1階の屋根から墜落した。	30202	1～9
2000	2	14 ～ 15	生コン製造プラントの貯蔵ビンの中で砂の上に立ちながら内壁を清掃していたときに、プラント2階にある操作室で出荷係がミキサー車に製品を積み込むためにボタン操作を行ったため、貯蔵ビンに溜まっていた砂が計量ビンへと移動し、蟻地獄となって砂に埋もれた。	10901	30～ 49
2000	6	5 ～ 6	ホテルの夜間警備で定期巡回中に、ホテル屋上から28m下の地上に墜落した。	170201	30～ 49

2000	5	17 ～ 18	製造設備の据付作業で、架台の作業床(高さ約5m・手すり無し)上でホッパー等を据え付ける作業を行っていてコンクリート床に墜落した。	30302	1～9
2000	7	15 ～ 16	RC3階店舗新築工事において、解体した型枠パネルを移動式クレーンで吊り上げ搬出するため3名で手渡しによる運搬集積を行っていたところ、立っていた基礎梁の上面(高さ88cm)の端から左足を踏み外して基礎から出ていた鉄筋に顔面から倒れ込み、鉄筋が左眼窩より頭蓋内に貫通した。	30201	10～ 29
2000	4	11 ～ 12	養鶏場内の鶏舎から他の鶏舎へ移動する際、鶏舎と飼料用タンクの間を通ろうとしたところ、飼料用のパイプに頭をぶつけてよろけ、約3.5m下のコンクリート製の溝に転落し、頭を強打した。病院に運ばれたが、脳挫傷で死亡した。	70101	1～9
2000	9	14 ～ 15	深礎工法による深礎杭建設工事で、深礎床の湧水除去のために設置された水中ポンプの点検のためフープ筋を足掛りに降りていく途中で墜落した。	30105	30～ 49
2000	3	10 ～ 11	鉄骨建方工事において、長さ約12mの柱鉄骨をクレーンで吊り上げて脚部をボルト締めしたのち、上部にあるクランプを外して鉄骨を降りようとしたときに鉄骨が倒れ、鉄骨とともに約12m下のコンクリート面に墜落した。	30201	1～9
2000	7	11 ～ 12	個人住宅新築工事現場において、2階ベランダ部で鉄骨梁材の配置作業中に3.2m下の地面に墜落した。	30201	1～9
2000	4	15 ～ 16	金属製単管を骨組みに使用したトタン張りの木材加工場の解体作業中に、高さ約3mのところで単管を運搬していて墜落した。	30202	1～9
2000	4	9 ～ 10	災害防除工事の検査前の準備作業(清掃)中に、道路の壁面約6.8mの犬走り(幅約45cm)上から墜落した。	30199	1～9
		8	事務所前の廊下で団体職員が廊下の窓を開けたときに、誤って窓から10m下		10～

2000	6	～ 9	の路上に転落した。	170209	29
2000	4	11 ～ 12	振動ミル屋根嵩上げ工事において、同僚と2人で振動ミルの上部に載って配管の支持金具の締め付け作業中に振動ミルの上部から墜落した。	30201	1～9
2000	6	11 ～ 12	8階建マンション屋上の高架水槽の点検中に約35m下の1階地面に墜落した。	150101	100 ～ 299
2000	7	14 ～ 15	野外コンサート会場の設営作業中、スピーカースタンドから14メートル下の地面に墜落した。	30209	10～ 29
2000	8	10 ～ 11	エレベータの定期点検で、エレベータ機械室(屋上)のカップリングゴム取替作業が終了し、機械室に居た責任者より復旧のため6階に停止中のかごに乗り込むよう5階に居た者に指示したところ、5階と6階を勘違いして5階の乗場扉を開けてしまいピットへ転落した。	11702	1～9
2000	4	9 ～ 10	2階の木製品加工作業所において、木製品から出た木屑の清掃作業を行って2階引き戸(181cm×110cm)から3.2m下の道路に墜落した。	30202	1～9
2000	5	11 ～ 12	橋梁修繕工事において、新しい欄干を取り付けるためのボルト穴を電動ハンマーで行っていて、次の箇所へ移動しているときに、橋上より川原のコンクリート部に墜落し、その弾みで川の中に転落した。	30105	1～9
2000	6	16 ～ 17	増築工事で搬入した窓サッシ枠を手直しする作業中に、バランスを崩し、窓サッシが仮付けだったため窓サッシもろとも約5m下に墜落した。	80203	1～9
2000	8	9 ～ 10	草刈り作業中に、高さ約5mの石垣上から下方の側溝に転落した。	150101	10～ 29

2000	8	13 ～ 14	高さ約18mのパチンコ店の広告塔の内部において、付着していた鳥のフンを取り除くため広告塔下面の鉄板に足を乗せたところ、鉄板に穴が空いてそのまま地面まで墜落した。	30309	1～9
2000	11	13 ～ 14	住宅の庭木の剪定作業において、ブロック塀(高さ約2m)の上で木の枝(高さ約3.5m)を鋏で剪定しているときに、墜落した。	60101	1～9
2000	10	11 ～ 12	解体するコンクリートプラント上に登って上部に設置された小屋の柱を焼き切り、プラント上で状況の確認をしていたときに突然小屋が崩れ落ち、小屋と一緒に5.6m下の地面に墜落した。	30209	10～ 29
2000	8	10 ～ 11	野外ステージの鉄骨建作業中、鉄骨のボルト1本がうまく入らないので、同僚と鉄骨にまたがってボルト穴にバールを差し込んでボルト穴合せをしようとしたときにバールが抜け、その反動で鉄骨から6.85m下のコンクリート床に墜落した。	30201	1～9
2000	10	16 ～ 17	民家のブロック塀を取り壊す作業中に、塀脇の水路内の犬走り上(幅約60cm)へ転落した。	30209	1～9
2000	10	9 ～ 10	木造平屋の瓦葺き替え工事のため、瓦を撤去開始前に大屋根にスタンション手すり及び養生ネットを取り付けているときに、1.6m下の下屋に墜落し、その後3.1m下の地面に墜落した。	30202	30～ 49
2000	10	18 ～ 19	物品搬入搬出用ステージに開閉式の手すりを設置するための蝶番を取り付け作業を行っていて、仮設手すりの中さんとステージ床面の間隙から7.6m下の地面に墜落した。	30209	1～9
2000	9	10 ～ 11	配筋作業を行うため同僚らの最後尾で作業場に登ったのち、同僚らが町職員による鉄筋の組立検査を見ているときに橋台から7.2m下の砂利地面に墜落した。	30105	1～9
2000	2	11	テニスコート斜面の草刈り作業において、休憩後、現場までの約50mを移動中に傾斜角30度のコンクリート斜面上でスパイク足袋のスパイクが滑って転	160101	10～ 29

		12	倒し、斜面を約4m滑落したあと約1.6m下の同コート面に墜落した。		
2000	3	10 ～ 11	砂防堰堤工事において、型枠盛替のためダムフォームのスライド作業中に、ダムフォームを吊り下げていた三脚チェーンブロックの頂部固定用のロープが切断し、ダムフォーム上で作業中の者がダムフォームとともに約6m下に墜落した。	30108	30～ 49
2000	7	14 ～ 15	鉄骨造建築工事において、3階の鉄骨梁上で手すり固定用の鞘管を溶接していたときに、バランスを崩して12m下の地面に墜落した。	30201	10～ 29
2000	3	6 ～ 7	生コンクリート製造プラントの始業前点検作業中に、高さ約23mのプラント屋上から転落した。	10901	50～ 99
2000	5	15 ～ 16	高圧送電線鉄塔の防錆塗装工事において、準備作業として支柱に登り塗料の飛散防止ネットの固縛作業中に、地上約13mの所から墜落した。	30209	1～9
2000	7	14 ～ 15	ビル外壁改修工事において、高さ約8mの3階テラス上で足場の組立作業を行っていてテラス上から墜落した。	30209	10～ 29
2000	12	14 ～ 15	地上10階建マンションの外壁補修工事において、最上階出窓上の庇または足場の最上層で、外壁の防水塗装作業中に約28m下に墜落した。	30201	0
2000	12	13 ～ 14	自動車道の路肩の土止めブロックに積もったコンクリート破片等を取り除くため、ブロック法面を親綱を使い下っているときに滑って転落し、約4m下の木製防護柵で胸及び腹部を強打した。	30105	30～ 49
2000	9	17 ～ 18	緊急地すべり対策の工事で、同僚二人で作業が終了した既設集水井(外径3.52m、深さ12.8m)の金属製の蓋(半円形で半径1.8m、質量約230kg)を、既に設置していた同型の金属製の蓋に乗って人力で引き寄せようとしていたところ、引き寄せていた蓋が既設集水井の中に落ち、同時に既設集水井	30199	10～ 29

			の中に墜落した。		
2000	6	18 ～ 19	自社ビルの屋上駐車場から同僚の車を昇降設備で降ろすため、搬入口を開いていたとき、搬入口から昇降路内を7.65m下へ墜落した。	80109	10～ 29
2000	11	8 ～ 9	コンクリート造の堤防の天端を資材(重さ3kgの鉄筋)運搬中に転倒して法面を転落し、溜池(水深4.5m)で溺死した。	30199	30～ 49
2000	6	10 ～ 11	ブレーカーの点検修理で、故障原因と思われる建物外のひさし(幅75cm、長さ230cm)に設置されているクーラーの室外機を点検するため4階の窓からひさしに乗り移ろうとしたときに11m下に墜落した。	30301	10～ 29
2000	7	13 ～ 14	芝生張り替え工事において、張り替え済みの芝生に土をかけて均す作業を行っていたときに、天端付近から約5m下のコンクリート面に墜落した。	30199	10～ 29
2001	1	11 ～ 12	倉庫出入口のオーバースライダー(高さ4.7m、横5.1m)が上がらなくなったので、壁を昇って不具合を直して降りるためスライダーの上部を移動しているときにコンクリートの床面に墜落した。	40301	30～ 49
2001	1	11 ～ 12	国道の除雪作業において、抗門の上部に上がり(高さ約10m)スコップで除雪を行っていて道路に転落した。	30106	100 ～ 299
2001	1	0 ～ 1	昼休みを終えて作業場所である台船上の新造船船首付近の甲板上に移動するため、仮通路(アングル鋼材4本からなる)を通っていたとき、通路上に仮置きされていた本通路の部材が倒れたため、約16m下のコンクリート路面に墜落した。	11501	10～ 29
2001	1	16 ～ 17	造船所内の船台において、新造のコンテナ船の後部甲板上に艀装品を設置する作業のため仮付けされていた手すりをガスバーナーで取り外して、誤って約14m下の船台床に墜落した。	11501	1～9
		16	主変圧器放圧板破壊装置などの修繕工事において、最上部の気体検出器を取		10～

2001	1	17	り替えるための足場組立てているときに、既設配管の傾斜上部から滑り、さらに主変圧器の作業床端部から5.4m下のコンクリート床に墜落した。	30301	29
2001	1	8 ~ 9	工場2階のデッキ(4.05m×87cm)からコンプレッサーのコードを地面に垂らす作業を行っていて、3.95m下に墜落した。	10701	1~9
2001	3	6 ~ 7	破砕機で廃プラスチックの破砕作業中に、ベルトコンベヤーの覆いである鉄板の上に上がって点検口から廃プラスチックの流れを見ていて4.4m下の地上に墜落した。	11001	50~ 99
2001	3	15 ~ 16	貯水池の擁壁嵩上げ工事において、貯水池の縁でコンクリートのガラ片付け作業を行っていたときに、足を滑らせて手すりのない階段を1.6m転げ落ちたのち4.9mの高さから水を抜いた貯水池の底面(コンクリート面)まで墜落した。	30199	1~9
2001	4	9 ~ 10	玉石垣(たまいしがき)上の樹木の剪定作業中に、樹木または玉石垣から墜落した。	30309	1~9
2001	4	10 ~ 11	高架橋工事で路盤のコンクリート打設作業で、コンクリートバイブレーターの補助作業を行っていた者が型枠の端部から2.2m下のコンクリート製の橋脚天場に落ち、さらに手すりの下をすり抜けて、5.17m下の地面に墜落した。	30105	1~9
2001	1	11 ~ 12	事務所棟の新築工事において、玄関車寄せの底に設けられたトップライト(明かり取り用窓)のガラスシールを行っていて、ガラスを踏み抜いて6.2m下のコンクリート面に墜落した。	30201	50~ 99
2001	2	11 ~ 12	鉄骨の建方作業で、ラフタークレーンで吊り上げた梁を躯体に仮留めする作業を行っていて18m下の地上に墜落した。	30201	10~ 29
2001	4	11 ~	高さ10.5mの常設作業床で鉄鉱石運搬用コンベアの駆動部プーリの上に設置する屋根(落下する鉄鉱石からプーリ部を保護するための屋根)の取付でガ	11702	10~

		12	スの炎で熱した鉄棒で屋根の両端に設置されるゴム板に設けられた切込みを広げていたときに作業床の端から地上に墜落した。		29
2001	4	10 ～ 11	推進工事の発進立坑において、騒音防止のための防音壁(天井付)を解体し、外したパネルを防音壁の屋上で運搬中に歩いていたパネルが外れ、パネルとともに約15m下に墜落した。	30201	1～9
2001	5	17 ～ 18	所定の終業時刻を過ぎたので高さ約7.7mの明かり取りの窓を閉めるため柱と直角に約60cm間隔で設けられている部材を壁伝いに上っていて滑り落ちた。	11209	30～ 49
2001	4	22 ～ 23	ピット内において配管部品等の定期整備を行っていて、休憩のため既設タラップを使用して昇っていたときにピット内に墜落した。	170209	10～ 29
2001	3	10 ～ 11	引越し作業において、タンスの2個所にロープを掛け2人作業で2階窓から吊り降ろす作業を行っていたところ、2階の窓枠が外れたため、バランスを崩してタンスとともに約2.5m下の地上に墜落した。	40301	10～ 29
2001	2	11 ～ 12	家屋解体工事で、隣接家屋を破損させないように古い防波堤の上に立って合図を行っていたところ、足を滑らして転落し解体中のコンクリートブロックに頭を強打した。	30209	1～9
2001	5	14 ～ 15	コンクリート製造プラントの山砂用貯蔵槽の内部に付着した砂のかきだし作業を行っていたところ、排出される砂の動きに巻込まれ全身が埋没した。	10901	1～9
2001	2	14 ～ 15	道路改良工事において、法面保護のために木柵の苗木植生作業中に、足を滑らせ7m下の県道に転落した。	30106	10～ 29
2001	5	18 ～ 19	建売住宅建設現場において、既に納入されている建材を建屋の2階部分に上って確認し、降りようとしたときに地面まで墜落した。	80109	30～ 49
		15	建築中のマンション7階バルコニーにおいて、ワイヤーメッシュの寸法切り		50～

2001	5	～ 16	を行っていて躯体側の吹き抜けから14. 2m下の2階バルコニーのコンクリート床上に墜落した。	30201	99
2001	5	13 ～ 14	天井裏に置かれていたダンボールを取りに行き、天井裏石膏ボードを踏み抜いて4.2m下の1階コンクリート床面に墜落した。	80209	1～9
2001	5	14 ～ 15	モルタルを吹き付けた高さ22mの法面に落石防止用養生ネットを貼る作業において、養生ネットの上部を固定するため既に貼り終えたネットを登っているときに法面上部から墜落した。	30108	10～ 29
2001	6	10 ～ 11	分譲リゾートマンション6階の共用通路において、居室の窓の汚れを通路側からウエスで拭きとっていたときに、手すり(高さ約1. 1m)を乗り越えて、約15. 5m下のマンション中庭部分に墜落した。	140101	50～ 99
2001	1	16 ～ 17	電話引込み線の取り付け作業で電話本線ケーブルが配架された電柱に長さ2. 48mの脚立を立てかけ昇柱したときに道路に墜落した。	30301	10～ 29
2001	6	10 ～ 11	地下2階において高さ約1. 7mの脚立を使用し、約2. 7mの高さにある給水管と滅菌槽をつなぐバルブの修理をしていて脚立より墜落した。	150101	10～ 29
2001	6	7 ～ 8	イカ釣り漁船からイカの荷受け作業をしたのち、タコの荷積作業を開始することになっていたが姿を見せなかったため付近を捜していたところ、テトラブロックの間で溺死体となっていた。	170209	50～ 99
2001	7	8 ～ 9	砂防ダム建設工事において、ダム堤体となる鋼矢板を打ち込むための準備作業中に鋼矢板上部付近に立て掛けられた梯子から約5m下の地面に墜落した。	30108	50～ 99
2001	1	10 ～ 11	バキュームカーで簡易浄化槽の汲取り作業のため徒歩で汲取り宅に向かっていて道路側溝に転落した。	150109	10～ 29
		16	乗った取付けている住宅建築工事で、二階で作業中に根太が折れたため		30～

2001	6	～ 17	3. 42m下に墜落した。	30202	49
2001	6	～ 18	雨水ポンプ場の新築工事において、足場に荷取構台を組み立てるため鋼製足場板を支持用単管パイプに番線で結束しているときに約5m下の敷鉄板上に墜落した。	30201	50～ 99
2001	7	～ 11	10 校舎屋上防水工事において、既存の防水層の撤去作業に使用するエアーチップ(はつり機)のホースを取扱い中に屋上より約16m下の地面へ墜落した。	30309	1～9
2001	7	～ 12	11 高等学校の消防用設備等の点検作業で講堂内の消火器の点検のためコンクリート床面から吊天井に乗り移ったときに天井材を踏み抜き高さ11m下の1階床面へ墜落した。	170209	10～ 29
2001	4	～ 10	9 3階建建築物の非常階段設置作業において、地上から電気コードリールを持って上がっていたときに3階踊り場(高さ約10m)に床板を張っていなかったため、その開口部から墜落した。	30201	10～ 29
2001	8	～ 16	15 木造家屋住宅の2階部分の解体工事において、2階の梁上を移動中に天井板に乗ってしまい、天井板を踏み抜いて4. 8m下の階段に墜落したのち1階床まで階段を転げ落ちた。	30202	1～9
2001	7	～ 16	15 亜鉛めっき工場において、フラックス槽からクレーンで引き上げたフラックス処理済みの製品(荷)を槽脇の置場に降ろそうとしていたところ、荷の付近にいた者と荷が接触したため約90℃のフラックス槽に転落し全身火傷を負った。	11204	30～ 49
2001	3	～ 12	11 CATVケーブルを一般家庭に引込む工事で、ケーブルを電柱に固定する固定金具を取付けるため電柱に登っているときに、約6m下のアスファルト道路へ墜落した。	30301	1～9
2001	8	～ 12	11 LPGタンカーの船倉内で清掃と塗装の補修作業を行い、昼の休憩のため、船倉内より上甲板に上がっていく途中6m前後の高さから船底に墜落した。	11501	10～ 29

2001	8	11 ～ 12	小学校の校舎3階の窓を窓枠の外側に立って清掃していて、足を滑らせ高さ8.7mの箇所から地上に墜落した。	150101	50～ 99
2001	9	15 ～ 16	廃止した浄化槽に砂を入れるため上部床をコンプレッサーでハツリ作業を行っていたところ、乗っていた床が傾きながら浄化槽内に転落(約2.3m)したため同時に浄化槽内に落ち、落ちてきた床板の下敷きになった。	30309	1～9
2001	8	10 ～ 11	工場のタンク等の増設工事において、高さ8.1mの鉄骨上作業床の端から地上に墜落した。	30302	1～9
2001	9	10 ～ 11	電気通信設備の新設工事において、地上約40mの鉄塔上でトルクレンチを使用してボルトの本締め作業をしていて墜落し、途中、地上27.5m付近にある踊り場で一旦引っ掛かり止まったが墜落に気付いた同僚達が救出のために移動している最中に地上まで墜落した。	30301	30～ 49
2001	10	12 ～ 13	軌道道床のつき固め作業中、列車接近で待避命令が発出されたことから県道の跨道橋部に待避したときに、跨道橋と隣接する公道間52cmの隙間から約7m下の県道上に墜落した。	30104	10～ 29
2001	10	15 ～ 16	トンネル坑口前の道路保護用仮設覆工の解体作業の前作業として覆工上面に敷並べてあった緩衝材のEPSブロック(発泡スチロール重さ20kg/個)を撤去する作業をしていたときに、覆工と落石防護柵の隙間(約50cm)から約5.3m墜落し、頭部を道路面に強打した。	30199	50～ 99
2001	10	10 ～ 11	ホテルの外壁塗り替え工事において、ホテル4階の客室窓ガラス外面に付着した汚れを拭き取る作業中に、約10m下の玄関前の大理石盤上に墜落した。	30209	1～9
2001	9	0 ～ 1	11階建のビル新築工事において、移動式クレーンで鉄骨組立てを行っていて鉄骨柱頂部の玉掛用具を外そうと鉄骨柱に取付けられた昇降用タラップを昇っているときに、手を掛けたタラップの溶接部が外れ、部材とともに約20m下の1階スラブ上に墜落した。	30201	1～9

2001	10	11 ～ 12	工場の増築工事において、外壁を取り付けるための下地となる胴縁を鉄骨柱に取りつける作業を行っていて鉄骨梁の上から13.4m下に墜落した。	30201	10～ 29
2001	10	18 ～ 19	テレビ番組撮影のための舞台セットであるアーチ型トラス(高さ3m16cm、重さ約125kg)の転倒防止用ワイヤーのアーチ上部への取り付けで、まだ固定されていないトラスに昇降設備を使用しないでよじ登ったとき、アーチ型トラスがバランスを崩して転倒し下敷きになった。	100101	10～ 29
2001	10	15 ～ 16	4tミキサー車を再生骨材製造ピット進入用のスロープ(勾配10度)の中央付近に停車させ、スロープ下に停めてあった11tミキサー車へシューターを使って残生コンの移替え作業を行う準備作業を行っていたときに、バランスを崩してスロープ端部から高さ3.2m下のコンクリートの地面に墜落した。	10901	10～ 29
2001	10	13 ～ 14	7階建ビルの外窓清掃作業中に、作業箇所を移動するためブランコを取り付けるロープ先端のフックを付け替え、作業を開始しようとしてビル屋上のパラペット上に乗り身体を傾けたところ、フックがかかっていなかったため約25m下にブランコとともに墜落した。	150101	10～ 29
2001	11	14 ～ 15	緩速ろ過方式の調整池内において、整流板の向こう側にある幅10cm程度のタイル上で整流板につかまりながら約90cm先の壁面をデッキブラシで清掃していたときに、あやまって2.7m下の調整池底部に墜落した。	11603	30～ 49
2001	10	16 ～ 17	法面の緑化工事において、当日の作業が終了し打合せを行うため集合したところ、1人が来ていなかったため捜したところ、擁壁(高さ約5.2m)の下に倒れているのを発見した。	30199	10～ 29
2001	11	11 ～ 12	6階建ビルの5階セットバック部分で植栽の剪定作業中に、植栽のツタに足を絡ませてバランスを崩し、3.18m下のテラスに墜落した。	60101	1～9
2001	11	16 ～ 17	破砕機のホッパーに詰まった原石をブレーカー(機体質量23.64t)で小割りする作業をブレーカーの旋回範囲内で見ていた。ダンプ運転手を旋回範囲外へ退避させようとしていたときにブレーカーが左旋回してきたためバランスを崩した2人のうち1人が擁壁上から6.6m下に墜落した。	20201	10～ 29

2001	11	0 ～ 1	リゾートマンションのエントランス部の立木に取り付けられた電飾を取り外す作業で、擁壁上から杭上へ飛び降りたときにバランスを崩して杭から墜落し、頭部を強打した。	30201	30～ 49
2001	12	10 ～ 11	倉庫の2階に置いてあるロッカー(重さ約40kg)を搬出するため、2階からロッカーを手渡しでトラックの荷台に降ろすときに手すりが壊れてロッカーとともに、2. 95m下のコンクリートの床面に墜落した。	30111	30～ 49
2001	12	13 ～ 14	建屋の外部通路を移動中に約15m下の地面に墜落した。	30199	30～ 49
2001	12	10 ～ 11	鉄骨造9階建ホテル建設工事において、移動式クレーン(16t)で床配筋用金網1束(質量0. 8t)を3階に取り込むときに吊荷の奥左角を手摺単管に押し当て右手前を躯体方向へ引張ったところ、手摺単管のベース金物が破損して支えを失った吊荷が回転して左側で作業指揮と合図を行っていた者にあたり、3階(高さ約8m)より墜落した。	30201	1～9
2001	12	16 ～ 17	総合老人福祉施設の5階エレベーターホールの窓ふき作業中に18m下の地面に墜落した。	150109	10～ 29
2001	12	10 ～ 11	工場の増築工事において、前日の夜間作業に使用した高さ約4. 5mの位置に取付けてあった投光器を取り外して胴縁を伝って降りるときに転落した。	30201	1～9
2001	12	13 ～ 14	鉄塔の鋼管部材の接合部分のき裂、損傷の点検(目視確認)中に、地上約25mの高さに位置する水平材上から墜落した。	30309	50～ 99
2002	1	2 ～ 3	焼石灰製造ラインの夜間パトロール中に発見したベルトコンベアーのリターンローラーの修理をしていたときに、開口部から墜落した。	11009	100 ～ 299
		16	7階の外部に面した柱の型枠を解体するため、建築物の床の端部に設けられ		

2002	1	～ 17	た手すりの上に乗って作業していて、22.5m下の地面に墜落した。	30201	1～9
2002	2	9 ～ 10	新規入場者に1階から上の階へ順に現場案内を行った後、5階北側のベランダの状況確認中に墜落した。	30201	300 ～
2002	2	11 ～ 12	産業廃棄物処理施設工事において、床板取付け作業中にチェーンブロックで仮吊り（1点吊り）されていた床板上に乗ったため、床板が傾いてコンクリート土間に墜落した。	30302	10～ 29
2002	2	10 ～ 11	茶畑の防霜ファン修理のため、鉄柱に登って防霜ファンを取外中に約7m下に墜落した。	80209	1～9
2002	3	14 ～ 15	リサイクルラインの配管が詰まったため、フォークリフトを配管の下に配置してパレットを刺したフォークを上昇させて高さ3.8mのところに固定し、パレットの上で詰まりを取る作業中にパレットから転落した。	10909	10～ 29
2002	3	10 ～ 11	産業廃棄物処理場の満水になったピット（直径1.4mの円筒状で深さ2.1m）の清掃のため、蓋（格子状、質量70kg）を開けようとしたときに蓋もろともピットに墜落した。	150102	10～ 29
2002	3	9 ～ 10	マリーナ内のマンションの管理員がガス管交換工事の写真を写すため、マンションの屋上に上がってパラペット（高さ約50cm）から身を乗り出す形で地上で行われている工事の状況を撮影していて30m下の地面に墜落した。	170209	30～ 49
2002	3	13 ～ 14	雨水調整池内の換気設備設置工事において、調整池の上段梁で足場を組み立てる作業中に足場作業床より足を踏み外して、約16m下の調整池の床に墜落した。	30302	10～ 29
2002	4	14 ～ 15	水路岸のコンクリート法面（傾斜角35度）の除草作業で、水路内外を隔てる柵の外から草を受け取るためガードレール支柱と柵にそれぞれ足をかけて水路側へ身を乗り出したときに、水路側へ墜落し約3km下流で発見された。	30106	30～ 49
		16	液体酸素充填場において、ボンベに液体酸素を充填し95cm下の舗装された		30～

2002	4	17	地上へ移動させる作業中、墜落して左側頭部を強打した。	80109	49
2002	3	19 ～ 20	染色する巻糸（1本の径18cm、厚み15cm、質量1150g）を倉庫から取り出す作業で、自動化された床上型スタックークレーンを使用せずに昇降設備のないラックを登っていて、高さ約7.3mから地上コンクリート面に墜落した。	10204	50～ 99
2002	4	13 ～ 14	鉄筋コンクリート造2階建て住宅の幅約50cmの1階ひさし上において、外壁のエアコン用ダクトの取外し作業を行っていたときに、高さ約3.6m下のタイル床面上に転落した。	30302	1～9
2002	4	9 ～ 10	ホテルの4階客室のガラス窓をスクイジ（窓を拭くT字の器具）を用いて拭く作業で、窓から外に出て約1m離れた外部柱と躯体を繋ぐコンクリート梁（幅70cm）に移り作業を行い、客室内に戻ろうとしたときにバランスを崩し9.8m下の地面に墜落した。	150101	300 ～ 499
2002	5	21 ～ 22	立体駐車場において、管理人が所在不明となったので整備業者らが搜索していたところ、地上階と地階をつなぐハシゴの直近で地下4階（最下階）床面に倒れているのを発見した。（客が落とした眼鏡を回収するためハシゴを昇降していたと推定される。）	80109	10～ 29
2002	6	14 ～ 15	電柱の頂部の「腕金（うでかね）」及びその他の金具を交換するため、電柱に昇り腕金に安全帯を取り付け身体を支えたが作業中に腕金が水平に倒れたため、安全帯が腕金から外れ高さ6mの位置から地面に墜落した。	30301	1～9
2002	6	14 ～ 15	マンション（11階建）の9階の窓清掃作業で、支障となる網戸を取り外すため窓をまたぐ姿勢で網戸を取り外していたときに、約24m下の植え込み部に墜落した。	150109	1～9
2002	6	14 ～ 15	地上4階地下2階のダム管理事務所の改修工事において、足場の仮設配電盤の撤去作業を行っていて作業床から16m下の基礎部分に墜落した。	30301	1～9
2002	6	15	就業時間終了後、事務所内で休憩するため床上82.5cmの高さにある窓枠に腰をかけたとき、開放していた窓から20.2m下の駐車場に墜落した。	80209	10～ 29

		16			
2002	6	9 ～ 10	構内にある山砂貯蔵ビンの内壁に張り付いた砂を取り除くため、ビンの内部に入り鉄棒により突く作業をしていたところ、張り付いていた砂がはがれて落下し生埋めになった。	10901	10～ 29
2002	7	10 ～ 11	8階建マンション屋上の防水工事において、防水テープの増し張りを行っていた者が休憩中には約20m下の地面に墜落した。	30209	1～9
2002	12	15 ～ 16	7階建の工場棟建築工事において、仮止めのため高さ17.9mの地点で胴縁の取付作業を行っていたところ、足を掛けていたと思われる下から15本目の胴縁がピースから外れたため地面に墜落した。	30201	10～ 29
2002	7	11 ～ 12	エアコン取り替えのため、古いエアコンの配管の切断を行い新しい配管を接続する作業中に、手すりから5m下の地面に墜落した。	80209	1～9
2002	7	14 ～ 15	エレベーター（積載荷重：600kg）の増設で、最上層の角パイプの胴縁（10cm角、長さ：450cm）を取付けるため梁上で胴縁の片側をボルトで取付けたのち別の側のボルトを取り付けていたときに、バランスを崩して胴縁とともに建屋からせり出し、胴縁の端につかまっていたが力尽きて16m下のコンクリート上に墜落した。	11209	1～9
2002	7	13 ～ 14	陸に揚げた定置網にシートを被せるため、防潮堤上（幅50.5cm）に上がって作業中に4m下の砂浜に墜落した。	70201	10～ 29
2002	8	10 ～ 11	4階建てマンションの鉄骨組立て作業で3階部分の鉄骨のボルト締め作業中、床に墜落した。	30201	1～9
2002	8	15 ～ 16	団地の防水工事の見積もり作業のため4→2→1→3号棟の順に屋上の屋根の亀裂の確認作業中、3号棟の住宅屋上（4階建て）で墨だし作業中に高さ12.05mの屋上から地上へ墜落した。	30203	1～9

2002	9	11 ～ 12	6F建パチンコ店及び駐車場の新築工事において、屋上部分の墨出し作業を電気工事士が行うために仮置きされていたデッキプレートが作業の邪魔になるので移動していたときに、敷設されていた屋上デッキプレートの端（地上約24m）から3階部分（地上約7m）まで墜落した。	30201	1～9
2002	8	7 ～ 8	2階から1階玄関エントランスにせり出している段飾り（2段）内にある植木鉢の清掃と水遣り作業中、上段から下段に移動しようとして約4m下の1階フロアに落下した。	150101	100 ～ 299
2002	9	12 ～ 13	電気炉で銑鉄等の溶解作業中に、電気炉のあるステージから回収くず置場の鉄材の上に墜落（高さ1.65m）した。	11002	30～ 49
2002	9	13 ～ 14	菓子製造工場2階の廃ダンボール搬出用扉の前で廃棄ダンボールの荷造り作業中、50cmほど空いていた扉から約3m下のアスファルト道路に転落し頭頂部を強打した。	10104	10～ 29
2002	9	13 ～ 14	公園内に設置されていた高さ3.4mの藤棚の上で、藤の剪定作業を行っていた藤棚の端部から地上に転落した。	160101	300 ～
2002	10	9 ～ 10	スキー場のゴンドラリフト頂上駅新築工事において、ゴンドラリフト押送装置を設置するため駅構内の高さ約4.5mに設置されたH鋼（幅30cm）上を歩いている間に墜落した。	30302	10～ 29
2002	10	0 ～ 1	セメントサイロ（直径21m、高さ26m）の内部清掃作業で、サイロ中央部の排出口横のセメント排出作業中に高さ約3mのシュート内に転落し窒息死した。	170209	10～ 29
2002	11	16 ～ 17	病院のトイレ専用棟の増築工事において、トイレ専用棟の鉄骨にデッキプレートを設置するため、鉄骨の外部に取り付けた昇降用タラップを移動中に約13m下のコンクリートの階段に墜落した。	30201	1～9
2002	8	13	4階建物の新築工事において、鉄骨組立終了後のボルト締めのため、ボルトの入ったダンボールを担いで4階の東側に設置されていた階段から降りる途	30201	1～9

		14	中で階段下のデッキプレートを布設していない箇所から地面に墜落した。		
2002	11	15 ～ 16	鉄骨6階建の構造補強及びエレベータの新設工事において、エレベータ・シャフトの上端（地上1570 c m）の鉄骨梁上で鉄骨の溶接作業中、バランスを崩して1680 c m下の地下エレベーターピットに墜落した。	170209	1～9
2002	11	16 ～ 17	木造3階建て分譲住宅の建方作業で、屋根の下地を張る作業を終了して片づけをしているときに、3階屋根より約9m下に墜落した。	30202	30～ 49
2002	12	8 ～ 9	8階建てマンションの屋上塔屋塗装工事において、塔屋下のマンション屋上の端で塗料飛沫の拡散防止用養生シートの設置作業を2人で行っていて、一人が屋上の端から約23m下のアスファルト舗装の駐車場に墜落した。	30209	1～9
2002	12	11 ～ 12	6階の柱の建て方を行ってその後6階の孫梁を納めていたところ、同僚の側のボルトが入り難い状態になったので、応援するため建て方の終わった小梁上に左足をかけたときに、足を滑らせて約7m下に墜落した。	30201	1～9
2002	12	15 ～ 16	作業場の1階床面に従業員が仰向けに倒れているのを、通りかかった隣の事業場の従業員が発見した。	30209	10～ 29
2002	12	11 ～ 12	川に架かった水管橋の上で、塗装工事用の足場設置のための親綱を張っているときに、水管と作業通路を結ぶ鉄骨の開口部から約13m下の地面に墜落した。	30209	30～ 49
2002	10	13 ～ 14	建造中のコンクリート水槽の上を歩行中、開口部より4m17 c m下の水槽のコンクリート底に墜落した。	30110	1～9
2002	10	16 ～ 17	水路工事において、村道の片側通行の交通誘導を行っていた者が誘導場所から離れて掘削溝（幅約4m、深さ2.7m）に転落した。	170201	30～ 49
2002	11	8 ～	木造平屋建住宅の解体工事において、トタン屋根の雪下ろしをしていたときに、足を滑らせて屋根から2.4m下に墜落した。	30202	1～9

		9			
2002	12	11 ～ 12	公園の樹木の剪定作業中、足場としていた石垣の上で躓いて1m下の石畳通路に転落し、そのとき使用していた剪定バサミが左上腕に刺さった。	60101	1～9
2002	12	9 ～ 10	家庭の排水を流し込むマンホール（内径40cm、深さ1.1m）の中に頭から上半身を入れて、マンホール底の家庭排水管（塩ビ製直径15cm）と町下水管との接合部周囲にモルタルを手作業で盛っていたときに、頭からマンホール底に落ち込んで自力で脱出できなくなり、もがいているうちに力尽きた。	30110	1～9
2002	12	10 ～ 11	砂防ダム建設工事において堤体横の盛土に芝張作業中、芝のシートを取りに行くため擁壁の天端脇を移動していて、高さ2.65mのところから擁壁下の川床に墜落した。	30107	1～9
2002	9	8 ～ 9	岸壁の車止めで休憩中に、岸壁から2.6m下の海面に転落し溺死した。	80401	10～ 29
2002	7	15 ～ 16	鉄骨造の病院新築工事において、玄関の底部材であるチャンネルを取付けるボルトを締めしようとしたときに、高さ4.46mの鉄骨上から基礎のコンクリート床へ墜落した。	30201	1～9
2002	10	15 ～ 16	事務長が看護師寮を覆っている蔦を除去するため、建物周囲の高さ3.6mの石垣に上がっていてバランスを失い墜落した。	130101	30～ 49
2002	11	14 ～ 15	路上犯罪等防止の巡回パトロールで国道を走行中、橋上から約65m下の沢に墜落した。	170209	30～ 49
2002	12	15 ～ 16	鉄骨平屋造り社屋の新築工事において、左足を鉄骨にかけて2階床の根太取り付け作業中に、足が滑って約3m下のコンクリート床に墜落した。	30201	1～9
		10	年末年始の休暇期間中に構内を巡回していたところ、循環ポンプのバルブの		

2003	1	11	パッキンが破裂しているのを発見しパッキンの交換作業をする前に、高さ5mのところにあるケーブルラック（幅40cm）に上がって元バルブを閉止しようとしたときに、積雪により足元が滑り5m下の構内道路に墜落した。	10899	30～ 49
2003	1	3 4	配送先へ向かうためトラックで走行中、交通上のトラブルがあって2人組の乗用車に追跡され、国道の橋上で停車させられ、その後、トラックから降りて逃げる際に橋から約11m下に墜落した。	40301	10～ 29
2003	1	21 22	ビルの6, 7階バルコニーのコンクリート仕上げ具合を点検するため、7階西側バルコニーの外側にあたるひさしの端を通行中に、約17m下の地上に墜落した。	30201	1～9
2003	1	13 14	コンテナ倉庫上（高さ約2.7m）での資材整理で、木材（3cm×6cm×4m）を引っ張りあげようとしたときに、小雨で濡れていたコンテナ上で足を滑らせて地上に落下した。	30209	1～9
2003	1	11 12	2階建て住宅新築工事現場において、2階部の柱間に設置されていた間仕切壁取付け用の下地材（10cm×10cm角鋼管）の上から約3.8m下へ、または、近接して設置されていたローリングタワーの作業床上から約5m下へと墜落した。	30201	1～9
2003	1	10 11	県民文化会館内に設置されているスピーカー等放送設備の点検作業のため、メインホール地下1階のスピーカーの点検に行くときに、間違えてオーケストラピットの入口ドアを開けて入り、地下2階まで3.6m墜落した。	30301	10～ 29
2003	1	14 15	下水管の布設工事でリースしていた防音ハウスの解体作業中、天板（防音パネル、寸法1×2m、質量約50kg）の上で屋根材を取り外していたときに、乗っていた天板とともに防音ハウスの内部（高さ約1.2m）に墜落した。	30110	10～ 29
2003	1	17 18	電柱に防犯灯を取り付ける作業中、トランス付近を移動するため安全帯を外したときに、約7m下の地面に墜落した。	30301	1～9
2003	2	18	7階建ビルの屋上に設置されていた空調室外機のメンテナンスで、屋上フェンスと室外機の間（70cm）に入り作業をしていてフェンスによりかかった	40301	100 ～

		19	ときに、フェンスに張ってあった網（パンチングメタル）のビスがはずれたため開口部となり、そこから地上に墜落した。		299
2003	2	11 ～ 12	学校4階の多目的ホールで、窓の網戸を張り替えてサッシ枠に取り付ける作業中、誤って窓から13.2m下の地上に墜落した。	120109	1～9
2003	2	9 ～ 10	校舎3階にある男子更衣室で、校庭側窓ガラスを拭いているときに、8.5m下の地面に墜落した。	150101	1～9
2003	3	17 ～ 18	国道バイパス工事現場で、法面（のりめん）処理を行っていて高さ約10mの急斜面（約80度）から転落した。	30102	10～ 29
2003	3	15 ～ 16	ビル解体工事において、5階外壁解体作業中に建物外壁および鉄骨梁、柱の一部が外部足場とともに約15m下の道路に崩落したため、外部足場上にいた作業者も同時に墜落した。なお、道路上で信号待のため停車だった自動車の運転手2名（非労働者）も死亡した。	30201	10～ 29
2003	3	13 ～ 14	7階建ビルにおいて、脚立を使用して5階の観音開きになっている窓を清掃中に、15.8m下のコンクリート地面に墜落した。	150101	10～ 29
2003	3	13 ～ 14	解体中の建物4階で、床面（地上高さ9.1m）のコンクリートがら等の片付け作業中に、建物から墜落して地上に設置してあったクレーンに激突した。	30201	1～9
2003	3	16 ～ 17	鉄筋コンクリート建築物屋上で、厚さ約8cmに敷いた玉砂利をレーキを用いて後退しながら均していき、高さ約47cmの腰壁を乗り越え、4.68m下のコンクリート床に墜落した。	30201	10～ 29
2003	3	16 ～ 17	大規模小売店舗の6階屋上の冷却塔清掃作業中に、誤って1階屋上まで約19m墜落した。	170201	1000 ～ 9999

2003	4	14 ～ 15	5階建の建物屋上に設置してある給湯機の不具合の個所を確認するため、屋上の端を通行中に約17m下に墜落した。	130201	～ 299
2003	4	0 ～ 1	工場屋外に空調機を取付ける工事で、2名が工場内と屋外とに分かれて屋内から屋外への配線作業を行うため、まず予備線を配管の中から通そうと屋内にいた者が、屋外にいた者に合図のための声をかけたが返事がないため、不審に思い様子を見に行ったところ、コンクリート床上に墜落していた。	30301	10～ 29
2003	4	10 ～ 11	百貨店の5階催事場で行われている物産展会場の流し配管が詰まったので2名で復旧作業を行い、仮復旧したため同僚は別れたが昼過ぎになっても事務室に戻ってこないのを捜していたところ、6階屋上から約8m下の4階屋上に転落し倒れているのを発見した。	150101	10～ 29
2003	4	15 ～ 16	携帯電話中継用の鉄塔設置工事において、鉄塔の高所部のリング状ステージ（高さ約51m）で、資材をつり上げるためのデリックの誘導をしていたときに鉄塔の内部側に墜落した。	30209	1～9
2003	5	14 ～ 15	ゴルフ場所有の防災ダム（高さ約14mのえん堤）上で、汚水管の修理作業を行っていたときに転落した。	140301	50～ 99
2003	5	9 ～ 10	生コンの製造プラントで、点検のため事務所をでた者が約4時間後にプラント砂貯蔵瓶砂の中で埋もれていたのが発見された。	10901	1～9
2003	5	13 ～ 14	ビル（9階建・高さ約31m）の窓ガラスをブランコで清掃する作業で、2回目の作業に取り掛かる前に、まず、ライフラインを次の作業個所に移設し、次にメインロープ等を運搬しているときに墜落した。	150101	1～9
2003	5	20 ～ 21	おがくずをトラックに積込むため、おがくずサイロ2階に上がって、角材およびスコップで突いてピットからトラック荷台におがくずを落とす作業中に転落し、サイロ内でおがくずに埋まった。	80109	1～9
		16	倉庫の中2階からイベントに使用する部材を降ろす作業中に、置いてあった		10～

2003	5	～ 17	トラロープに足を取られて中2階の端から約4m下に墜落した。	80409	29
2003	5	～ 20	工場出庫口の扉が開閉不能になったので、高さ2.95m上にあるシャッター レールに載ってワイヤ巻きドラムの乱巻状況を確認していたときに、墜落し てコンクリート床に頭部を強打した。	150101	30～ 49
2003	5	～ 14	午後から来る来訪者の視察案内下見のため、浄水処理棟の屋上を歩いていて 転落した。	11603	50～ 99
2003	5	～ 16	木造建築工事において、建物内部の造作作業を行っていたとき急に雨が降り 始めたので、雨が建物内に入るのを防ぐため2階のベランダ出入口部分にビ ニールシートを張るため、外部足場の手すりに掛けてあったシートをベラン ダの縁（笠木）に乗って取ろうとしたときに、バランスをくずして約6m下 の隣家との境界線上にある側溝に墜落した。	30202	10～ 29
2003	5	～ 14	駐車場の改築工事において、駐車場2階の鉄骨屋根の梁を溶接する作業で、 同僚が高所作業車を使用して溶接を行うため、梁材（10cm四方角パイプ、 長さ5m60cm、質量約31kg）を水平に支えているときに、約4m下の地面に 墜落した。	30209	10～ 29
2003	6	～ 16	9階建ビルの窓ガラス清掃で、屋上搭屋のパラペット部で下方の窓ガラス清 掃に使用するためのブランコ（ベンチ）をセットする際にライフラインを使 用していなかったため約38m下の駐輪場の屋根に墜落した。	150101	1～9
2003	6	～ 15	焼却炉設置工事において、3人が冷却塔（高さ6m92cm）上でダクトの取付 け作業を行っていたところ、ダクトに仮止めしていた蓋（ステンレス 製、200kg）のボルトが1本を残して外れて回転したため、その横にいた者 が蓋を避けようとして地上まで墜落した。	30302	30～ 49
2003	6	～ 14	ガソリンスタンドの屋根雨漏り修理工事の下見で、高さ5.22mの屋根から隣 接する洗車場のひさし（高さ3.6m）に降りようとしたときに、足を滑らせ て地上に墜落した。	30209	1～9

2003	7	14 ～ 15	3階屋上で、幅約100cm、深さ約90cmの溝の底のゴミを水切り等を用いて収集する作業を行うため移動中に、溝の側壁（段差約20cm）を乗り越えて約11m下の地面に墜落した。	140301	～ 299
2003	7	16 ～ 17	8階梁上で鉄骨組立作業を行っていた者が現場で行われる安全大会に参加するため、梁から地上へ降りようとしたときに本設の鉄骨階段横の梁（高さ17m）から墜落した。	30209	1～9
2003	7	8 ～ 9	鮭フレーク工場において、調味料運搬のため空台車を油圧式エレベーターに搬入しようとしたところ、搬器が1階にあったため、昇降路内を1階まで墜落した。	10102	～ 299
2003	7	11 ～ 12	住宅の新築工事において、工事中仮設電気設備のポールに電柱から引込線を接続するため高さ約8.5mの電柱上で作業を行っていたときに、地上に墜落した。	30301	1～9
2003	7	9 ～ 10	建物3階の外側の窓を拭いていて、10.8m下の地上に墜落した。	150101	10～ 29
2003	7	11 ～ 12	地上約3mの平家屋根の葺き替え作業で、古い鉄板をはがすため母屋に付設された物置屋根上を歩行中に、塩ビ波板葺きの屋根を突き破って2.5m下の地上に墜落した。	30202	1～9
2003	7	13 ～ 14	職場のレイアウト変更のため、中2階の資材置場の解体工事を3名で行っていて、1名が中2階の床板（縞鋼板）をガス切断してできた開口部（45cm×90cm）から床板とともに2.25m下の1階コンクリート床に墜落した。	11502	50～ 99
2003	8	15 ～ 16	鉄骨平屋造建築工事において、高さ約20mの広告塔の垂直方向の歪みの調整作業をほぼ終了して片付作業を行っていたときに、踊場の足場板上（地上約5.5mの高さ）に墜落した。	30201	1～9
2003	8	11 ～	防水工事の見積もりのため、県営住宅（RC造4階建）の屋上で巻尺を持って西端に立っているときに、高さ31cmのパラペットを越え約12m下の地上に	30209	1～9

		12	墜落した。		
2003	8	11 ～ 12	13階建ビルの屋上から懸垂幕を下ろす作業で、懸垂幕を広げていて約40m下に墜落した。	90209	1～9
2003	9	0 ～ 1	8階建ホテルの6階ベランダの端部で窓拭き作業中に、ベランダに設置のコンクリート製手すり（高さ約1m、幅17cm）を超えて約15m下の外部非常階段の2階と3階の間の踊り場に墜落した。	140101	30～ 49
2003	9	10 ～ 11	農免道路工事において、擁（よう）壁コンクリート打設後の型枠を解体するため、型枠材に載ってダムフォームのボルトを緩めていたときに足を踏み外し墜落した。	30106	1～9
2003	10	0 ～ 1	川岸の中段（高さ2.6m、幅1.8m）で鎌を用い草刈作業を行っていたときに、コンクリート製の川岸に転落し頭部を強打した。	60201	10～ 29
2003	10	14 ～ 15	光ケーブル敷設工事において、電柱（高さ約7m）に登ってケーブル巻きつけて降りるときに墜落した。	30301	1～9
2003	10	9 ～ 10	廃棄物焼却施設プラントの清掃作業で、同僚3人と燃焼室上部の煙道内に入り、スコップ等を用いて付着堆積した焼却灰を燃焼室へ掃き落としていたときに、焼却室への開口部から足を踏み外して11.9m下の焼却室底部に墜落した。	150109	10～ 29
2003	10	13 ～ 14	精米機の据え付け工事において、同僚とシュートパイプ取付け用サポート（寸切ボルト製）の長さを計測しようとしたが寸切ボルトが湾曲していて計測できないため、架台梁に上がって金具を取り外したのち安全帯を外して降りようとしたときに墜落した。	30302	10～ 29
2003	10	10 ～ 11	高さ3.4mの投入台上でホッパーに材料を投入しているときに、転落防止用の囲いがなかったため誤って墜落してギアに巻き込まれた。	10209	1～9

2003	10	14 ～ 15	ホテル屋上の定置式ゴンドラのつりワイヤの交換およびリミットスイッチ用 ストライカーの補修溶接作業中に、階段室屋上のパラペット付近から約2m 上方のゴンドラ点検通路上にいた作業員に軍手を渡そうとしたときに、パラ ペットから約6m下の床に墜落した。	80409	10～ 29
2003	11	11 ～ 12	アパート外壁塗装工事に伴う電線防護工事で、アパート2階の通路手すり (高さ1.24m) に上って電線の引き込み取り付け点の状況を確認しようとし ていたときに、手すり上から後ろ向きに通路に墜落した。	30301	10～ 29
2003	11	0 ～ 1	高架橋工事において、塗装の補修作業を行っていて昼になったので作業員は 休憩に入ったが、職長だけがそのまま現場に残り一人で補修の確認作業を 行っているときに、桁に足を掛けた状態で足を滑らせ手すりの上から13m下 の地面に墜落した。	30105	1～9
2003	11	16 ～ 17	ゴミ焼却施設で、カーボン貯留槽内のカーボン残量を確認していたときに、 マンホールからカーボン貯留槽内に転落した。	150103	10～ 29
2003	11	13 ～ 14	6階マンション新築工事で、屋上の床面の仕上げを行って電気コードリール を片付けているときに、高さ30数cmのパラペットを越えて18.7m下の歩道 に転落した。	30201	10～ 29
2003	11	20 ～ 21	ダムベータで客室から引き上げた食器類を5階の厨房へ運ぶため、4階でダム ベータの搬器内へ積み込もうとしたところ、搬器が5階に停止していて4階に は来ていなかったため、4階昇降路の荷の出入口から約10m下の昇降路底部 へ墜落した。	140101	1～9
2003	11	9 ～ 10	6階建ビルの塔屋（エレベーター機械室）上に設置された高架水槽を撤去の ためハンドグラインダーで切断中に、塔屋の上から約5m下の非常階段の踊 り場に墜落した。	30203	1～9
2003	12	9 ～ 10	高速道路の高架橋工事において、外部足場設置の妨げになる分電盤とキャブ タイヤコードを上り線から下り線につり上げ荷重が2.9tの移動式クレーンで 移設するため、キャブタイヤコードに玉掛けして移動しているときに balan スを崩し14.5m下に墜落した。	30105	10～ 29

2003	12	11	4階の床に積み上げた解体ガラ上に重機を載せて上階の解体作業を行っていたときに、4階の床が抜け落ちたため3階と1階の床を突き抜けて落下し、重機の運転士ががれきの下敷きになった。	30201	1～9
2003	12	14	木造建築物の解体で、2階の床（コンパネ）を外す作業中に2階の床端部より墜落した。	30202	1～9
2003	12	10	作業前ミーティング後、通常業務であるコンクリート用骨材の管理業務に従事していた者から指示がないため、場内放送、電話等で探したところ、骨材	10909	1～9
		11	ストックヤード（砂ビン約20m ³ ・高さ約6m）上の砂びんの上に立ち入り、自動運転中にびんの底が開いたため骨材ストックヤードの砂に埋もれているのが発見された。		
2003	12	10	地上4階建の職員寮において、4階塔屋の上にある高架水槽の清掃を行ったの	150101	100
		11	ち高架水槽の点検をしていたときに、高さ約13mの高架水槽の天板または高さ約11mの塔屋の上から地上へ墜落した。		～ 299
2003	12	8	岸壁付近に重ねて置かれていたパレット（重さ約1t）3枚をトラックに積み込む作業で、上2枚のパレットの向きを変えるため玉掛けしてジブクレーン	11501	1～9
		9	で2枚同時につり上げ回転させていたときに、下のパレットが引っ掛かったのでこれを外したときの反動でバランスを崩し岸壁から海中に墜落した。		
2003	12	13	病院5階の階段部分の窓拭き清掃作業で、建屋外部へ出て作業を行っていて5	150101	30～
		14	階からアスファルト面に転落した。		49
2003	12	11	ロングスパン工事用エレベーターの屋上ステージで、リミットスイッチの配	30201	30～
		12	線作業を終了したときに、屋上のパラペットを越えて31m下の地上に墜落した。		49
2003	12	13	エレベーターの昇降路塔の上部で、校舎の「ひさし」を解体したときの「コ	30199	1～9
		14	ンクリートがら」を地上に搬出するためバケツに詰めているときに、昇降路塔と外部足場との隙間（50cm）からピットに墜落（高さ：約13m）した。		

2004	10	17 ～ 18	橋梁工事において25 t 移動式クレーンを用いてエレクションガーダーの仮ベンド撤去作業中、仮ベンドの上に敷いていた鉄板を地上へ降ろすために、鉄板にクランプを取り付け単管をコロにして移動させていたところ、鉄板が滑り落ちてつり足場に落下、それと同時に被災者は鉄板を避けようとして、高さ約3.6m下の橋脚上に墜落した。	30105	10～ 29
2004	2	14 ～ 15	移動式クレーンで破碎機を架台にのせた後、ワイヤロープを外すために破碎機上部に上り、作業を終えて下りる際に転落した。	30302	1～9
2004	7	10 ～ 11	発電所定期点検工事において、タービン建屋の外にある循環水放水管上部にあるピットマンホールから内部に入り込み、約21m下の放水管底部まで墜落した。	170209	10～ 29
2004	11	13 ～ 14	生コンプラントの骨材投入口に取り付けられている保護用ラバーを交換する作業において、取り外したラバーをホッパー内部から拾うために点検口よりタラップを降りようとして墜落し、ホッパー内の碎砂に埋没した。	10901	10～ 29
2004	11	15 ～ 16	砂貯蔵用のホッパー内で貯蔵していた砂が固まり、ホッパー下部の開放口から落ちないため、ホッパー内部に入り、鋼製の棒を使って砂を叩いていたところ、突然落ちはじめた砂に巻き込まれ埋没した。	10901	1～9
2004	5	9 ～ 10	事業所構内を巡回中、冷却塔上部より冷却水がこぼれ落ちているのを発見し、高さ約1.2mの階段を昇り、進入扉を手前に引いたところ、手がすべり、反動でアスファルト路面に転落した。	11009	100 ～ 299
2004	2	10 ～ 11	工場の屋根の塗装作業をしていた被災者が、誤って屋根の採光窓のガラスを突き破り、高さ7.2mの屋根から床に墜落した。	30209	1～9
2004	2	14 ～ 15	高さ24mのマンション新築工事において、屋上の配管接続作業中、調整具合を後ずさりしながら目視点検していた時、外壁立ち上りに当たり墜落した。	30201	1～9
		11	3階建て木造建築物の建前作業中、3階床部分の梁の上から足を踏み外し、約		

2004	2	～ 12	6m下の1階土間に墜落した。	30202	1～9
2004	7	10 ～ 11	マンションの塔屋上の高架水槽を点検清掃し、ひさしの上に移り、道具を下ろす準備中にマンション屋上に墜落した。	150101	1～9
2004	2	16 ～ 17	建物の解体作業中、2階押入れの天袋の梁上でバールを使って作業していたところ、誤って約7メートル下の地面に転落した。	30202	1～9
2004	2	13 ～ 14	ビルの建築設備検査のため、ビルの屋上に検査業者とともに上り、点検対象の機械から下りようとしたところ、転落した。	170209	1000 ～ 9999
2004	7	7 ～ 8	13階建てマンションの屋上にある広告用看板のシートを張替える工事で、養生ネットを張る作業をしているとき、被災者が看板の上から約45m下の地上に墜落した。	170209	1～9
2004	9	13 ～ 14	雑居ビルのエレベーター1階外扉についたキズの状況を確認し、キズついた扉の交換のための採寸作業を行うため、一人で雑居ビル内で作業中にエレベーターピット内で墜落した。	150101	10～ 29
2004	3	15 ～ 16	ビル屋上において、屋上フェンス扉の修理作業の確認写真を撮ろうとしたとき、約40m下の地面に墜落した。	170209	300 ～
2004	10	15 ～ 16	2階建て物置の屋根部分の解体作業を2階床（高さ約2m）で内側から行っていたとき、1階土間部分に墜落した。	30209	1～9
2004	1	11 ～ 12	自社の資材置き場を拡張する工事中、法面（のりめん）（約65度）に面した手すりを撤去するため車両系建設機械で引き抜いていたところ、車両系建設機械が転倒したため、近くで手元作業中の被災者が、これを避けようとして法面を約5m墜落した。	30199	1～9

2004	8	17 ～ 18	エスカレーターの照明器具取替え作業を行っていたところ、照明カバーの止め金具が同エスカレーターのひさしに落ちたため、被災者はそれを取ろうと同エスカレーターの外側に身を乗り出した時に、約12m下に墜落した。	170209	10～ 29
2004	3	14 ～ 15	ガードレール設置工事現場において、打設されたガードレールの基礎コンクリートの法面（のりめん）側にある型枠を法肩に立って解体していたところ、法長約20m下にある県道の側溝付近まで法面を転落した。	30106	10～ 29
2004	7	8 ～ 9	事故当時、被災者は一人で2階梁鉄骨のボルトの本締め作業中、バランスをくずして高さ3.4mから墜落した。	30201	1～9
2004	12	14 ～ 15	公民館屋上に倒れ掛かった木を撤去する作業において、当該風倒木の根元（直径約25cm）をチェーンソーで切断したが、木は切断面が離れず屋上から落下しないため、被災者が屋上に上がり、端に立って木を揺すって落とそうとしたところ、突然木が落下し、これに当たった被災者が外階段の踊り場に墜落した。	30202	1～9
2004	5	16 ～ 17	鉄骨2階建倉庫解体工事現場で鉄骨の梁（長さ約6m、重量約300kg）を、アームの先端に鉄骨カッターを取り付けたドラグ・ショベルで2階から下ろそうと梁を挟んで持ち上げたところ、梁が振れて近くにいた被災者がその梁を避けようとして墜落した。	30201	1～9
2004	1	17 ～ 18	溶解炉のバーナーの修理作業を終了後、手洗いのため工場構内を通行中に炉用インゴット冷却用水槽（水温約70℃・深さ約1m）に転落した。	80109	1～9
2004	7	11 ～ 12	ボイラー煙突の地上約100mの部分に設けられている既設の作業床を踏み抜き、地上約75mの部分に設けられた既設の作業床へ墜落した。	30203	10～ 29
2004	5	14 ～ 15	ビル（10階建）6階フロア窓清掃作業において、室内から窓枠に足をかけ、体を外に乗り出して窓拭き作業を行っていたところ、約17m下の地上に墜落し死亡した。	150101	1～9

2004	12	17 ～ 18	建設廃材を細かく砕いた再生土が入ったピット（6m×6m×4.7m）のその再生土の上に乗り、ベルトコンベア補修作業をしていたところ、ピット内の再生土がピット下部にあるホッパーから流れ出たため、再生土に飲み込まれ生き埋めになった。	10909	1～9
2004	12	13 ～ 14	木造2階建新築工事において、高さ6.4mの建屋から墜落した。	30202	1～9
2004	3	11 ～ 12	重油タンク解体作業中、屋根板のガス溶断を行っていたところ、屋根板および梁が落下し、その上で作業していた3名が被災し、うち2名が死亡した。	30209	1～9
2004	3	11 ～ 12	重油タンク解体作業中、屋根板のガス溶断を行っていたところ、屋根板および梁が落下し、その上で作業していた3名が被災し、うち2名が死亡した。	30209	1～9
2004	2	9 ～ 10	ホテル内プール棟8階ベランダ上に仮設されていた足場を解体するため、被災者はベランダの手すりを乗り越え、腰壁（高さ約20cm）上で防網を取り外す作業を行っていたところ、誤って足を踏み外し、ベランダから約19m下の隣棟3階の屋上に墜落した。	30209	1～9
2004	10	0 ～ 1	木造建築現場において、荷物を、受け渡す要領で荷卸し作業を行っていたところ、荷の受け手であった被災者がバランスを崩し、2m下のアスファルト道路に墜落した。	40301	50～ 99
2004	2	8 ～ 9	作業開始直前に、既設のスロープを駆け降りようとした被災者がスロープの端から2.3m下のアスファルトに墜落した。	30199	10～ 29
2004	6	15 ～ 16	宅地内排水配管埋設用の側溝内に、レベルを測るため降りようとして滑り落ちた。	30110	1～9
		9	建造中のコンテナ運搬船の左舷船首側のアッパーデッキを含む船体ブロック		100

2004	7	～ 10	をジブクレーンでつり上げて船体に据付け後、突然当該ブロックが外側に倒れ、ドック底に向けて倒壊し、ブロック天端で作業中の被災者がドック底に転落した。	11501	～ 299
2004	7	9 ～ 10	建造中のコンテナ運搬船の左舷船首側のアッパーデッキを含む船体ブロックをジブクレーンでつり上げて船体に据付け後、突然当該ブロックが外側に倒れ、ドック底に向けて倒壊し、ブロック天端で作業中の被災者がドック底に転落した。	11501	1～9
2004	5	19 ～ 20	工場敷地内を自転車で夜間巡回警備中に、岸壁から自転車で海に転落した。	170201	100 ～ 299
2004	3	9 ～ 10	ビル解体現場において、飛散防止用シートを取り外す作業中、約8m下の解体がら上に墜落した。	170209	1～9
2004	12	9 ～ 10	窓拭き作業に従事していた被災者は、高さ1.2mの擁壁を乗り越えてひさしからベランダへ移動するため、タラップが取り付けられている場所を登って擁壁を越えようとしたところ、バランスを崩しベランダに転落した。	150101	1～9
2004	3	16 ～ 17	無線中継所新設工事現場において、通信用鉄柱上で避雷針を取り付ける作業中、上にある作業袋を下ろすために移動したところ、安全帯の掛け替えができていなかったために約10m下の架台上に墜落した。	30301	10～ 29
2004	2	14 ～ 15	鉄骨組スレート葺きの工場、一部解体工事において、スレート外壁を鉄骨の横桟の上に乗って、手持ちハンマーで破碎していたところ、当該作業箇所から墜落した。	30209	1～9
2004	2	7 ～ 8	被災者は、朝のミーティング時に資材置き場へ行った。しばらくして被災者らしき者のうめき声が出たため資材置き場を確認すると、コンクリート床に仰向けに倒れている被災者が発見された。	30199	30～ 49
2004	9	7 ～	高さ5mの木材チップタンクの底面を開放し、チップタンク下のトラックに、木材チップを積み込む作業を行っていたところ、5m下の地面に墜落し	40301	10～ 29

		8	た。		
2004	5	15 ～ 16	骨材プラントに設置してある砕石ダスト貯蔵コルゲートビン（鋼製の円筒形のタンクで直径5m、高さ4.9m）内で、被災者が1人で同ビン底部の排出ゲートから砂岩の砕石ダストをスコップを使用して排出する作業を行っていたところ、貯蔵していた砕石ダストに埋没した。	30101	10～ 29
2004	2	13 ～ 14	産業廃棄物処理場中間保管場所敷地に隣接する川の堰堤（高さ約6.5m）の端から墜落した。	150102	30～ 49
2004	3	21 ～ 22	擁壁側の路盤の手直し作業を急ぎょ行うこととなったため、夜間まで残業することになり、暗くなった後、西側から東側へ照らす投光器が1台しかない状況の中で、作業場所間を移動していた時に、擁壁の上から、深さ5.7mの水の入っていない貯水池の底に墜落した。	30199	1～9
2005	3	9 ～ 10	フォークリフトで篩（ふるい）網を床に下ろす作業中、篩網の上に乗り、運転手に合図を送っていたところ、3m下のコンクリート床に墜落した。	50101	50～ 99
2005	8	17 ～ 18	給油ホースをトラックの荷台から屋外に設置された灯油タンクまで引き出す作業に従事していたところ、敷地内にあった使用されていない古井戸の中に墜落した。	80204	1～9
2005	5	21 ～ 22	ガスタンク（直径60m）の外層と内層の間に断熱材の紛体を充てんする作業を行っていたところ、誤ってタンク上部の球面で滑落し、側壁部の充てん済みの断熱材に埋没した。	30309	1～9
2005	12	11 ～ 12	建物屋上に設置してある貯水槽の内部を調べるため、貯水槽に設けられたタラップを昇っていたところ、墜落した。	170209	1～9
2005	12	18 ～ 19	明かり取りの天窓の取外しを行うため、屋上に出て取外しの対象である天窓の確認を行っていたところ、天窓付近から7m下に転落した。	30309	1～9

2005	2	7 ～ 8	出張中、宿泊していたホテルの部屋（7階）の窓を開閉しようとして、床から90cm高い位置にある内窓の枠と外窓の枠に足をかけたところ、バランスを崩し転落した。	11403	～ 499
2005	4	13 ～ 14	檜設営工事において、高さ12.5mの箇所では安全帯のフックを掛けていたカラビナからフックが外れ、地上へ墜落した。	30107	10～ 29
2005	6	17 ～ 18	2階の窓拭きをベランダ（幅62cm）で行っていたところ、5m下に墜落した。	140201	1～9
2005	10	13 ～ 14	高さ3mの箇所にある配管をガス溶接装置で切断し撤去する作業中、墜落した。	10901	10～ 29
2005	8	7 ～ 8	サイロの改修工事においてシートからの浸水がないかを確認しようとして、サイロ頂部から貯蔵物であるセメント面まで15m墜落した。	30302	10～ 29
2005	5	8 ～ 9	マンションにおいて、暖房外機の置き場の床シートの貼り状況を確認するために、5階の窓から幅が70cmの屋外機置き場に下りようとして窓の手すりを乗り越えた際に、そのまま12m墜落した。	30201	1～9
2005	10	10 ～ 11	建物の1階の庇の上で外ガラスを清掃中、3m下の地面のコンクリートに墜落した。	150109	1～9
2005	2	8 ～ 9	畳を擁壁上で運んでいたところ、突風によりあおられ7.2m下の地面へ墜落した。	30108	1～9
2005	4	0 ～ 1	県道の除雪工事において、高さ1.8mの道路擁壁上に上がり、車両の通行に支障となる雑木類の除去作業中、足が滑り道路に転落した。	30199	10～ 29

2005	12	9 ～ 10	砂防副堰堤上を移動中、当該堰堤上に被せてあった養生用シートに足を乗せた際、足を滑らせて6m墜落した。	30108	1～9
2005	9	10 ～ 11	送電鉄塔で絶縁体部品のがいしの洗浄作業で、鉄塔上部を移動中に50mの高さから墜落した。	30309	10～ 29
2005	1	13 ～ 14	ブドウ糖液を貯蔵するタンク間をつなぐ配管敷設工事中、高さ10mのタンク上部から地上まで墜落した。	30302	10～ 29
2005	3	16 ～ 17	携帯電話用無線鉄塔にケーブルを配線する作業において、鉄柱の梁上（高さ22m）で、ケーブルを固定していたところ、墜落した。	30209	1～9
2005	3	9 ～ 10	宅地造成地フェンス取付け工事において、高さ4mの擁壁の上で電動ドリルを用いて穴を開ける作業中、バランスを崩して擁壁下へ墜落した。	30209	1～9
2005	12	10 ～ 11	もみ殻庫内のもみ殻残量等を点検していたところ、もみ殻排出口下部付近でもみ殻に埋もれた。	170209	10～ 29
2005	5	9 ～ 10	市街灯柱建替え工事現場において、架空引込電線及び蛍光灯器具の取外し作業中、突然柱が根元から折れ、被災者とともに地面に倒れた。	30309	1～9
2005	11	15 ～ 16	高さ2.5mの石垣の上で落ち葉の清掃作業を下見中、墜落した。	150101	10～ 29
2005	4	19 ～ 20	地上16mの躯体5階端で、外壁取付けのためのアングルをアーク溶接する作業中、地上まで墜落した。	30201	10～ 29

2005	1	16 ～ 17	ビル屋上に設置された看板の解体工事において、移動式クレーンにてつり上げられた鉄骨部材が、内側に傾き、建物に当たりそうになったため被災者が荷のタラップ部分をつかんで、傾きを修正しようとしたところ、突然、荷が外側に飛び出し、荷をつかんでいた被災者は荷とともに屋上の外側に振られ、そのままビル屋上から25m下の駐車場に墜落した。	30209	1～9
2005	11	16 ～ 17	解体工事現場において、9階で重機を用いてコンクリートガラの小割り作業を行っていたところ、廃材投下用開口部から墜落した。	30209	1～9
2005	3	16 ～ 17	工場増設に伴う電気設備工事において、鉄骨造3階建ての屋上にてケーブルの配線作業を行っていたところ、高さ15mの屋上端から墜落した。	30301	1～9
2005	12	11 ～ 12	鉄道駅構内において、業務中、ホームから軌道上に転落した。	40101	300 ～ 499
2005	6	16 ～ 17	道路の防災工事の現場において交通誘導及び落石等の監視を行っていた警備員が、ガードレールの外側にある川の擁壁の上部から、7m下の川に墜落した。	170201	100 ～ 299
2005	12	10 ～ 11	5階建てマンションの屋上で携帯電話基地局設置の調査中、屋上端部より地上に転落した。	30301	1～9
2005	4	13 ～ 14	11階建てマンション屋上（地上高さ30m）の端部において清掃作業中に墜落した。	80409	1～9
2005	3	19 ～ 20	事業場に隣接している寮で入浴中、浴室の洗い場の窓から4m下の地面に墜落した。	10105	30～ 49
		16	建設機械の修理点検作業において、事業場敷地とその隣にある作業場敷地へ		30～

2005	8	～ 17	の行き来の際、両敷地の境界にある用水路に転落した。	30106	49
2005	11	19 ～ 20	ビル屋上に携帯電話の中継基地を作る建設工事において、トランスを取り外す作業中、屋上（地上高さ20m）から墜落した。	30302	1～9
2005	8	6 ～ 7	木材チップの排出、運送業務において、サイロ内のチップの掻き落とす作業をしている際に足元のチップが崩れて、生き埋めとなった。	40301	1～9
2005	8	10 ～ 11	雨で崩壊した盛土法面上のコンクリートブロックをドラグ・ショベルでつり上げて撤去する作業中、玉掛けを行うために斜面上のブロックに乗り、堆積している土砂を足で払い落としていたところ、バランスを崩して約10m下の地面に墜落した。	30107	10～ 29
2005	7	10 ～ 11	建造中の貨物船において床材として使用する「すのこ」を作成するため、機関室倉庫の開口部から手を出し、木束を上部デッキの同僚より受け取る作業を行っていたところ、3m下の貨物スペース床面に墜落した。	10409	10～ 29
2005	1	11 ～ 12	店舗の新築工事現場において、広告塔鉄骨（高さ12m）の錆止め塗装作業中に墜落した。作業箇所から6m下の安全ネットで墜落は止まったが、その間、張り出していた梁に激突していた。	30201	1～9
2005	3	14 ～ 15	既設送電用鉄塔において、鉄塔から発生する風切り音を防ぐため、ネジの隙間にシーラントを詰め、ふたをする作業を高さ40mの箇所で行っていたところ、墜落した。	30301	10～ 29
2005	8	4 ～ 5	発酵槽において、高さ8mの点検用足場に上がり、メタンガスを排出するためのハッチが閉まらないよう角材を挟み込む作業を行った後、地面に墜落した。	150102	30～ 49
2005	11	10 ～ 11	電柱の建替え工事現場において、停電作業処理後、高さ9mの電柱の先端に上り、低圧電線を切断して地上に下ろす作業中、電柱が根元から倒壊して、電柱とともに河川に墜落した。	30301	10～ 29

2005	3	10 ～ 11	砂防工事現場において測量等の準備作業を行うため、法面下部の竹等の木々の伐採作業を行っていたところ、2.5m下の水路に墜落した。	30108	30～ 49
2006	1	19 ～ 20	地下機械式立体駐輪場の建設のため、立坑（直径7m、深さ15m）を掘削していた。他の下請け事業者が、翌日の作業に備え、立坑を覆っていた鋼製の覆工板（縦1m×横3m）を一部取り外し、開口部としていた。そこに資材を運搬していた被災者が、開口部より墜落し被災した。	30201	10～ 29
2006	1	3 ～ 4	事業場の屋上で人を探していたところ、誤って墜落した。	140101	1～9
2006	1	11 ～ 12	資材等の荷物を置くために、工場建屋内に設けられた高さ4.17mの棚の上で、荷物の整理を行っていたところ、当該棚から墜落した。	11301	10～ 29
2006	2	10 ～ 11	ダム堰堤改良工事において、被災者がダム放水路内に設けられた作業構台を解体していたところ、作業構台の基礎部材であるH鋼が外れH鋼とともに水深約5メートルの川に転落した。被災者は、自力で泳ぎ救助を求めていたが、約5分後姿が見えなくなった。その後の捜索により発見されたが、死亡が確認された。	30302	1～9
2006	2	16 ～ 17	工事現場において、橋梁に設置されている欄干の固定ボルトの点検作業中、橋梁のジョイント設置予定箇所の開口部（幅50cm）から約12m下の地面に墜落した。	30105	10～ 29
2006	1	13 ～ 14	セメント原料を生産するキルンのダクト（直径約3.4m、長さ約103m）からクリンカーダストを抜き出すダスト回収ホッパーがあり、このホッパー内に溜ったダストの抜き取り作業を行っていたところ、ダクト内にいた被災者が、ホッパーに引き込まれ、ダストの中に全身が埋没した。	30309	10～ 29
2006	2	14 ～	架台組み立てを請け負っていた他社の作業員が、天井クレーンを用い、架台の天板（重量約284kg）を所定の位置まで移動させた。その際、玉掛け用具が天板の重量で取り外せない状況であったため、被災者が協力してバー	11209	1～9

		15	ルを使って天板を持ち上げていた際、約4.9m下の床面に墜落した。		
2006	2	14 ～ 15	被災者は、河川護岸工事に伴う擁壁建造作業を行っていたが、被災者が建造中の擁壁と河川の間の溝に転落しているところを発見された。	30203	1～9
2006	3	11 ～ 12	生コン製造用の砂が入ったサイロの中で、サイロの砂を全部かき出すため、サイロの内壁に付着した砂をかき落とす作業をしていたところ、被災者の足の砂が崩落して被災した。	10901	10～ 29
2006	3	13 ～ 14	古いタワークレーンを解体する作業中、上部旋回体後部に取り付けられたカウンタフレーム（重さ8.9t）を解体するため、ワイヤロープ（16m）で玉掛けした移動式クレーン（吊り上げ荷重45t）で保持した後、カウンタフレームを支持する鋼棒をガス溶断したところ、ワイヤロープが破断し、カウンタフレームが傾斜して、被災者は約13m下の地面に墜落した。その後、カウンタフレームが被災者の上に落下した。	80109	1～9
2006	3	10 ～ 11	マンションの防水工事で屋上にて下地処理剤を塗る作業を行っていたところ、墜落した。	30209	1～9
2006	3	10 ～ 11	ビル屋上にある冷却塔の塗り替え工事において、塔の手摺内部から身を乗り出した時屋上部に墜落した。	30209	1～9
2006	3	13 ～ 14	6階フロアに機械設備を搬入するため、4名の作業員が6階のフロアの搬入口扉を開け、屋外ステージ上で準備作業を行っていたところ、突然強風にあおられた搬入扉が閉り、ステージ上で手摺りの撤去作業を行っていた被災者に当り、その反動で約18m下の地面に墜落した。	30302	10～ 29
2006	3	9 ～ 10	被災者はろ過用活性炭の入れ替えを行うため、屋外に設置した吸引車から吸引ホースを伸ばして、活性炭吸着塔内で活性炭の抜き取り作業を行っていたが、吸引車の操作者が吸引ホースの異音に気づき活性炭吸着塔内を覗いたところ、活性炭に全身が埋没した状態で発見された。	170209	10～ 29

2006	4	9 ～ 10	廃品運び出し作業を本館2階と実験室2階とを結ぶ渡り廊下にて実施していた被災者が、約3メートル直下のトラック荷台に墜落した。被災当時約60kg重のガスマトログラフィーを荷台に直接投下しており、当該機械も被災者とほぼ同時に荷台に落下した。	150102	10～ 29
2006	3	16 ～ 17	中央監視室設備改修工事において、事前調査として各階に設置している配電盤の位置を探している途中でPDS室にある扉を開けたところ、その扉の先が吹き抜けの開口部となっていたために約16m下のコンクリート床に墜落した。	30301	10～ 29
2006	4	5 ～ 6	被災者は、最大積載量約13トンの飼料運搬車にて、鶏の飼料を高さ約8mのサイロに投入する業務に携わっていた。同僚が、別の飼料運搬車で運搬に訪れたとき、被災者が、サイロと運搬車の間で、死亡しているのを発見した。	40301	10～ 29
2006	4	17 ～ 18	マンション新築工事現場にて、被災者は同僚と2人で9階屋外鉄骨階段部（高さ約23m）の外壁及び梁の塗装作業を行っていた。同僚が被災者に背を向けて作業を行っていたところ、突然、ガタンと音が鳴ったので、振り向いて階段吹抜部を覗くと、被災者が墜落していた。	30209	1～9
2006	2	0 ～ 1	被災者がビルの屋上に設置された1階店舗の換気扇の排気装置の状態を確認するため、同ビルの屋上に上がったところ、屋上パラペット部から足を滑らせ、約21m下へ墜落した。	170209	30～ 49
2006	4	13 ～ 14	播種機（苗箱に土、種、水を入れる機械）を撤去する工程で、土入れ機の上部に設けてある外付けのホッパー（高さ1.7m）内に置いてあったフレコンバックを取ろうとホッパー上で同僚1名と作業していた際、墜落した。	60101	1～9
2006	5	14 ～ 15	顧客の依頼により農機具（トラクター）の修理に行った被災者が、農地内の古井戸（深さ約8m）に転落した。	80209	1～9
2006	5	20 ～ 21	冷温水機の点検のため9階屋上の明り取り用ガラスの上を歩いていたところ、ガラスが割れて8階に墜落した。	170209	10～ 29

2006	5	20 ～ 21	被災者は工場内の金属表面処理工程において、摂氏50℃から60℃に保温された工業用アルカリ洗剤の薬液が注入されている深さ283センチの脱脂槽に転落し、槽の縁にかけてあったシートと共に浮かんでいたところを、出勤してきた同僚に発見された。	11209	10～ 29
2006	5	12 ～ 13	事業場敷地内の工場建屋の裏手にあるフェンス付近において、そこに植えられている桐の木の小枝を手で剪定し、ゴミ袋に入れて作業中、桐の枝につかまってフェンス頂部に足を掛けた状態で、バランスを崩して工場敷地外周にあったコンクリート側溝に墜落した。	10102	10～ 29
2006	6	14 ～ 15	被災者は、社員寮改修工事の見積書の内容を確認するため、5階建ての寮の屋上で写真を撮っている際、屋上から約14.6m下の隣地駐車場に墜落した。	170209	10～ 29
2006	6	13 ～ 14	研修のため外出中、地下鉄駅でホームの端から約1mぐらい手前でかがんで電車を待っていた。電車が来たので立ち上がった際、前によろめいた感じでホームに落ち、電車に跳ねられた。	140101	50～ 99
2006	6	14 ～ 15	牧場内に鉄骨造り平屋建て牛舎を新築する工事において、被災者ともう1名が屋根の端に釘で板を打ちつけていたところ、誤って4.4mの高さからコンクリート床に転落した。	80409	10～ 29
2006	7	13 ～ 14	鉄筋コンクリート4階建て建物の窓拭き作業の準備中、高さ約22メートルの屋上から地上へ墜落した。	150101	1～9
2006	7	11 ～ 12	被災者は、船体ブロック上でキャスター付椅子に座った状態で、ガスバーナーを使ってひずみ取り作業を行っていたところ、キャスター付椅子の1本の脚がスカッパー（船体ブロックの雨水排水口）に入り、椅子が傾きバランスを崩して、船体ブロック上から約5.6m下の地上へ転落した。	11501	30～ 49
2006	5	8 ～	構内船台において、貨物自動車運搬船のブロック組み立て中、船尾ブロックの継ぎ目部分をブロックの内側から溶接しようとしていた被災者が、ブロックの穴から雨水が浸入するのを防止するため、ブロックの外側に回り、ブ	11501	50～ 99

		9	ロックの端の部分に立ち、穴をパテを使用し埋める作業中、高さが地上約8mのブロックの端より墜落した。		
2006	6	10 ～ 11	工場内のスクラップを搬送する台車に手すりを取り付ける工事を行うため、作業用の足場を組み立てる準備をしていた。被災者はピット内に足場を組むため、ピット上部から足場の材料（1200枠）を手作業にて荷卸し中、ピット内に約2.2m墜落した。	30302	10～ 29
2006	7	16 ～ 17	木造家屋新築工事現場の外部枠組足場の1段目作業床上（高さ1.8m、幅21cm）において、トラッククレーン（5トン）にて吊り上げられた敷桁を、建屋外周の柱に取付けようとして、被災者の手許に当該敷桁が移動してくるのを待っている時、作業床から足を踏み外して墜落した。	30202	1～9
2006	7	15 ～ 16	マンション新築工事において、鉄骨組立作業のために親綱を張るべく、移動式クレーンにて親綱（8階と7階分を各10本）を束ね、ワイヤロープで玉掛けし、荷揚げを行った。被災者は、8階鉄骨梁上で当該親綱を待ち受け、8階用10本を荷下ろしした後、バランスを崩し、玉掛けワイヤロープにつかまったが、手がすべり1階コンクリート床に約2.4m墜落した。	30201	10～ 29
2006	7	10 ～ 11	工場内の2階作業場のプラスチック成形機への材料投入口（ホッパー）に被災者がうずくまっているのを同僚が発見し、救出しようとしたところ感電していて触ることができなかったので、電源を切り病院へ搬送したが死亡した。	10805	30～ 49
2006	8	9 ～ 10	車庫2階部分の改修工事の見積りのため、車庫の2階部分を計測していた被災者が、鉄骨を踏み外し、天井材ボードを突き破って4.1m下のコンクリート床に墜落した。	30209	50～ 99
2006	8	13 ～ 14	マンションに併設している14階建て立体駐車場の定期点検のため、中央の昇降するリフト（車専用の搬器）に専用の足場板を敷詰め最上段まで昇降し巻上機の点検後、リフト上で小休憩をとり、各車室の点検作業開始し直後の13階の車室に移動する際に足を踏み外し約2.2mの高さから墜落した。	170209	1～9
2006	8	19	引越しのための荷の運搬作業を終えた被災者が、運搬先の共同住宅の階段踊り場（2階と3階の間）において、手すりから身体を乗り出した状態で休憩し	170101	30～

		20	ていたところ、地面に墜落した。		49
2006	8	10 ～ 11	小学校において、給食調理員3名で、本館4階の配膳室の清掃作業中、窓拭きを行っていた被災者が、外側の窓ガラスを拭くために、3階の庇の上に降り作業を行っていたとき、庇の上から11.5メートル下の地面に墜落した。	10109	1～9
2006	9	9 ～ 10	木造建築新築現場において、1人で作業を行っていた被災労働者が、土場に倒れているのを訪問者に発見された。	30202	10～ 29
2006	7	16 ～ 17	ビル改築工事現場において、2階外部壁面窓枠上部に取り付けられた換気扇用排気口グリル（雨水等浸入防止カバー）の取替え作業を行っていた被災者が、高さ約5メートルの2階窓枠部分から地上へ転落した。	30201	1～9
2006	10	15 ～ 16	道路の拡張工事に伴うコンクリート製の水路の設置現場において、被災者は水路に設置された高さ1.1mの集水升の横にある石の上でうつ伏せになって倒れていた。	30106	1～9
2006	8	14 ～ 15	発電機建屋周囲の土間コンクリート打設後、被災者が転落防止柵に付着したコンクリ飛沫の拭取り作業を一人で行っていたが、9.5m下の水面（ダム擁壁すぐ下の水たたき部、水深1m）に浮いている姿が発見された。	30102	1～9
2006	11	11 ～ 12	コンクリート擁壁のコンクリート打設作業のため、地上高約7.5mの足場を組立作業中、被災者は擁壁にセパレータで固定していた角鋼管をはしごがわりとして機材を取りに地上に降りていたところ、高さ7mの位置に仮置きしていた角鋼管があり、被災者はこれをつかんだため、鋼管とともに地上に墜落した。擁壁はベニヤ板、セパレータ、角鋼管を型枠材として組み立て、これにコンクリートを流し込んで築造する。	30108	1～9
2006	2	9 ～ 10	栈橋解体の作業において、被災者は地上付近のブレース（筋交い）を溶断し、上方のブレースを溶断しようと鉄骨の支柱を上っていたが、安全帯のフックを掛け換えたとき、約5m下の地面に墜落した	30106	1～9
			生コンの追加注文が入ったので生コンプラントの操作室へ連絡したところオ		

2006	12	16 ～ 17	ペレーターの被災者が内線に出ないため従業員全員で被災者を探したところ、骨材ヤード内骨材びんの一つに骨材をつつく棒がささっているのを発見し、つつき棒のささっている骨材びんを掘ったところ被災者が埋まっているのを発見した。	10901	50～ 99
2006	11	8 ～ 9	中期点検工事において、エンジンの修理を請け負い、会社から持ち込んだ機械を搬入し段取り中、エアーの供給口にホースの取り付けをしていた被災者が、取り付け直後に乾ドッグの縁から約8メートルの深さのドックの底に墜落した。	11501	1～9
2006	11	19 ～ 20	1 tトラックの荷台から荷を降ろし配送用の荷物の仕分け作業を行っていたところ、ホームから地面に墜落（1 m強）した。	40301	10～ 29
2006	12	9 ～ 10	液化ガス貯蔵タンク（直径約40メートル、高さ約30メートル）の屋根面の塗装作業を行うため設置したゴンドラの撤去作業中、ゴンドラのワイヤロープの取外しを行っていた際、高さ約28メートルの貯蔵タンクの上部から作業員2名が墜落した。	30309	1～9
2006	12	9 ～ 10	液化ガス貯蔵タンク（直径約40メートル、高さ約30メートル）の屋根面の塗装作業を行うため設置したゴンドラの撤去作業中、ゴンドラのワイヤロープの取外しを行っていた際、高さ約28メートルの貯蔵タンクの上部から作業員2名が墜落した。	30309	1～9
2006	9	10 ～ 11	被災者は、前日に降った雨により製品倉庫内に保管してある出荷前の商品が雨漏りによる影響がないかを確認するため、朝礼終了後一人で製品倉庫へ向かい、7月に補修した製品倉庫の屋根の状況を確認しようと3階の非常口から屋外のベランダに出て、補修箇所の外観を確認していたところ13.3メートル下の構内通路面に墜落した。	50101	1～9
2006	12	13 ～ 14	橋台深礎杭の主筋建込み後、安全带2丁掛けの一丁のフックを腹部の位置から取付け、水平方向に移動しようともう一丁のフックを外したところ、腹部の位置に取付けていたカラビナからフックが抜け、被災者は約11m下の杭底に墜落した。	30106	10～ 29

2006	12	16 ～ 17	電柱上で設備点検作業を行っていたところ、安全带ランヤードのフックと補助フックの掛け違いにより高さ約8 m下の河川に墜落した。	110101	30～ 49
2007	9	16 ～ 17	牛舎を建設するため、被災者は、当該牛舎の屋根頂部に上り、鉄骨で組み立てられた換気口の傾きを修正する作業を行っていたところ、屋根の鉄骨と鉄骨との間に50 cm間隔に並べられていた垂木を踏み折り、約9.5 m下の地面に墜落した。	70101	1～9
2007	8	17 ～ 18	生コン工場内において、被災者が見当たらないので、プラント内を探していたところ、セメントサイロ（30 t）の上部点検口が開いており、中に入ると様子がおかしいので、セメント粉体内をさがしたところ、埋まっている被災者を発見した。既に死亡していた。	10901	10～ 29
2007	6	13 ～ 14	被災者は、9階客室の椅子・テーブル等のセットの業務に従事していた。客室の最終点検を行ったリーダーから、客室のコップが不足しているため補充すること及び虫が入っているため客室より追い出すことを指示され、窓を開けて「はたき」で虫を追い出していたところ、開けた窓から24 m下の地上に墜落した。	150101	100 ～ 299
2007	4	13 ～ 14	木造家屋建築工事現場で建方作業中、被災者は1階天井部分となる梁上で柱の設置作業を行っていたところ、約3.5 m下へ落下した。	30202	1～9
2007	8	15 ～ 16	鉄骨造3階建て建物の解体工事現場において、被災者が地上約3.7 mの鉄骨梁の上で鉄骨同士をつないでいる部分をガス溶断したところ、被災者が片足を載せていた一方の鉄骨が垂れ下がり、被災者がバランスを崩しコンクリート地面に墜落した。作業場所には親綱が張っており、被災者は保護帽、安全帯を着用していたが、安全帯は使用していなかった。	30201	1～9
2007	3	12 ～ 13	トレーニングセンター内の階段状の植え込み上、地上高さ約7 m付近に上がり、刈った枯れ枝を手で下へ掻き落としていた被災者が、足を踏み外して地面（アスファルト面）に墜落した。	30309	100 ～ 299

2007	9	15 ～ 16	高さ約4.5m、傾斜約26度のコンクリート製擁壁の上で除草作業を行っていたが、休憩の時間となったため、擁壁下の道路に降りようとしたところ、擁壁の上を滑るようにして転落した。	30199	1～9
2007	7	11 ～ 12	被災者は高さ2.3mの資材置き場2階で足場板を番線で縛っていたが、バランスを崩して北側の雑木林へ転落した。	30309	1～9
2007	8	22 ～ 23	大雨により水位の上昇したダムでの放流を行うため、同僚1名と事前の点検作業中、国道の橋の上から下部の河川敷の状況を確認していたところ、欄干上部から約30m下の河川に転落し、15時間後約1.5km下流で発見された。	11601	30～ 49
2007	3	10 ～ 11	小学校の校舎の窓ガラスの清掃作業中、2階にいた作業者が何か落下したような音を聞いたため、様子を見に行ったら、地上に倒れている被災者を発見した。校舎3階の窓枠に足をかけ、身を乗り出して窓ガラス外側の清掃を行っていたところ、地面に墜落したと思われる。なお、被災者は安全帯、保護帽を着用していなかった。	150101	50～ 99
2007	6	10 ～ 11	深さ0.45mのピット内にある薬物保管庫（高さ1.6m）天井部分に登り、転倒防止措置（保管庫を埋め込んだネジにロープで固定すること）を一人で進んでいた。発見時ピット内に倒れていた。	11409	1～9
2007	10	16 ～ 17	信号柱に登りケーブル線交換工事を行っていた。ケーブル線を柱の先端から2方向にテンション張りするため、一方を終えてもう一方のケーブルを工具を使用して締め付けていたところ、突然、信号柱が中央部で折れて柱の上部で作業していた被災者は柱とともに地上に墜落した。	30301	30～ 49
2007	3	9 ～ 10	2階便所内装工事において、室内壁にボード板を取り付ける作業を行うにあたり、災害発生当日、1階棟内通路がワックスがけにより使用できなかったため、棟外の渡り廊下から便所外側霧よけ上を通り、便所の窓から出入りしていたところ、霧よけ上から約4m下のアスファルト地面に墜落した。	30203	10～ 29
		14	個人住宅の外装工事において、親方が壁のひび割れのモルタル補修を、被災者が塗装の準備作業である養生シートを敷く作業を離れて行っていた。親方		

2007	2	～ 15	が西側で作業をしていると「ドスン」という音がしたため、東側へまわってみると車庫前で被災者がうつ伏せに倒れていた。	30209	1～9
2007	11	～ 10	被災者は、4階建てマンションの屋上で、ハッチの塗装作業を行っていた。養生のために敷いていた布が風で飛んだため、これを追いかけて取ろうとしたところ、高さ11.95mのマンションの屋上から墜落した。	30201	30～ 49
2007	5	～ 12	宅地販売業者から貯水池に面する斜面の草刈作業を請負い、刈り終えた草を集めて斜面上方まで運搬する作業を4人で行っていたところ、そのうちの1人が斜面に設置されていた貯水池へつながる排水溝（深さ1.2m）に墜落した。墜落時、被災者は保護帽を着用していなかった。	30109	1～9
2007	12	～ 15	自動車修理工場（平屋建て、高さ4.84m）の解体工場の現場において、ハンマーで壁面のスレートを解体していた被災者が、工場に隣接する道路上で倒れているところを発見され、病院で死亡した。	30209	1～9
2007	3	～ 15	被災者は単独で小学校体育館の窓ガラスの清掃作業を、窓の棧（幅12cm）に足を乗せて行っていたところ、8.3m下の体育館外側の小学校敷地に墜落した。	150101	1～9
2007	8	～ 16	木造3階建住宅新築工事において、荒床板貼り作業のため、床板を梁上に並べ、後退しながら釘打ち作業を行っていた際、次に釘打ちをするために並べた床板に足をかけたところ、床板が斜めに傾き、その隙間から1階コンクリート基礎床に墜落した。	30202	1～9
2007	12	～ 10	病院南棟2階で、被災者は窓の外側をスクイジーによるシャンプーの拭き取り作業を行おうとして誤って転落した。	150101	1～9
2007	11	～ 14	3階建て分譲マンションの外部窓ガラスの清掃作業を行なうため、高さ約130mの3階屋上に上り、建物中央の吹き抜け開口部（370cm×337cm）付近で、ロープ（長さ80m）を丸環に結ぶ等のブランコ作業の準備作業をしていたところ、誤って吹き抜け開口部から地下1階（高低差12m）へ墜落した。	150101	10～ 29

2007	11	15 ～ 16	被災者が自宅に帰って来ないので会社に電話し、勤め先の管理人が探したところ、清掃用具置き場のピット底に被災者が倒れているのを発見した。	150101	10～ 29
2007	3	8 ～ 9	標高700m付近から当日作業予定だった標高900m付近の治山ダムに作業員4名と向かう途中、被災者のみ別の治山ダムに立ち寄り天端付近より約3m下に墜落した。救助隊によりヘリコプター搬送されたが死亡した。	30108	30～ 49
2007	10	9 ～ 10	アパート外壁塗装工事現場において、2階建の屋根から墜落した。建物の養生を直すために屋根に上っていた。	30309	1～9
2007	1	15 ～ 16	下水道処理施設の改修工事において、反応槽のFRP製の蓋の上を作業員3名が歩行していたところ、蓋を支持していたコンクリート製の受台とともに、3枚の蓋が幅1.6m、長さ6mにわたって落下し、作業員3名が墜落した。被災者は約10m下に墜落した。	30203	1～9
2007	9	8 ～ 9	夜間の国道の舗装工事において、現場事務所で元請から交通誘導員に対する教育を受けた後、約200m離れた工事現場の詰所に向かって街灯のない市道を歩いていたところ、橋の上から深さ約1.9mの用水路に転落した。	170201	10～ 29
2007	4	10 ～ 11	開閉式アーケード屋根上でアーケードのひび割れ箇所を確認しようと、ポリカーボネート板（厚さ3mm）に乗ったところ、当該板が割れ、これを踏み抜き、約9.1m墜落した。	30209	1～9
2007	8	16 ～ 17	灯油貯蔵タンク内の製品のサンプル採取を行うためにタンク上に登った作業員が、高さ約10mのタンク上から墜落した。	170209	50～ 99
2007	3	8 ～ 9	庇増築工事にて、被災者は、移動式足場に乗り作業を行っていた。被災者が通りかかった元請責任者に声を掛け、元請責任者が移動式足場を登っているときに、移動式足場が動き、被災者が移動式足場から墜落した。	30209	10～ 29
		17	4階フロアの機械室と同階クリーンルームエリア間を結ぶダクト設置作業において、機械室とクリーンルームエリアに分かれて作業を行い当該設置作業		

2007	9	18	～	が完了し、クリーンルーム側で作業を行っていた被災者が機械室側に戻る途中、機械室側へ通じる扉と間違え、搬送リフト昇降路の点検扉を開け足を踏込んだため、4階フロアより25m下の当該昇降路ピットへ墜落した。	30302	1～9	
2007	2	11	～	被災者は、浄水場に送水するための取水口の引入口付近で、点検維持管理業務を行っていたところ、水面からの高さ約1.7mのところから水面へ墜落した。	11603	50～ 99	
2007	6	9	～	製氷の具合を点検するため、冷却機の製氷タンク（高さ2.7m、直径2.3m）の上に登ったところ、同タンクから墜落した。被災者は安全帯や安全帽等を着用していなかった。	130201	100～ 299	
2007	3	8	～	9	建物の維持管理業務中、10階廊下手摺り上部に異常を発見し、その後、作業中に10階から転落した。	170209	30～ 49
2007	9	12	～	13	ホテル建物の8階外部装飾に鳩が入ってくるのを防ぐため、被災者は鳩よけネットを取り付けようと、この外部装飾に上り作業をしようとしていた。この部分はコンクリートとベニヤ板でできており、被災者はこのベニヤ板部分を踏み抜き1階まで墜落した。	140101	1～9
2007	5	19	～	20	9階建ての既設マンション屋上で行われていた携帯電話基地局建設工事において、作業員7名がアンテナの設置作業中、被災者は、屋上端から身を乗り出し、アンテナケーブルのテーピングを行っていた。被災者は作業を終え、屋上内部に戻ろうとしたところ、地上27.3mの高さから墜落した。	30301	10～ 29
2007	12	15	～	16	他の作業員1名と共にケーブル配線作業中の被災者が天井クレーンのランウェイから8.5m下のコンクリート床下に墜落した。被災者が作業していたランウェイ（幅30cm）端には手すり等はなく、防網の設置もなかった。災害時の被災者は、保護帽、安全帯、安全靴を着用していたが、親綱等もなく安全帯は使用していなかった。	30301	1～9
2007	4	13	～		休憩を終えた被災者は、当日午後からの作業場所である立坑底部に向かうため、土留支保工（3段目梁）上に設置された鋼製足場（高さ4.84m）を移動中、頭部を2段目梁のブラケットにぶつけ、バランスを崩して墜落し	30110	10～ 29

		14	た。		
2007	8	12 ～ 13	マンションの敷地内で雑草などを除去作業中、高さ4.4mの擁壁の端から地上に墜落した。	80409	10～ 29
2007	1	12 ～ 13	調整池の排水路の改修工事作業所において、コンクリートポンプ車を無線操作するため、運転者がコンクリートポンプ車とコンクリート打設場所が見える位置まで移動しようとして排水路脇の幅約40cmのコンクリート製堰堤の上部を歩行中にバランスを崩して約8m下のコンクリート製の排水路底部に墜落した。	30107	1～9
2007	11	14 ～ 15	駐車場外周の集草作業（雑草の伐採、収集）を行っていたところ、幅約1.2mの擁壁の犬走り上から、4.4m下方の民家敷地に墜落した。	60101	1～9
2007	10	20 ～ 21	社用車を駐車した付近にある道路脇のガードレールを超えて6m下に墜落した。	30106	1～9
2007	5	15 ～ 16	ダム本体工事におけるコンクリート製造設備解体工事において、ベルトコンベヤー（全長約44m）の最上部のボルト外しを行い、移動式クレーンでつり上げ地上に下ろすため、つり上げる最上部の1スパン下のベルトコンベヤーに作業員3名が待機した後、最上部をクレーンでつり上げたところ、3名が待機していたベルトコンベヤー上部側が支柱から外れ、作業員3名と共に約20m下の地上に墜落した。	30199	1～9
2007	5	10 ～ 11	市役所3階屋上に設置してある空調用冷却塔（クーリングタワー）の清掃作業時に、約8m下の1階屋上に墜落した。	170209	1～9
2007	3	10 ～ 11	製造蔵2階の醗酵室において醸造中の仕込タンク開口部の転落防止柵がはずされた状態で高圧洗浄機のホースがタンク内に入っているのを不審に思った同僚が、タンク内部で浮いている被災者を発見した。	10105	10～ 29

2007	4	16 ~ 17	<p>廃棄物処理施設の2階作業場において、被災者と同僚の2名でペットボトルを詰めた袋（80cm×80cm×80cm約25kg）をショベルローダーのバケットに積み込む作業を行っていたところ、同僚がバケットに手を添えていた被災者に気付かず、積み込み終了の合図を出したために、ショベルローダーの運転手がバックし、被災者が2階作業場（高さ約4m）より1階のコンクリート床に墜落した。</p>	150109	30~ 49
2007	3	11 ~ 12	<p>鉄骨2階建て倉庫の新築工事現場において、高さ7.4mの大梁上（幅20cm）で、小梁を取り付け作業中、地面に墜落した。</p>	30201	10~ 29
2007	7	9 ~ 10	<p>天井クレーンの走行レール上において作業を行い、作業終了後、地上に下りるため、作業場所から通路を通り、さらに通路から天井クレーン点検通路に渡ろうとしたところ、バランスを崩し、天井クレーンのガーダとガーダの間から約6.6m下の地上に墜落した。</p>	11209	10~ 29
2007	9	9 ~ 10	<p>岸壁に係留し艀装中のコンテナ貨物船の船首フォックス（船倉）で塗装作業の補助作業（ホース引き）に就いているはずの被災者が、約25m離れた場所にあるカーゴ・ホールドの底部で倒れているところを発見された。2.6mあるカーゴ・ホールド内の段差か、約14mあるカーゴ・ホールドトップから墜落したと思われる。</p>	11501	10~ 29
2007	12	11 ~ 12	<p>エレベーターの定期点検のため、4階と5階の間に搬器を停止させ、各階に分かれ昇降路の戸を開き、搬器上部と下部の機器類の点検等を行っていたところ、4階で点検等を行っていた被災者が、昇降路の出入口から約12m下のピットに転落した。</p>	11301	1~9
2007	4	14 ~ 15	<p>移動式クレーンで足場部材を立坑下部に下ろすため、被災者が地上で部材に玉掛けし、クレーンオペレーターが立坑の開口部上につり荷を移動させたところ、被災者がつり荷の向きを変えようとして開口部に設置された手すり（高さ80cm）を乗り越え、つり荷に手を伸ばした際、足を踏み外して深さ約30mの立坑下部へ墜落した。</p>	30102	1~9
			被災者は、手持ちグラインダーを用いて、鋼製の船体ブロックに製作作業用		

2007	8	11 ～ 12	に取り付けられていたつりピースをガス切断にて外した跡の手直し作業を行っていたところ、船体ブロックの当該作業位置（高さ5.27m、幅0.8m）から地面に墜落した。	11501	10～ 29
2007	3	11 ～ 12	被災者が、海岸沿いにおいて同僚の運転するワゴン車を後方に誘導していたところ、階段状の堤防より転落した。	130201	1～9
2007	5	14 ～ 15	被災者は、ホテルの空調設備の整備作業（冷却用ポンプのモーターシャフトとポンプ間のグランドパッキンの交換）を行っていたが、作業終了後、当該ホテルの屋上より約2.7m下の隣接家屋のベランダ部分へ墜落した。	80409	1～9
2008	2	15 ～ 16	被災者は、14時に昼休みを終了し、日直の職員に「2階の雪下ろしを行う」と申し送りして、一人で2階入所者用居室のベランダ部分の雪下ろし作業を行っていた。その後、15時頃に雪下ろし作業をしていた場所から4.71m下の職員玄関前（雪下ろし作業をしていた直下）に倒れているのを入所者に面会に来た人が発見した。なお、保護帽・安全帯は未着用であった。	130201	50～ 99
2008	2	13 ～ 14	高さ41mの既設分譲マンションにおいて、マンション管理会社から委託された事業場の作業者が、屋上の屋根からはね出していた雪庇をスコップで落としていたところ、地上へ墜落した。安全帯は使用していなかった。	30209	10～ 29
2008	8	8 ～ 9	被災者は同僚2名と小学校の3階にある教室の外側の窓を清掃作業中、被災者は二段窓の上段窓枠に両足をのせて窓を両脚ではさむように窓拭きをしていたところ、バランスを崩して10.4m下のタイル張りの校庭に墜落し死亡した。なお、安全帯等の墜落防止措置はしていなかった。	150101	50～ 99
2008	11	23 ～ 24	空港内に設置された航空保安無線設備の更新工事において、被災者は夜間一人で新設した鉄塔（GS空中線柱、高さ16m）に上がり、約8mの箇所と同軸ケーブルを結束固定していたクレモナロープの手直し作業中に墜落した。翌朝、鉄塔下で倒れているところを発見された。	30301	10～ 29
		15	ふるい分け工場内において、被災者と同僚2名はホッパー内の粒状肥料をフレコンバックに詰め込む作業を行っていた。同僚の携帯電話に被災者から電		30～

2008	12	～	16	話があり、同僚は被災者が何も話さないため周りを見たところ、ホッパー出口から被災者の足が見えたため、救出して病院に搬送したが、翌日死亡した。	50101	49
2008	10	～	23 24	被災者は、石炭焚きボイラーへ石炭を供給するためのホッパー内の石炭上を移動していたところ、すり鉢状になった石炭の中心に向かい転落して石炭に埋まった。ホッパー底部のダクトの一部を切断して被災者を救出したが死亡していた。	11609	1～9
2008	3	～	13 14	木造2階建のモデルハウスの新築工事の現場写真を撮るために足場を上り、小屋裏部屋の床（高7m）と外部足場の隙間（0.8m）から墜落して死亡した。墜落途中で足場の部分や角材にあたった。着用していたヘルメットは外れ落ちていた。	30202	1～9
2008	10	～	14 15	被災者が粉殻サイロ（高さ12.14m、幅6.74m、奥行き10.3mでその底に2箇所排出口がある構造）内に入り、粉殻の均し作業を行っていたところ、サイロ内に貯まった粉殻をトラック荷台に積み込みするため、粉殻サイロ底の排出口を開けたとき、粉殻サイロ内の粉殻が流動して中にいた被災者らが粉殻内に吸い込まれ被災した。	170209	10～ 29
2008	10	～	14 15	被災者が粉殻サイロ（高さ12.14m、幅6.74m、奥行き10.3mでその底に2箇所排出口がある構造）内に入り、粉殻の均し作業を行っていたところ、サイロ内に貯まった粉殻をトラック荷台に積み込みするため、粉殻サイロ底の排出口を開けたとき、粉殻サイロ内の粉殻が流動して中にいた被災者らが粉殻内に吸い込まれ被災した。	170209	10～ 29
2008	9	～	17 18	社屋内の一側面が開放されている休憩所（喫煙所）で休憩している時、休憩所の脇を流れている水路（段差1.4m、幅1.8m、水深0.2m）に転落して死亡した。	11209	10～ 29
2008	1	～	11 12	4階建旅館の2階と3階の客室窓ガラス清掃作業を1階屋上石庭から行っていたところ、バランスを崩して約5m下のコンクリート製階段踊り場付近に墜落して死亡した。	140101	10～ 29
				自走式駐車場の側溝（幅22cm）補修工事において、フェンスとフェンスの		

2008	12	9 ～ 10	間（幅38cm）からモルタルを塗っていたところ、フェンスが開いて15.8m下のコンクリート地面に転落した。なお、フェンスは消防車が外から開けられるよう外側に取り手があったが、取り手が壊れていて番線で縛られていた。	30209	1～9
2008	3	18 ～ 19	消石灰貯留槽内の消石灰の詰まりを直す際、貯留槽のはしごに乗って作業を行っていたところ、約2mの高さに詰まっていた消石灰に墜落して石灰の中に埋まり死亡した。	150109	10～ 29
2008	5	10 ～ 11	個人住宅リフォーム工事のための解体作業で、2階建物の床板をはがしていた際、厚さ3mmのベニヤ板一枚のみの状態となった床を歩いた作業者が、ベニヤ板を踏み抜いて約4m直下の1階コンクリート床面に墜落して死亡した。	30209	1～9
2008	3	13 ～ 14	クリーンブースの解体工事現場において、クリーンブースの上に設置されたクリーンユニットと称する箱型の換気装置の撤去作業の際、被災者を含む3名でクリーンブースの上に乗ってクリーンユニットを持ち上げて一旦仮置きしたところ、バランスを崩した被災者がクリーンブースの端から2.5m下の地面に墜落して死亡した。	30302	10～ 29
2008	3	12 ～ 13	サイロの解体工事で、サイロの排出口から砂が排出されずに残っていたため、被災者がサイロに入り下端部をハンマーで叩いていたところ、砂が流れ出してサイロ内で生き埋めとなった。	30209	1～9
2008	1	9 ～ 10	外壁修繕工事後の終了後、修繕工事の対象となったビルの9階屋上で改修箇所の確認作業を行っていたところ墜落した。	30209	1～9
2008	5	11 ～ 12	3階建建築物の軽量鉄骨建方工事において、屋上に移動式クレーンで搬入された壁材の取り付け作業をしていた。その際、屋上で被災者が壁材（重量30～40kg程度）を抱えた時、つまづいて9.5m下の駐車場予定敷地に設置されていた移動式クレーンのサイドミラー部に激突後、移動式クレーンの沈下防止用に設けられていた敷き鉄板上に墜落した。	30202	50～ 99

2008	2	11 ～ 12	隣家の塀（高さ2.09m）に乗って塗装前のビニール養生を行っていたところ、バランスを崩して塀と室外機との間に墜落した。	30202	1～9
2008	3	14 ～ 15	被災者は、機械式立体駐車場の定期点検中に上層スペースでリフト装置と駐車室のローレベル（下限）を測定後、下層に降りる際、スペースフレームから垂直はしごに移動しようとして足を踏み外してピット最下部（深さ4m）に墜落して死亡した。被災者は、ヘルメット、安全帯を装着していたが、移動のため安全帯は使用していなかった。	11702	1～9
2008	11	15 ～ 16	定期的な電気使用量のメーター検針業務を行うにあたり、事務所棟の2階屋上に設けられた受変電設備へ向かうため、通路の内側から高さ1m40cmの手すりを乗り越えて屋上の床面に着地したところ、バランスを崩して床面から高さ62cmのパラペットを越えて5m45cm下の地面に墜落した。	170209	10～ 29
2008	10	11 ～ 12	被災者ら3名は、イベント会場設営のための事前の下見作業中、宴会場の天井裏に敷設された歩廊上で天井バナー吊のつり元の状況確認を行っていた際、付近の写真撮影をしていた被災者が、厚み約1cmの天井板を踏み抜き、会場床まで約15m墜落して死亡した。なお、被災者は保護帽及び安全帯を携行していたが着用していなかった。	170209	30～ 49
2008	7	10 ～ 11	鉄骨2階建て（屋上に塔屋あり）の建築物の解体工事において、塔屋部の鉄骨材を切断して2階屋上の端部から投げ下ろしていたところ、鉄骨材と一緒に約6.3mの高さから墜落した。	30209	1～9
2008	2	11 ～ 12	小学校校舎（鉄筋コンクリート3階建て）の窓拭き作業中、2階の庇部分からバランスを崩し、約4m下の地上に墜落した。安全帯は腰に巻いたが、使用していなかった。	150101	10～ 29
2008	12	11 ～ 12	自社倉庫脇の資材置き場において、資材を風雨から避けるために単管等で仮設していた仮囲いの解体作業を一人で行っていたところ、屋根部分から約3.1m下に墜落した。なお、被災者は保護帽や安全帯は着用していなかった。	11709	10～ 29
		11	建物屋上塔屋で点検口確認作業後、塔屋外壁にある鋼製タラップを降りて庇		

2008	11	～	(幅75cm)の端に右足を掛けたところ、バランスを崩して3.45m下の建物	30209	1～9
		12	屋上コンクリート面に墜落して死亡した。		
2008	5	～	新聞配達中に、次の場所へ移動しようとして徒歩で車に戻ろうとしたところ、道路脇の側溝に転落した。側溝内で意識がない状態で倒れているところ	80205	30～
		5	を発見されて病院に搬送されたが、死亡した。		49
2008	9	～	復旧治山工事において、法面吹付け工事のための丸太の作業構台を設置する作業を行っていた。ケーブルクレーンを使用して丸太をつり込み、設置中の作業構台に番線で固定する際、当該丸太が作業構台の一部に接触していたにもかかわらず巻き上げを続けたため、当該丸太をつっていた玉掛用ワイヤ	30108	1～9
		16			
		17	ロープが切れた。その反動で被災者は、当該丸太とともに4m下の法面に墜落して、そのまま約86m滑落した。		
2008	7	～	被災者はドラグ・ショベルでコンクリート等の廃材の山を整理する作業を行っていた。朝礼後、作業を開始するために廃材の山に登ろうとして擁壁付近を通過しようとしたところ、高さ3mの擁壁の上から墜落して死亡した。	150103	10～
		8			29
2008	7	～	貨物船の修繕工事において、ハッチ開閉用のチェーンのねじれを戻す作業を行っていたところ、船底に墜落していた被災者を発見した。甲板通路の船底側には、高さ70cm幅46cmのハッチコーミングがあり、それを乗り越え墜落したか、墜落防止措置のないハッチカバーの端から墜落した。	11501	10～
		23			29
		24			
2008	2	～	減容機器（マグネシウム鋳造時の端材を破砕する機械）の覆い上部と排気ファンを接続するダクトを製作据付する作業に従事していた。被災者は、減容機器の覆い上部に昇降するためのはしご、あるいは、減容器の覆い上部を	11102	50～
		10			99
		11	移動中に2.7m下の縞鋼板に墜落し、その後、さらに1.2m下のピットに墜落した。		
2008	2	～	4階内装解体工事において、エスカレーター横の断熱ボードをはがす作業をしていた際、階下の同僚作業者に指示を出そうとして同ボードの隙間にあ	30309	30～
		10			49
		11	ていた65cm程度の開口部から身を乗り出してのぞいていたところ、1m84cm下のエスカレーター上に墜落した。		

2008	12	10 ～ 11	作業所事務所が入居している8階建ビルの屋上で施工中のビル新築工事現場を写真撮影中、約26.4m下の道路に墜落して死亡した。	30201	300 ～
2008	12	10 ～ 11	作業員4人で、従業員の実家敷地内の苗木の採取作業を始めた際、集合場所に被災者が来ないので3人で捜したが見つからなかった。工場に応援を頼み捜したところ、井戸の入口から1.5mの所に苗木の採取用のビニール袋があったため、レスキュー隊によりさらに捜索したら井戸の底に沈んでいるのを発見した。	10806	300 ～
2008	8	6 ～ 7	自転車で朝刊配達を終えて販売店に戻る途中、農業用水路に自転車ごと転落して死亡した。	80205	10～ 29
2008	9	9 ～ 10	消波ブロック製作のため、被災者は消波ブロックの型枠の上部でコンクリート打設作業をしていた。となりに並べられた型枠に木製の足場板を渡して移動した後、元の消波ブロックの型枠に戻ろうとして足場板に足を掛けた時、足場板が天秤の状態になり、足を載せた足場板が沈み込んでバランスを崩して高さ1.8m下の地上に墜落した。	30111	10～ 29
2008	5	10 ～ 11	発電所のつり橋上で足場部材の片付け作業を行っていたところ、つり橋踏板の端から約8.7m下の川に墜落して死亡した。	30105	1～9
2008	1	11 ～ 12	被災者は、倉庫の改修にかかる内装の損傷状況調査を行うため、2階にあるステージ上（2階床からの高さ約3m）で天井ボードの損傷状況を確認していたところ、荷揚げ用開口部から墜落して死亡した。	170209	10～ 29
2008	4	17 ～ 18	8階建てマンションの屋上部において、足場のシートを片付けるためにシート端を持って後方へ移動中、転倒して建物中央部吹き抜け部から落下した。	30209	1～9
		14	1階壁の上部型枠を解体中、床上で足場2段目の他の作業員から降ろされるパネルを受け取る業務を行っていた時、作業員の姿が見えなくなったので確認すると1階床で仰向けに倒れていた。作業場所周辺の1階床上には、コンク		50～

2008	11	～ 15	リート製のダクトの立ち上がりが40cmあり、中心には50cm四方の開口部があった。開口部には、雨よけのシートがかぶせてあり、そこに足を突っ込んだ状態で倒れていた。	30209	99
2008	12	～ 16	傾斜地に建てられた建物の解体工事中、手元工として入場していた被災者が、解体に伴いできた高さ3mの段差の下で倒れているのを発見され、その後死亡した。	30209	1～9
2008	8	～ 11	採石場内に破碎機を設置する工事において、破碎機の付属設備である仮置き中の架設通路に、移動式クレーンでつり上げた張出しデッキを取り付ける作業を実施した、その後、玉掛したワイヤロープをはずしたところ、架設通路が張出しデッキ側に傾いて地上に落下したため、架設通路上で作業していた被災者が架設通路とともに約10m下まで墜落した。	30302	1～9
2008	5	～ 12	3階建て店舗の屋上において、被災者と他の店員の2名で採光用の窓ガラス（厚さ約5mm）に日除け用のシートを被せようとしていたところ、被災者が当該窓ガラスを踏み抜いて約8m下の階段の踊り場に転落して死亡した。	80302	1～9
2008	5	～ 15	移転後の工場建屋内の設備の撤去工事において、壁面のラック等の設備の撤去作業等に従事していたところ、壁際の床に倒れているのを発見された。壁面構造物からの墜落であった。	30302	1～9
2008	9	8 ～ 9	ドック内のブロック組立定盤で番船の船首部ブロック組立作業を行っていたところ、高さ4.82mから墜落して死亡した。	11501	1～9
2008	4	～ 14	倉庫壁面にスレートを設けるため、倉庫内側の地面から高さ170cmの仮設足場上において、被災者は、右手を倉庫の外側に出して取り付け予定のスレートに左手をかけて身体を支えながら作業をしていた。その際、当該スレートが割れて反動で倉庫外部に飛び出し、地面からさらに2.4m下の側溝に墜落した。	30201	10～ 29
2008	12	～ 14	治山工事現場において、防護柵の組立て作業中に用具（はしご）を取りに行くとくよう指示を受けた被災者が行方不明となった。捜索したところ、現場敷地	30108	10～ 29

		15	内の古井戸（直径76cm、深さ約19m）に転落しているのを発見された。		
2008	12	8 ～ 9	スラグ材（リサイクル材）が入ったホッパー（投入口：縦・横3m、深さ約3.5m）下部の材料出口部分にスラグ材が詰まったため、スラグ材の上から鋼管を突き刺して下に押し出す作業をしていた。その時、突然、足元のスラグ材が崩れて被災者がスラグ材に埋没した。	40302	10～ 29
2009	1	15 ～ 16	店舗兼住宅の底部分の除雪のため、被災者はトラクター・ショベルのバケットに乗せられ、底の一部の雪庇を落とした後、当該底部分（高さ4.56m、幅85cm）に乗り移り、足元の雪を踏み固めていたところ、バランスを崩し墜落した。	150109	10～ 29
2009	11	11 ～ 12	マンションの出入口の1階の庇の上に倒れている被災者（マンションの管理人）を向かいのビルの会社員が発見した。被災者は11階供用部廊下の清掃前の換気のために、外開きの窓を開けた際、バランスを崩して約30m下の1階庇に墜落した。	30202	50～ 99
2009	2	13 ～ 14	既設の鉄塔（高さ40m）にアンテナを取り付ける作業において、鉄塔を登り作業場所へ移動していたところ、地上約20m～25mの位置から墜落し、現場敷地内のフェンスに激突した後に地面に墜落した。	30309	1～9
2009	11	11 ～ 12	ボイラー機械室屋上において、テレビ受信のために設置した臨時アンテナを取り外す作業中、アンテナパイプを固定していたステンレスバンドを外す際に、工具に力が入りすぎて勢い余って屋上から約3m下の地面へ墜落した。	80209	1～9
2009	3	10 ～ 11	原子力発電所内の廃棄物処理棟地下1階に設置されている廃棄物貯蔵タンクの内壁・外壁の外観検査を行っていた（放射線管理区域内）。被災者は、詰所に戻るため、検査中のタンク上面から30cm離れた隣のタンクへ渡した足場板を渡ろうとしたところ、タンク間の隙間から約9m下の床面に墜落した。	170209	50～ 99
2009	9	16 ～ 17	警備員として勤務していた被災者が、施設外に出してしまったボールを回収し、作業場に戻る途中、高さ3.5mの塀を乗り越えようとして、塀の上から墜落した。	170201	10～ 29

2009	9	15 ～ 16	17階型枠スラブにおいて、被災者2人が、階段開口部をふさぐために梁型枠上に掛け渡された8枚のデッキ（デッキ1枚につき、長さ2750cm、幅61cm、厚さ1.6mm、重さ30kg）上で話をしていたところ、突然梁型枠の一部が外れ、デッキ5枚とともに、約8m下の作業構台上に墜落した。1人が死亡し、1人が負傷した。デッキ上には、被災者の外、パイプ馬と呼ばれる鉄製の道具30個等が置かれていた。	30301	1～9
2009	4	14 ～ 15	被災者は、入庫ホーム上で、飲料入りケースをベルトコンベヤーに投入する準備作業中に足を踏み外してホーム下に転落した。	50101	100 ～ 299
2009	2	7 ～ 8	会社の資材置場において、足場用のパイプを棚から降ろしている際、棚から約3m墜落した。	30201	10～ 29
2009	12	10 ～ 11	到着する列車の車内清掃を行うため、駅構内プラットホームの乗車位置付近で待機していたところ、1.26m下の軌道（線路）内に転落して血を流しているのを同僚に発見された。直ちに救急車で病院に搬送されたが数時間後に死亡した。	150101	10～ 29
2009	6	7 ～ 8	鉄骨柱の建方作業中、通常地上から鉄骨柱を玉掛けしているコラムロックの玉外しを行うが、不具合により玉外しできなかったため、被災者が鉄骨柱（高さ約15m）に登り、コラムロックの玉外しを終了し、間もなくして鉄骨柱が倒れ、被災者が鉄骨柱とともに地上スラブ面に墜落した。	30201	100 ～ 299
2009	9	14 ～ 15	体育館に通じる階段の窓拭き作業終了後、窓枠のヘリ（幅30cm）に上がり建物の内側から網戸を取り付けていたところ、2.3m下の踊り場床面に墜落した。	150101	100 ～ 299
2009	10	12 ～ 13	火力発電所から変電所に送電するための送電線の架線工事中において、A鉄塔からB鉄塔に向かって送電線に接触防止のラインスペーサを取り付ける作業を午前10時より開始し、午後0時30分にB鉄塔に到着した。B鉄塔に到着後、鉄塔を下りるためのロリップを取り付ける直前に高さ79mの鉄骨から53m下の踊り場に墜落した。	30301	30～ 49

2009	12	16 ～ 17	チェックイン前の客室内の点検を被災者を含む数人で行っていましたが、被災者が担当した6階客室に併設されたバルコニーに1m程度の積雪があったことから、エアコン室外機の周辺の除雪を行おうとしたか、もしくはバルコニー直下にある地下駐車場通路の方向の雪庇（せっぴ）を除去しようとしていたところ、19.1m下のコンクリート床に墜落した。	140101	10～ 29
2009	6	8 ～ 9	事業場内の砕石プラントにおいて、ベルトコンベヤーのキャリアローラー交換の準備を行う際、作業床として利用していた分級脱水ごみ処理機の上部から足を滑らせ、手前にあった幅80cmの通路を超えて、7.7m下の地面に転落した。分級脱水ごみ処理機の上部に手すり等は設置されていなかった。	10909	10～ 29
2009	4	7 ～ 8	工事現場にて鉄骨の建方中、建築中の20～21階の高さから墜落し、約58m下の6階外周に設置されていた仮設足場へ激突した。被災者が災害発生前に行っていた作業は、クライミングクレーンのオペレーターと無線で連絡を取りながら、つるされた鉄骨の梁を取り付け位置へ誘導する作業であった。	30201	30～ 49
2009	10	2 ～ 3	被災者は下り線追越車線の道路舗装工事現場にて交通誘導を行っていたが10tダンプのドライバーからの用事を伝えるためアスファルトフィニッシャーのオペレーター及びその後方の作業者のところまで移動する途中、下り線側のガードレールの外をカニ歩きで移動していたところ足を滑らせ約8m下の川に墜落した。	170201	30～ 49
2009	4	13 ～ 14	都市ガスを貯蓄するタンクである都市ガス・球形ホルダー（高さ38.0m）において、ホルダー側面部に設置されている頂部にいたる点検用階段通路の手すりの錆び止め塗装を行っていた被災者が、ホルダー頂部付近の手すり外側から地上に墜落した。	170201	100 ～ 299
2009	4	10 ～ 11	ソーダ灰を貯蔵しているタンク（直径約3.9m、高さ約8.5m、容量約80立方mの内部清掃作業のため、被災者を含む5人がタンク内部において、ソーダ灰をタンク下部より排出しながら、タンク内部壁面に付着しているソーダ灰を掻き落とす作業をしていたところ、被災者がタンク下部の排出口に吸い込まれて死亡した。	50202	50～ 99
			大学の実験施設C棟新営その他工事（RC造3F地下1F）において、R階のパラ		

2009	6	15 ～ 16	ペット（幅39cm）上をH鋼材（長さ約67cm、重さ22kg、梁部材）を持って歩行中、R階に設置されたダクトにH鋼材が接触し、被災者が約14m下の1階に墜落した。	30309	1～9
2009	9	16 ～ 17	高速道路情報板設備更新工事において、情報板基礎部分のアンカー打設後の引抜き試験終了後、作業員5人で作業場所から工事用車両駐車場に一列で移動していた。その際、先頭を歩いていた作業員が脚立撤去を思い出し戻ろうとして振り向いたところ、最後尾の被災者がいないことに気づき、付近を確認したところ移動経路沿いの3.5m下を流れる川に転落しているのを発見し、死亡を確認した。	30302	1～9
2009	2	10 ～ 11	木造建築物の解体工事現場において2階外壁撤去作業中、軒桁が壁つなぎの上に落ちていたため、被災者は軒桁を撤去しようと高さ約3mの位置にある庇の辺りから軒桁にワイヤロープを掛けようとしたところ墜落した。	30202	30～ 49
2009	7	9 ～ 10	生コンクリートプラント解体現場において、被災者がバッチャープラント最上層で骨材導入部の大型ベルトコンベヤーの縁切りのためガス溶断作業をしていたところ、同ベルトコンベヤー溶断部が下方に傾いた。ガス溶断作業を中断し、当初予定を変更、ワイヤロープをかけて圧碎機で引いて折り曲げやすく段取りを始めたところ、同ベルトコンベヤーが大きく傾き、安全帯のランヤードが切れて被災者は約19mの高さから墜落した。	30309	30～ 49
2009	2	13 ～ 14	鉄骨造の工場施設の建設工事において、高さGL19.6mの箇所で鉄骨に胴縁を取り付ける作業をしていて約11.8m下の2階の床に墜落した。作業床はなく、取付中の胴縁を足掛かりとして作業をしていた。	30201	1～9
2009	1	19 ～ 20	被災者は、踏台に上がり酒母タンク内の仕込みの状況を確認していたところバランスを崩し醸造タンク内（タンク内もろみの深さは約1m）に転落して被災した。	10105	1～9
2009	12	15 ～	高圧受電設備移設工事現場において、現場責任者であった被災者が、本件工事で移設するキュービクル（屋根までの高さ2.6m）の上に上がり、キュービクルに電線を引き込んでいた電柱の電線の行き先確認を目視で行っていた	30301	10～ 29

		16	時、コンクリート打設された地上に墜落した。安全帽、安全帯を着用していた。		
2009	10	19 ～ 20	営業担当者が、営業先の近くの敷地に駐車をして歩いて営業先に向かっていった。敷地と道路の間の側溝（深さ1.5m）に転落しているのを発見された。	80209	50～ 99
2009	12	14 ～ 15	被災者は同僚3人と共に、窓ガラスの清掃作業等に從事していた。被災者は中2階の外側車庫の庇の上（高さ3.2m）から、窓ガラス外側清掃用の専用ブラシ（タッカー）で3階部分の外側のガラス（高さ5.1m）を清掃していて車庫の庇上から墜落した。庇には手摺り等が設置されておらず、作業にあたり墜落防止措置や安全帽も着用していなかった。	150101	1～9
2009	12	13 ～ 14	RC造地上7階建てマンション新築工事において、被災者は屋上の防水工事を2次下請、3次下請の作業員4人と共同で行っていた。施工内容は、ボンドで長さ10m、幅1.2mの塩ビシート（防水シート）を貼り付ける作業で、屋上平面部分を施工後、パラペット立ち上がり部分を施工するため、被災者は塩ビシートを後ろ向きに歩きながら並べていたところ、背後のパラペット部に気付かず、20m下の地面に墜落した。	30201	1～9
2009	2	16 ～ 17	小学校教室棟2階トイレにおいて、高さ1.7mの枠組足場上で鉄製ハンマーを使用して、パイプスペースの間仕切りブロック壁を解体作業中、ブロック壁が崩壊し、その反動で足場からコンクリート床まで墜落し、身体を床の段差の角で強打した。	30209	10～ 29
2009	12	16 ～ 17	高等学校の校舎改築に伴う鉄筋コンクリート造3階建の校舎解体工事において、被災者は2階でドラグ・ショベルを使用しての廃材集積作業等が終了した後、校舎西側の既存階段を当該ドラグ・ショベルを運転して通り、1階へと降りる途中に1階床へ当該ドラグ・ショベルとともに転落し、当該ドラグ・ショベルと校舎の壁にはさまれた。	30309	1～9
		8	朝礼終了後、同僚作業員は被災者の姿が見当たらないため捜したところ、午前9時過ぎ頃事業場敷地内にある生コンの原料（細砂）を投入するホッパーの下部に取り付けられた空け口から被災者のゴム長靴が一部出ているのを発		30～

2009	8	～ 9	見した。このため、消防署に連絡し救急隊が当該ホッパー内の細砂を取り除いたところ、生き埋めとなっている被災者を発見し、病院に搬送したが死亡が確認された。	10901	49
2010	1	7 ～ 8	R C造5階建ての共同住宅新築工事現場において、元請の職員が屋上のパラペットから約15m下の地面に墜落したもの。当日は関係会社が実施する建物検査が予定され、被災者はその準備のため、竣工した建物の点検・清掃業務を行っていたものと思われる。	30201	10～ 29
2010	1	10 ～ 11	粉殻庫で1人作業中、粉殻の状況確認のため粉殻倉庫内部を移動中、粉殻の少ない箇所へ転落し、反動で粉殻が崩れて粉殻に埋まり、多量の粉殻を吸引し窒息したものと思われる。	70101	1～9
2010	1	13 ～ 14	2階建て個人住宅新築工事現場において、大工ら6名で建前作業中、他の大工が並べた構造用合板の2階床板をはめ込む作業をしていた時、固定されていない床板に足を乗せたところ、当該床板が外れて床板とともに、高さ3.27m下の1階コンクリート基礎部へ墜落した。	30202	1～9
2010	2	11 ～ 12	屋内立体駐車場内部足場の解体作業中、他の労働者とともに巻上げ機を使用して解体した足場の材料をつり降ろす作業を行っていた被災者が、躯体の梁上でかいしゃくロープを持っていたところ、約35m下の1階床面まで墜落したもの。	30201	1～9
2010	2	14 ～ 15	上屋の改修工事現場において、ガス溶断により空調ダクトの撤去作業中、当該空調ダクト上（高さ約3.6m）でガス溶断していたところ、ダクトが一部崩壊し足元が崩れる形で墜落し、その際に後頭部を強打したとみられる。現認者はおらず、被災者が倒れうめき声をあげているのをたまたま現場巡視していた元請けの労働者が発見したもの。病院搬送されたが約12時間後に死亡した。高所作業であるが作業床を設けず、また安全帯を使用していなかった。	30209	10～ 29
		11	被災者は、スポーツセンター内の体育館天井裏にて、漏水調査の作業を行っていたところ、バランスを崩して天井裏の梁の上から落ち、天井板とともに		10～

2010	3	~	12	1 2. 5 m下の体育館床に墜落したものの。本作業は、以前に行った防水工事の保証期間中であり、発注者から保証の対象となるかどうか調査の依頼を受けて、事前調査として行った出張作業中に発生したもの。	30201	29
2010	3	~	16 17	被災者は、鉄骨造家屋新築工事において、高さ6. 2 5 mの梁の上でプレートの取り付け作業を行っていたところ、足を滑らせて同所より墜落し、首を損傷した。病院に搬送され治療を受けていたが、2 カ月半後に死亡した。なお、作業箇所には足場や防網、安全带取付設備等は設置されておらず、安全带も使用されていなかった。	30201	10~ 29
2010	4	~	14 15	被災者は、公民館のアンテナ取替え作業において、部下1名と屋上棟屋に設置されているアンテナのポールをパラペット上で切断作業を行っていた時、高さ3. 5 mの屋上に墜落したものである。	80209	50~ 99
2010	4	~	15 16	1 4階建てワンルームマンションにおいて、本来労働日でない金曜日に、清掃作業員である被災者が1 4階共用外部廊下（高さ3 9 m）より墜落し死亡したもの。目撃者はいなかったが、1 4階共用外部廊下の風よけガラスが設置してある箇所に、管理室の折りたたみ椅子と清掃用ウエスが合ったことから、風よけガラスの上部を清掃作業中にバランスを崩し、墜落したものであると思われる。	150101	1~9
2010	4	~	10 11	都市高速道路の橋脚上端付近で橋桁連結部分の錆び取り及び補修作業を終え、現場から離れようとしたところ、2次下請会社の労働者が約9 m下の川に墜落したもの。病院に搬送されたが、死亡が確認された。	30106	10~ 29
2010	4	~	9 10	災害発生場所の伐出作業現場において、雑役を行っていた被災者が林道から5. 4 m下の沢へ墜落し、病院へ搬送されたが死亡したもの。	60201	10~ 29
2010	4	~	15 16	高さ約5 0 mの鉄塔の上部の作業床にて、アンテナの取り付け作業を行っていたところ、昇降口付近から墜落した。安全带を使用しておらず、昇降口の手すり等が設置されていなかった。	30301	10~ 29
				浄水場のろ過池の土手法面に放置していた塩ビ管（直径1 0 0 mm、長さ約5 0 m、重量約1 8 0 k g）を移動式クレーンを使用して、法面の下方にあ		

2010	5	16 ～ 17	<p>るよう壁上部の平坦な箇所を下ろす作業を4名で行い、被災者が塩ビ管に通してあったスリングを塩ビ管の端から外す作業をしていた際に、塩ビ管全体がよう壁から落下した。この際、よう壁が狭いため近くにいた被災者が足元をすくわれ、塩ビ管とともに高さ2.4mのよう壁上から墜落した。病院に搬送されたが、翌日死亡したものの。</p>	170209	10～ 29
2010	5	16 ～ 17	<p>タンクに附随する配管を撤去する作業において、被災者は、隣にある混合槽（4×4m、高さ4.5m）を覆っている木製板の蓋の上を渡り、当該槽の上部で撤去作業を行っている作業員に工具を渡した直後、木製板が割れ、水槽内に墜落したものの。安全帯を使用していなかった。</p>	30309	10～ 29
2010	5	～ 12 13	<p>被災者は、砂利搬送用コンベヤーのスナップローラー交換作業のため、骨材ビンの上部の鉄骨上で作業を行っていたところ、当該骨材ビン内の砂材料上に墜落した。当該骨材ビンは運転中で、骨材ビン下部から砂材料が放出されることによって、しだいに被災者が砂材料に深く埋もれていき、窒息死した。開口部への転落防止対策が講じられていなかった。</p>	10901	10～ 29
2010	5	～ 15 16	<p>被災者は単独で建材倉庫内において廃材の分別、廃棄作業中、倉庫内の棚さんに足をかけた際、高さ82cmから墜落し、コンクリート面に頭部を打ちつけ死亡したものの。</p>	80101	10～ 29
2010	6	7 ～ 8	<p>事務所において、前日からの勤務を退社することなく継続していた労働者が、翌朝に同事務所の5階喫煙室で同僚労働者と喫煙していたが、その20分後、地上で倒れているのを発見された。喫煙室窓から転落したと推定される。</p>	11109	1001 ～ 9999
2010	6	9 ～ 10	<p>木造2階建家屋の2階ベランダの高さ105cmの既設の柵内において既存の防水シートをはがす作業を行っていた際に、何らかの理由で既設の柵の外から337cm下の地上に墜落し、死亡したものの。安全帯を着用する等、墜落防止措置を講じていなかった。</p>	30209	1～9
		16	<p>被災者は、木造2階建ての倉庫解体工事において、2階床を解体することから床部分の根太材をチェーンソーを使用して切り込み作業をしていた。2階部分の床が残っている箇所で小休憩後、再度被災者が作業を行っていた場所で</p>		10～

2010	6	～ 17	の作業再開時に、切り込みを入れていた床部分の根太材に足をかけたところ（推定）、当該床部分の根太材が折れ、3.9 m高さから墜落し死亡した。防網等の墜落防止措置を講じていなかった。	30209	29
2010	6	～ 11	生コンクリート製造工場において、砂貯蔵用タンクの排出口が砂の塊で詰まったため、タンク内で作業員4人が同箇所の砂を掘り、片寄せしていた。その後、作業員2人がタンク内にいる状態で、別の作業員らがタンク外にある排出口のホッパー内をはつり機で突いていたところ、急に詰まりが取れ砂が流出したため、被災者が砂で埋まり、圧死したもの。	10901	30～ 49
2010	7	～ 11	農業集落排水施設の中継ポンプ槽の保守点検のため、道路に設置されているマンホール内部の堆積汚泥等をバキュームした後に、内部にあるフロートをマンホールの外に引き上げるため、被災者は、マンホールに常設されているタラップにて、内部に降りていった。その際に3.5 m下のマンホールの底に転落し、救出され病院に収容されたが、汚水を飲み込んだことにより肺炎を起し、数日後に死亡した。	150109	1～9
2010	7	～ 10	携帯電話用基地局の点検作業のため、被災者を含む2名がアンテナの鉄塔に昇り、最上部での点検を終え、次の点検箇所である高さ約10 m部分の鉄塔接続部まで被災者が先に降りながら写真撮影を行っていたところ、地面に墜落したもの。U字つり用安全帯を掛け替える時に、1本つり用安全帯を掛けずにU字つり用安全帯を外したためとみられる。	30301	10～ 29
2010	7	8 ～ 9	公共施設の定期清掃において、2階の外部の窓清掃を行っていた被災者が高さ約4.7 mから転落したもの。墜落防止措置を講じていなかった。	150101	100 ～ 299
2010	8	～ 11	被災者は6階建ビルの窓拭き作業のため、屋上において、ビル外壁を下るための「ブランコ（通称）」を取付けるメインロープを盛り替える途中、何らかの原因で屋上から22.3 m下の当該ビルのアスファルト駐車場に墜落したものの。	150101	1～9
		9	中学校の屋上防水工事で、ロール状（1 m×1.6 m）の防水シートを貼る作		

2010	8	～ 10	業において、これにより発生する接着面をカバーしていた、剥離紙の片付け、たたみ作業を後退しながらしていた被災者が、屋上（高さ16.2m）の端に気が付かずに端から墜落し死亡した。	30209	10～ 29
2010	8	9 ～ 10	法面工事で、コンクリート吹き付けに使用する機材（圧送パイプ等）を現場に搬送する作業中、休憩のためコンクリート製の壁（既設の構造物で、被災者が通行していた通路から高さ約60cm）の上に腰かけたときに、後ろ向きに転倒して、約5.9m下の道路に墜落した。	30199	1～9
2010	9	10 ～ 11	ホテル内の高さ約4.3mの中庭において、樹木の剪定ででた枝葉等をかき集め、高さ約3mの新館通路上でゴミ袋に入れる作業を終了し、中庭に戻ろうとしていた被災者が、地面に墜落し、頭部打撲した。その後、入院加療中であったが、約10日後に死亡した。墜落防止措置がなされていなかった。	140101	50～ 99
2010	9	13 ～ 14	被災者が鉄塔の作業床を解体する作業を行っている際に、作業床の端から安全帯と共に、約25m下の建築物屋上に墜落し死亡したもの。被災者使用の安全帯は、キーロック仕様の胴綱に接続していたものの、胴綱ごと墜落したものの。	30201	10～ 29
2010	9	13 ～ 14	高さ11mのセメント用サイロの上部から地上のコンクリートに墜落したものの。サイロの上部には高さ1.1mの手すりが備わっていたが、監視カメラの位置を調整していた際に何らかの原因で手すり部分から墜落したものである。	10901	10～ 29
2010	9	11 ～ 12	傾斜地において、清掃作業を行っていたと推定される被災者が、当該傾斜地で転倒し、斜面を転がって下部の擁壁上（垂直高さ2m20cm）から敷地外の歩道に墜落したものの。	170209	10～ 29
2010	11	10 ～ 11	地上10階建てマンションの外壁改修工事の事前調査で共用廊下から外壁の状態を診断中、建物内から地上の駐車スペースに墜落し、死亡したもの。なお、墜落直前の被災者位置は不明。	30209	100 ～ 299
		14	窓ガラスを清掃するため、当該建物屋上（高さ約24m）に吊り下げ器具を設置し、吊り下げ用ロープにチェアを吊り、窓ふき作業を実施していた。清掃場所を移動するため2名で吊り下げ器具を移動させた後、吊り下げ器具の		

2010	11	～	15	固定をするための親綱を張っていたところ、背後で声がしたため、振り返って確認したところ、パラペット付近にいた被災者が、吊り下げ器具とともに地上に墜落していた。吊り下げ器具のカウンターウエイト（作業時のバランス用、約60kg）を取り付けていなかった。	150101	30～ 49
2010	11	～	19 20	工場長が帰宅の際、敷地内にエンジンがかかったままの委託会社の生コン車を発見し、運転手を探したところ、ボイラー室地下の受水槽に墜落している被災者を発見したものの。	40301	1～9
2010	12	～	15 16	スキーリフトの山頂監視小屋において2名でリフト利用客の監視業務を行った。営業終了後、監視小屋周辺の整備作業を終え、リフト点検を兼ねて山麓まで降りるために、先に別の監視員がステージから下りリフトに乗った後、被災者は次の下りリフトに乗ったが、何らかの理由により再びステージへ降車しようとしたため、そのまま当該リフトに押されて、高さ約5mの下の地上に墜落したものの。墜落した箇所については雪はなく砂利だった。	140309	100 ～ 299
2010	12	～	12 13	排水処理施設において、被災者は水質の検査等の作業を行っていたところ、誤って流量調整槽内を点検するための点検口（通常は蓋がされており、点検時に開放する開口部）から墜落し、溺死したものの。流量調整槽の深さは約5mで、災害発生時は約2mの水深があった。	150103	10～ 29
2011	6	～	13 14	小麦貯蔵施設において被災者はダクト配管等のメンテナンス作業に従事中、排熱ダクト上にある集塵ダクトのファンを取り外そうと、ボルトを外すため集塵ダクトに覆いかぶさりボルトにスパナを掛けようとしたところ、集塵ダクト側のボルトは取り外し済みで固定されていなかったため、覆いかぶさっていた集塵ダクトが折れて、バランスを崩し、排熱ダクト横の開口部から17.7m下のコンクリート製地面まで墜落したものの。	170209	10～ 29
2011	6	～	10 11	被災者は砂利プラントの原石ホッパーに川砂利を投入する作業をトラクターショベルを使用して一人で行っていた。製品である砂利が出てこないと同僚から報告を受けた工場長が原石ホッパーを見に来たところ、ホッパーの底部排出口から両足が出ている状態の被災者を発見した。被災者はすぐに救助	20202	1～9

			され病院へ搬送したが、窒息により死亡したものの。		
2011	12	14 ～ 15	電波塔のアンテナ及びケーブル線撤去工事現場において、高さ約30mの箇所から墜落した。	30301	1～9
2011	12	12 ～ 13	木材チップ工場において、のこ屑をサイロからトラックに積み込む作業中、のこ屑の出が悪くなり、被災者はサイロ内壁に堆積しているのこ屑をフォークで掻き落とすためサイロ上部に上った。被災者が戻ってこないで同僚が見に行ったらサイロ内にはおらず、13時過ぎにトラック荷台ののこ屑の中に埋もれているところを発見された。	40301	10～ 29
2011	5	8 ～ 9	店舗の害虫防除を行っていた被災者が、同店舗の屋根（高さ約4m）から墜落したものの。	80409	10～ 29
2011	11	17 ～ 18	震災で破損した原炭槽を増設する工事において、原炭槽（高さ18m）の最上部に生じていた開口部（長さ2.5m×奥行65cm）を足場板で養生する作業中、開口部上に並べた足場板を番線で結束していたところ、被災者が足を掛けていた足場板がずれて外れ、足場板と共に約17m下の槽の底に転落した。被災者は安全帯（一方は2丁掛け用の補助ロープ）を使っていたが、取付元をカラビナに接続しており、墜落時の衝撃で外れた。	30203	1～9
2011	1	13 ～ 14	気象観測用鉄塔を上部から約4～6mづつに切断しての解体作業中（当初高さ216m、災害発生時高さ56m）、被災者は高さ50mに位置する踊り場においてU字つり専用安全帯を直径30cmの鉄柱に回し鉄骨等の溶断作業に従事していたが、その鉄柱にクレーンで吊るためのシャックル通し穴を加工中、溶断時に発生する溶解した鉄の滴が安全帯のランヤードのロープ部にかかり、その熱がロープを浸食し切断、地上に墜落したものの。	30201	10～ 29
2011	4	15 ～ 16	被災労働者は震災で破損した倉庫側壁の補修を行うため、昇降設備を使用せず自動倉庫のラックを上ろうとしたところ約5m下のコンクリート床面に墜落し死亡したものの。	30309	1～9
		9	伐採した枝の片付け作業を命じられた被災者が、コンクリート擁壁上で付近		

2011	3	～	に落ちている枝を集めていたところ、約4メートル下の町道に墜落し、死亡したものの。	140101	50～ 99
2011	11	16 ～ 17	工場建屋内のピット床面から6m上方に据え付けられた製品として製作中のコンプレッサーの性能確認テストのため、当該コンプレッサーの下部の鉛直方向にテスト用送風配管(φ2m×L4m)を取り付ける作業の一環として、取り付け箇所に足場を組み立てていた際に、足場上方2mのコンプレッサーの架台から足場に降りようとした被災者が足場上に転落し、そのはずみで、足場の端の開口部から、6m下方のピット床面に墜落した。	11301	1～9
2011	6	16 ～ 17	運動施設の立木の枝打ち作業にあたり、刈った枝を手作業で運搬していたところ、何等墜落防止措置を講じていなかったことから、高さ702cmの擁壁上から地面に墜落し、死亡したものの。	60101	1～9
2011	3	17 ～ 18	被災者は飼料運搬車(タンク車)で飼料を配送する者であるが、配送先にある高さ5.5メートルのサイロ下の地面でうつ伏せに倒れているところを発見された。	40302	10～ 29
2011	6	8 ～ 7	現場管理責任者として建物を巡回している途中で、9階建て建物の屋上から1階の植栽内へ墜落した。	150101	300 ～
2011	4	8 ～ 9	港湾倉庫に設置されるコーン等の穀物飼料が保管されているコンクリート製サイロ(3m×4m深さ5m)内部において、飼料の増量保管する空間を確保するため、作業員3名で砂山状に堆積された穀物飼料を均していたところ、別作業員が当該飼料をサイロから取り出すために下部排出口を解放したため、内部にいた1名は梯子につかまり無事であったが、他の2名が流出する当該飼料に飲み込まれ、埋没し胸部圧迫により死亡したものの。	50101	10～ 29
2011	4	8 ～ 9	港湾倉庫に設置されるコーン等の穀物飼料が保管されているコンクリート製サイロ(3m×4m深さ5m)内部において、飼料の増量保管する空間を確保するため、作業員3名で砂山状に堆積された穀物飼料を均していたところ、別作業員が当該飼料をサイロから取り出すために下部排出口を解放した	50101	10～ 29

			ため、内部にいた1名は梯子につかまり無事であったが、他の2名が流出する当該飼料に飲み込まれ、埋没し胸部圧迫により死亡したものの。		
2011	3	17 ～ 18	建物改修工事において、現場作業終了後に施工状況や建物の施錠確認などを行っていた被災者が、建物屋上に設けられている天窓を踏み抜き、9.5mの高さから墜落し、死亡したものの。	30209	1～9
2011	1	18 ～ 19	コンテナ船内において、ラッシング・ブリッジ歩廊上で積荷コンテナの固定具（ツイストロックピン）の解除作業を行っていたところ、5.3m下の船舶デッキ上に墜落したものの。	50202	30～ 49
2011	8	13 ～ 14	橋梁上部工工事中において橋桁間をアングルで固定する作業中、レンチでアングルを固定するボルトを締めていた時にレンチがボルトから外れ、その反動で身体のバランスを崩して橋桁から約8メートル下に墜落し、その7時間後に脳挫傷で死亡したものの。	30105	30～ 49
2011	9	19 ～ 20	2名の労働者が乗車した事業場所有の送迎車が工場に受かって走行していたところ、台風のため道路が渋滞しており橋の上で停車した。両労働者は送迎車から降車し、徒歩で工場に向かっていた際に、車道橋に併設している歩道橋に移ろうとして両労働者が車道橋の欄干（高さ約1m）を乗り越えたところ、車道橋と歩道橋は約50cm離れていたため、その隙間から約5m下（台風により増水）の川に両労働者が墜落したものの。	10805	30～ 49
2011	12	23 ～ 0	平成23年12月4日午後11時40分頃、A社の経営する店内で接客中、着ぐるみの衣装に着替えるため席を離れ、店内の入り口付近から通じるベランダに出て、カゴに入っていた着ぐるみ用のつなぎの衣装を取り出し、衣装を身に付ける際、誤ってベランダの落下防止用の擁壁を越えて1階地面まで墜落したものである。	140209	30～ 49
2011	9	14 ～ 15	被災者は、事業場の屋上に設けられた排水口の清掃を行っていた。当該事業場は鉄筋コンクリート造の3階建てで、屋上階の東側が一部セットバックしており、セットバックした屋上部分には手すりが設けられているが、東側張り出した部分には手すりが設置されていない構造となっている。被災者は東側張り出した部分にある排水口の清掃を行うため、手すりを乗り越えたところ	80109	1～9

			ろ、地上（高さ9.28メートル）に墜落した。		
2011	9	15 ～ 16	平成23年9月8日午後4時頃、A市に所在する会社が特定元方事業者として施工する分譲住宅No.9新築工事現場において、同社より同建築工事の建前工事を含む大工工事を請け負った建築会社の労働者が、2階壁部の筋交となる部材を建屋内から取り付ける作業中、筋交の部材と共に3.5メートル下の地上に墜落被災したものの。搬送先の病院にて同15日死亡した。	30202	1～9
2011	6	14 ～ 15	被災者他1名で天井に撮影機材等を吊り下げるボルトの取り付け作業を行っていた。天井に穴を開け、被災者が天井裏に上がり下から差し込んだボルトの固定作業を行った。ボルトの固定作業が完了したので、天井裏から床面に降りようと、45センチ角の開口部から床面に設置しておいた脚立（高さ2.6メートル）に足を掛けて降りようとしたところ、足を踏み外し高さ3.3メートルの床面に墜落した。	30209	1～9
2011	8	11 ～ 12	当該事業場の荷受け場所である高さ88cmのホーム上を歩行中、突然転落し頭部を強打した。病院に搬送されたが3日後に死亡したものの。	80201	300 ～
2011	3	11 ～ 12	ダムへ向かう通路橋上で定点写真を撮る作業を行っていた被災労働者が約32メートル下の川へ墜落し死亡したものである。	30199	50～ 99
2011	1	15 ～ 16	被災者は、ゴルフ練習場の外周に設けられたボールネット支柱の塗装工事に従事、高さ約36mの支柱の25m付近（現認者なし）に、支柱に設けられた梯子を使用し登っていたところ、支柱の12m付近に設けられた点検通路上に墜落、救急搬送後発生日夜に死亡したものの。被災者は、塗装作業の経験は長いものの災害発生日前日に雇い入れられ、現場入場2日目であった。また当日、当該支柱での作業は予定されていなかった。	30309	10～ 29
2011	11	4 ～	4直3交替に勤務する被災者は、一人体制の1直勤務（0時～8時20分）に就いていたが、午前4時30分の定時連絡後、午前7時30分に連絡が取れなかったため行方を探していた。午前9時頃、出勤してきた労働者が、工場に隣接する水路内でうずくまっている被災者を発見した。すぐに救急搬送	20309	50～ 99

		5	するも、11月8日午前2時22分、頭蓋骨骨折、急性硬膜下血腫急性硬膜外血腫、脳挫傷により死亡した。		
2011	3	13 ～ 14	汚水処理場の建設現場において、被災者は躯体上部の片付け作業を行っていた。地下に多数の貯水槽があることから、躯体上部には多数の穴が存在し、それらはベニヤ板等を使って塞がれていたが、何らかの理由で蓋がずれ、被災者が貯水槽（深さ約6m）内に墜落し、死亡したものの。	30199	1～9
2011	4	10 ～ 11	インターネットの光回線をアパートの1室に引き込むため、被災者が電柱に上がりワイヤー固定用の金具を取り付けた後、一旦地上に降りようとして、高さ4.64メートルから地上に墜落し、病院に搬送されたが死亡したものの。	30301	1～9
2011	12	11 ～ 12	岸壁に係留している新造船のWBT（ウォーターバラストタンク：海水を入れて船のバランスを取るタンク）内の塗装（スプレーガンによる吹き付け）作業をしていたところ、被災者が血を流して倒れているところを同僚が発見した。被災者が使用していたスプレーガンは、高さ約2.6mの位置にある船舶構造物（奥行約60cmの作業床）に置かれていた。目撃者はいない。	11501	30～ 49
2011	8	19 ～ 20	ホテル新築工事現場において、2階床スラブ上で、ダクト工事のために約1.7メートル四方でスラブがはつられ1階天井材の鉄板（厚さ0.9m）のみとなっていた個所を被災者が歩いたときに、当該鉄板が湾曲してできた隙間から3.8m下の1階に墜落したものの。	30203	1～9
2011	6	9 ～ 10	平成23年6月27日9時頃、被災者は、個人邸宅の一面に設けられているプレハブ小屋のベランダに、既設の墜落防止用の囲いをメッシュ状のフェンスを取り替える工事に従事していたところ、3m49cm下の地面に墜落して頭を強く打ち、平成23年7月1日に死亡したものである。	80209	1～9
2012	8	10 ～ 11	被災者は鉄骨平屋建ての商業施設新築工事において、躯体外部の鉄骨部材の据え付け位置を微調整するため、地上から約5mの高さにある鉄骨部材に足をかけ、足をかけた鉄骨部材の上方の鉄骨部材のボルトを外したところ、バランスを崩し地面に墜落した。	30201	10～ 29

2012	5	9 ～ 10	被災者は木造平屋の屋根の建て込み作業中、高さ約5mの梁の上に足を乗せ、母屋材を梁に釘止めしていたところバランスを崩し、左側面からコンクリート床に墜落、心臓破裂により死亡した。	30202	1～9
2012	4	13 ～ 14	被災者はU字溝を設置する作業を行っていた。中古のU字溝を所定の長さに切断するため、U字溝の上に乗ってエンジンカッターで切断ところ、切断部分が倒れて落下し、その際にU字溝に背中を強打した。	30199	1～9
2012	11	10 ～ 11	高さ約60mの送電線用鉄塔の防錆塗装工事において、被災者は準備作業のため、鉄塔に附設されたステージ（地上高さ20m）から身をのり出し、工具箱に入ったサンダーを取ろうとして、地上に墜落して死亡した。なお、被災者の腰には2丁掛けの安全帯が着用されていたが、被災時に使用されていなかった。	30209	1～9
2012	7	8 ～ 9	被災者は既設屋外配管架空架台上において、新設配管の敷設準備のため架空架台を移動中、当該架台から約10m下の地面（アスファルト）に墜落した。	30309	1～9
2012	10	17 ～ 18	被災者はサーキット内のロケハンを行っていた最中にピットの上にある2階テラス（高さ約6m）から墜落し、頭部を強打し死亡した。	100101	1～9
2012	8	8 ～ 9	建築物の屋上（高さ約15m）において、ヘリサイン（屋上に学校名等の場所の名前を書くことにより、災害発生時に救援ヘリコプターの目印の役割を持ったもの）のライン引きのための墨の追い出しで計測作業を複数名で行っていたところ、メジャー片端を持ってパラペット際に移動した被災者が、建物端部より墜落した。	30209	1～9
2012	6	11 ～ 12	新築工事中のマンションで、エアコン室内機の取り付け作業を行っていた被災者が、エアコン室内機を運搬中に躯体7階ベランダ部分から墜落した。	30203	1～9
2012	5	10 ～ 11	3階建マンションの屋上防水工事現場において、同建物の屋上で防水シート貼の作業をしていた作業者が、高さ約30cmのパラペットを超えて、約10m下のコンクリート地面に墜落した。	30209	10～ 29

2012	4	7 ～ 8	被災者は既存建築物の屋上にて窓ガラスの清掃作業準備中、屋上から地上へ約20m墜落した。	150101	1～9
2012	4	17 ～ 18	被災者は災害が発生した建物の設備等の保守・点検業務を行い、作業終了後建物の所有者に点検完了の報告を行った。しかし、その後も被災者は、建物11階のセットバックになっている屋根上の排水溝部分の目詰まりを確認するため当該場所へ向かい、確認作業を行ったところ、高さ約70cmのパラペット部分を乗り越え、約30mの高さから地上へ転落し、死亡した。	150101	300 ～
2012	4	19 ～ 20	災害発生場所であるビル脇の路上にて、被災者が倒れているのが発見された。	170209	100 ～ 299
2012	3	14 ～ 15	7階建て建築物改修工事において、足場組立に従事する被災者は、屋上に設けられた手すりを乗り越え、約20m下の地上に墜落した。なお、安全帯は着用していたが、使用した形跡は確認されていない。	30201	1～9
2012	3	9 ～ 10	3階にてグレイチング付及び墨出し作業をしていたところ、被災者が何らかの理由により屋上へ上がり、パラペット上から約10m下に墜落した。	30201	10～ 29
2012	4	14 ～ 15	マンションの立体駐車場ピット内にて、同マンションの管理人が立体駐車場脇の扉から7～8m下にあるパレット（自動車を載せる台）上に、扉位置口付近の作業床端部よりパレット内に墜落した被災者が横たわっているのを発見した。被災者は既に昏睡状態であったが、救急搬送先の病院にて死亡が確認された。	150101	30～ 49
2012	1	9 ～ 10	3階建て建屋の塗装作業を行っていた被災者は、隣接する道路上に倒れているところを発見され、頭部及び全身打撲により、救急搬送先の病院で死亡した。	170201	30～ 49
2012	7	16 ～	被災者は刈払機を使用し単独で土手における草刈り作業を行っていたところ、土手の端の石垣（高さ約1m強）から転落し、頭を負傷した。発見時、	140309	10～

		17	被災者は会話ができる状態であったが、その後搬送された病院にて容態が悪化し、死亡した。		29
2012	11	10 ～ 11	建物の3階で固定されている窓ガラスの拭き掃除作業を行っていた被災者は、誤って約10m下の構内通路上に墜落した。災害発生当時、窓ガラスの周囲に足場はなく、被災者は安全帯を装着していなかった。また、保護帽は被っていたものの飛来落下災害防止用であった。	150101	30～ 49
2012	12	9 ～ 10	工場内で大掃除中、被災者は竹竿の先にエアーストローを結びつけ、そのエアーストローで天井クレーンのホイスト部分の埃を払う作業等をしていた際、乗っていた高さ約2mの作業台の登り口付近から墜落し、更に、その下に設置されていた深さ1.5mのタンクの底まで墜落した。	10805	10～ 29
2012	11	8 ～ 9	4階建てマンションの屋上防水工事現場において、当該マンションの屋上に移動するために隣接するマンションの屋上に上がり、床に養生シートを敷く作業中、屋上の外周にある立ち上がりに被災者が右足のかかとを引っ掛けて体勢を崩し、高さ約12mから地上に墜落し、死亡した。	30309	1～9
2012	3	12 ～ 13	工場内工業用水の配管の修理終了後、工事立会人であった被災者は、補修工事のため閉めていた配管バルブを開けるため、工場内配線ラックの防護ボード（地上約5m、石膏厚さ1cm）付近を歩行していたところ、防護ボードが割れて地上へ落下、救急搬送先の病院において死亡した。	11001	100 ～ 299
2012	5	8 ～ 9	被災者は2階屋上に設けられた機械室の屋上（高さ3.7m）においてクレーンの誘導作業を行っていたが、2階屋上に倒れた状態で発見された。	30302	10～ 29
2012	11	11 ～ 12	公園にある角度33度、上下幅約10mの、のり枠内の草刈り作業を行っていた際、その下にある角度75度の擁壁から、垂直高さ約5.4m下のコンクリート溝に墜落した。	60101	1～9
2012	7	7 ～ 8	被災者は、タコいけす（幅1.96m奥行き1.03m高さ1.76m、木製、100kg程度）を岸壁から海面へジブクレーンを用いて降ろす作業をしていた。タコいけすを海面へ着床させた後、バランスを崩し、岸壁から推定約1.8m下の当該タコいけすの上面に墜落して頭部を強打し、死亡した。	170209	1～9

2012	2	15 ～ 16	アーケード解体工事において、アーケード屋根上部にある消防用の消火足場の解体撤去準備のために消火足場の部材及び付設している消火管の一部を切断する作業を2名で行っていた。1名が切断用電動鋸の刃を交換するためにアーケードより降りた後、残った被災者が消火足場上で電線等の廃材の片づけ作業を行っていたところ、消火足場上からアーケード屋根を破り、約8m下の地上に墜落した。	30209	1～9
2012	4	10 ～ 11	乾粉タンク（鋼製の製品タンク）に詰まりが生じたため、修理班の3名が清掃作業を行っていた。被災者が、ガス溶断で穴あけされた同タンク側面から棒状のもので詰まりを除去していたところ、大量の粉が被災者に降りかかった。被災者は、3階のステージ面より約1.57m上方にあるスクリュウコンベアの上蓋板からバランスを崩し、ステージの手すりを乗り越えて約9m下の地面に墜落した。	10909	10～ 29
2012	9	7 ～ 8	被災者はドック外の地上部分に設置されている水道管蛇口にホースを接続して、ドック内渠底で当該ホースを使用して船体の水洗作業を行っていた。船体水洗場所の移動に伴いホース接続場所も移動するため、ホースを蛇口から外し渠底まで下し、ホースを移動後、ホース引き上げ用のロープを被災者が渠底へ投げたが、ドック内側の犬走りの手すりにロープが乗り、同人が水道管等を乗り越え、足でロープを蹴落とそうとして滑り渠底へ墜落した。	11501	10～ 29
2012	5	5 ～ 6	被災者は紛失した工具を探すため、7階建ての化学プラントを1人で捜索し、「工具があったこと及び現在6階に居る」旨を無線にて同僚に伝えた後、地面へ墜落した。	10899	～ 299
2012	8	14 ～ 15	被災者は所属する事業場の代表者と2名で、現場において電話線を引き込む作業を行っていた。被災者は、代表者と離れた箇所で保安器と呼ばれる設備の配線作業を行っていたが、代表者により作業を行っていた箇所の近くの水路で倒れているところを発見され、外傷性脳挫傷により、死亡が確認された。	30301	1～9
2012	5	23	被災者は、工場内の脱臭塔（高さ約30m）において計器類の点検を始めた。終了予定時刻になっても被災者が戻って来ないことを不審に思った同僚が周	10109	～

		24	辺を探したところ、脱臭塔の下で倒れている被災者を発見した。		299
2012	6	15 ～ 16	被災者は賃貸住宅の退居部屋（9階）の間取り改善工事の仕上げである清掃作業を行っていたが、同室のベランダ部分から約26m下の地上に転落した。	30209	10～ 29
2012	7	9 ～ 10	被災者は地上8階建てのホテルの屋上から墜落し、駐車していた自動車の横に倒れているところを発見された。	140101	1～9
2012	1	11 ～ 12	被災者は冷却槽の横幅方向に渡していた2本のH鋼の上に大小2台の鋼製架台を重ねて仮置きし、大きな鋼製架台をメッキ作業で使用するためメッキ槽へ天井クレーンを使用して移動させようとしていたところ、1本のH鋼と鋼製架台とともに槽内に転落した。被災者は胸などを強打し、出血性ショックにより死亡した。	11204	30～ 49
2012	7	8 ～ 9	道路建設工事において、盛土擁壁の端部で測量作業をしていた被災者は、約13.8m下の地面に墜落した。被災直後は意識もあり会話も行えたが、救急搬送中に意識が低下し心肺停止となり、搬送先の病院で死亡した。	30106	10～ 29
2013	11	10 ～ 11	被災者と同僚の2名で、ビル2階の屋上に設置している空調室外機にビニールシートを掛ける作業中、4.8メートル下の1階屋上部分に墜落した。被災者は、幅10センチメートルの金属製の架台に乗って作業をしていた。また、ヘルメット、安全帯は着用していなかった。	170209	1～9
2013	6	14 ～ 15	船の清掃作業中、船体上部に堆積した鉄粉をエアで飛ばす作業を行うため、エアホースを操舵室の上に引き上げようとした被災者は、高さ約2m下の船舷に付いていたタイヤ上に墜落し、タイヤで弾んだ後、さらに3m下方の地面に墜落した。尚、保護帽は着用していたが、安全帯は未着用、墜落防止の措置はなかった。	11501	10～ 29
2013	8	7 ～ 8	小学校校舎トイレ改造工事現場内において、現場に出勤してきた二次下請事業場の労働者が、地上に積んであった建築部材（壁、天井に使用する鋼製の下地材）と枠組み足場の間で仰向けで倒れている被災者（元請現場代理人）	30201	1～9

			を発見した。		
2013	6	9 ～ 10	ビルの窓ガラス清掃を行うため、ブランコ型の板にのり、5階付近で作業を行っていた、ブランコごと地上に墜落した。尚、ブランコのメインロープ、補助ロープとも屋上にある柵の控え部の根元に、それぞれ固定されていたが、重さに耐えきれず、控えの根元ごと外れたことにより、ロープも外れ、墜落に至った。	150101	1～9
2013	2	13 ～ 14	被災者は、鉄骨組立作業において、高さ6.8mの鉄骨梁から墜落した。	30201	1～9
2013	2	13 ～ 14	被災者は、工場等屋根への太陽光発電パネル設置工事において、工場敷地内の電柱の高さ(6.2m)付近の電気配線作業中、敷地外の道路に墜落し、頭部を打った。	30301	1～9
2013	9	15 ～ 16	被災者は、民家を解体して立て直す工事において、民家の2階部分の解体作業を行っている際、解体現場を覆う養生シートの骨組を解体しようとして、約5メートルの高さから地面に墜落した。	30202	1～9
2013	5	7 ～ 8	被災者は、港の岸壁等の調査のため、災害発生場所の旅館に宿泊しながら調査業務を行っていた。災害発生日の朝、同僚が被災者を呼びにいったところ、窓を開けた状態で着替えをしているところであった。その後、しばらくたっても被災者が部屋から出てこないことを不審に思い、部屋を訪れると鍵が掛っていた。旅館の人にスペアキーで部屋を開けてもらったところ、室内には誰も居らず、窓が開いていて、窓下の地上に倒れている被災者を発見した。	170209	1～9
2013	2	5 ～ 6	被災者は工作中、客の勧めで飲酒し、泥酔した状態となったため、ベランダ内で休憩していたところ、ビル4階のベランダの手すり(コンクリートの立ち上がり壁が50cm、その上部に高さ60cmの鉄製柵が取り付けられた全高1.1m)から誤って高さ約12mの地面に墜落した。	140209	1～9
		8	鉄骨建屋の2階部分に看板を取り付けるための下地(骨組み)を、溶接作業により行っていた。仮溶接の段階で、取り付け位置が適切かどうかを判断す		

2013	5	～ 9	るため、仮溶接した鉄骨の上に乗って各所の寸法を計測していたところ、仮溶接した鉄骨が外れ、約4.5メートル下の地面に墜落した。	30209	1～9
2013	10	～ 1	被災者は、マンションの6階外廊下において、脚立を使用して高所にある蛍光灯を取替作業中、脚立が外向きに倒れ、手摺を越えて1階敷地内の廊下へ墜落したものと推測される。	170209	300 ～
2013	5	～ 14	4階建てビル屋上において、広告看板を設置するため看板設置用鉄骨最上部端部にて看板取付作業を行っていたところ、バランスを崩し16m下の道路に墜落した。尚、安全帯は着用していたが使用はしていなかった。	30309	1～9
2013	3	～ 16	被災者は、ビルの屋上にて防水工事を行っていたところ、屋上の端部から地上まで墜落した。	30209	1～9
2013	5	～ 9 ～ 10	被災者は、集じん機架台の床及び手すりの取り付け工事に従事中、地上からの高さ3.7メートルの架台に登り、架台に立てかけていた手すりとともにアスファルトの地面に墜落した。尚、被災者は、保護帽及び安全帯を着用していたが、手すり設置工事のため墜落時に手すりはなかった。	30209	1～9
2013	6	～ 9 ～ 10	被災者は、ビルの9階部分にて窓の清掃作業を、窓の外側にある幅約75cmの植栽スペースにて行っていたところ、約28m下の地面に墜落した。	150101	10～ 29
2013	10	～ 13 ～ 14	産業廃棄物処理施設において、廃プラスチックを回収するため、廃プラスチックストックヤードで積込作業を終えヤード内を清掃していたところ、コンクリート製仕切り壁の上部（高さ2.1m、幅0.2m）から足を滑らせ地面に墜落した（当日雨天、保護帽着用）。	150102	30～ 49
2013	5	～ 10 ～ 11	石炭火力発電所構内で発電ボイラーの定期補修作業に従事していた被災者は、補修に伴い開口部となった石炭搬送用シュート（鋼製の管）上部から、同シュート下部まで約16メートル転落し、全身を強打した。	30302	1～9
		16	木造家屋の解体工事を行うにあたり、当日の作業の終了前に、解体途中の壁の倒壊を防止するため、壁に金具を取り付けてワイヤーで内側に引く作業を		

2013	1	17	行う際、金具を取り付けるため2階床上で作業を行おうとしたところ、釘で固定されていた床材が外れて天秤状態となり、2.3メートル下の地面に墜落して頭部を強打した。	30202	10～ 29
2013	4	16 17	船体ブロック上で、外板から張り出した吊ピース（船体ブロックの反転に使用するもので重量195kg）を同僚と切断中、被災者は、外板から内側に2m離れたデッキ上で、吊ピースの穴にエステルロープを掛けてデッキ上に引き込もうとしていた。同僚が吊ピースを切断したところ吊ピースは落下し、同時にロープを被災者が掴んでいたため、船体ブロックの外板の墜落防止柵の間から、被災者は吊ピースとともに9.5m下の定盤上に墜落した。	11501	1～9
2013	7	17 18	体育館新築工事の設計監理を請負う建築事務所の建築士（被災者）が、竣工後の建屋の西側外壁と舞台の背板との間、狭隘な幅67cmの場所に入って施工検査を行っていたところ、気分の不調を訴えて、検査場所から最も近い屋上となる高さ8m55cm、幅1m20cmの水平の庇の上に仰向けになって休んでいた。約30分間休息し立ち上がろうとしたところ、体のバランスを崩し地上に墜落した。	170209	1～9
2013	8	14 15	砂防ダム工事現場において、被災者は堰堤の上で測量作業中、堰堤から約7m下のコンクリート地面に墜落した。尚、堰堤はほぼ完成しており、災害発生時に堰堤の上に手すり等は設けられていなかった。	30108	10～ 29
2013	5	14 15	被災者は、新造船の船尾デッキ上で作業していたところ、高さ約8メートル下の砂地に墜落した。	11501	30～ 49
2014	12	13 14	工場内の土砂が保管されているピットの端にて、土砂をダンプに積み出すためのドラグショベルの運転を誘導中、ピットの端から2.5m下のコンクリート地面に墜落し、死亡した。	150102	1～9
2014	12	14 15	国旗掲揚台上に脚立を設置し、国旗掲揚台の掲揚ポールに掛かっていた松の木の枝を脚立天板に跨り、高枝剪定鋏に付いている鋸で枝を切っていたところ、バランスを崩し、掲揚台の下のコンクリート上に墜落した。尚、被災者	170209	50～ 99

			は、保護帽を被っておらず、安全帯も着用していなかった。		
2014	12	10 ～ 11	擁壁上に落下防止用のフェンスを設置する準備作業中、隣接する敷地内に墜落した。	30309	1～9
2014	12	8 ～ 9	解体予定の既設水路の天板上に立ち、同僚の墨出し作業のチェックをしていたところ、天板部が崩壊し、下の水路内へ墜落。天板部のコンクリート塊が被災者の頭部に激突し、その下敷きとなり、死亡した。	30201	10～ 29
2014	11	8 ～ 9	ビルの屋上から吊ったブランコ上でビルの外窓を清掃中、ブランコのメインロープをかけていたグレーチングが建物から外れ、ブランコごと墜落した。	150101	10～ 29
2014	10	11 ～ 12	スカイプラットフォームをクレーンで移設するため、玉掛準備作業中、高さ約23mの搬入口より落下し、死亡した。	30209	1～9
2014	10	3 ～ 4	橋梁補修工事にて、アーチ部につり足場を設置する作業中、つりチェーンの取り付け箇所の確認のため、アーチ上面に上った被災者が滑落し、約15メートル下の道路上に墜落した。	30105	10～ 29
2014	10	11 ～ 12	小屋仮筋交いを設置しようと、杉板材を移動させていたところ、バランスを崩し、高さ約4.8mの梁上から墜落した。	30202	10～ 29
2014	9	10 ～ 11	木造家屋解体工事現場にて、被災者はガラス戸を取り外す作業を行っていた際、土間で倒れているところを同僚に発見された。	30209	1～9
2014	8	10 ～ 11	建築中の2階鉄骨の梁の上を歩いていたところ、墜落した	30201	1～9
2014	8	10 ～	汚水管ポンプから送り出した汚水の管の詰まりを除くため、下流側のマンホール内に入り、タラップに足をかけ、管ツールを管に通していたところ、	11603	30～ 49

		11	マンホール底へ落下した。		
2014	7	11 ～ 12	被災者は、廃棄物埋立処分場にて、電動ポンプで集水槽の水を下水道に圧送する作業に従事。2枚の鉄板で覆われている開口部の鉄板1枚を外し、開口部から集水槽の水位を確認し、操作盤を操作していたが、集水槽の中に沈んでいるところを発見された。	150103	1～9
2014	7	11 ～ 12	建物の屋上端部から2階箇所に、ステージ足場上に建枠をロープで降ろす作業を行っていたところ、墜落した。	30209	50～ 99
2014	7	8 ～ 9	校舎屋上防水工事のため防水シートを貼る準備中、被災者はロール状の防水シートを伸ばすため、後ろ向きで屋上東側端部へ向かって後退していたところ、パラペットを乗り越え、12.84メートル下の地面に墜落した。	30209	1～9
2014	7	11 ～ 12	客室外部に設置された浴槽のろ過装置を点検中、被災者は7.6m下の地上に墜落した。	140101	30～ 49
2014	7	13 ～ 14	被災者は、建屋外階段2階踊り場付近の構築物上部に設けられたエアコン室外機を取り外す作業を行っていた際、2.8メートル落下した。	40301	1～9
2014	6	23 ～ 24	ホテルの7階客室窓から、3階陸屋根部へ約10メートル墜落した。	30106	10～ 29
2014	5	9 ～ 10	階段踊り場付近をモップ掛け清掃中、同僚が通行しようと押し開いた扉に激突され、反動で階段を2mほど転落し、頭を強打した。	10104	50～ 99
2014	3	8 ～ 9	2階建て住宅の屋根に設置されている設備を撤去する際、工具類を荷上げ作業中、1階屋根部の踊り場（地上から4m）で待機していた被災者が、踊り場から墜落した。	30203	10～ 29
		9	下水管工事現場にて、被災者は、到達立坑内（深さ約7m）の作業を開始す		

2014	3	～ 10	るため、立坑内に収納していたタラップの手すりを引き上げる作業中、立坑内に転落した。安全帯は装着しておらず、立坑周囲に墜落防止用の柵、安全帯設備等は無かった。	30110	30～ 49
2014	3	～ 11	5階建て建物の屋上にて、防水及びシーリング工事前の洗浄作業を実施していた際、パラペット（高さ0.4メートル）の外側スペースより、約15メートル下の地上に墜落した。	30209	1～9
2014	2	～ 3	鉄道の高架橋等の補修工事にて、剥落対策工事としてコンクリートの補修、剥落防止のシート設置及び塗装作業等が行われていた。被災者は、柵架道橋の上り線側の高欄の天端上にて、同箇所に施工した剥落防止シートの保護フィルムを撤去を行っていたところ、1.5メートル下の軌道内に墜落した。	30105	10～ 29
2014	2	～ 9 10	建物（4階建）屋上の防水改修工事にて、労働者2名が人力で既設の防水シートを剥がそうと引っ張ったところ、シートが勢いよく剥がれたため、2名がその余力により屋上から高さ約17メートル下の地面にシートと共に墜落した。	30209	1～9
2014	2	～ 15 16	一般住宅改修工事現場にて、高さ1.3メートルの塀の上に乗る、外壁補修作業（補修箇所の高さは約3メートル）に従事していたところ、何らかの原因により塀の上から墜落した（災害発生を目撃した者はいなかった）。	30202	1～9
2014	2	～ 13 14	被災者は、ゴミ収集車の助手としてゴミの収集を行っていた。収集したゴミの搬入先である処分場にて、高さ10.9メートルのピットへ墜落し、死亡した。	150103	10～ 29
2014	1	～ 10 11	被災者は、教室の窓のクリーニングを行っていた。4階底に脚立を立て教室の窓の外側の清掃作業を行っていたところ、地上に墜落した。尚、当該底には手すりがなく、親綱等を含め墜落防止措置を講じていなかった。	30209	1～9
2014	1	～ 11 12	被災者ら3名は、排水機場内の植樹・生垣等の剪定作業を行うこととなった。しばらくして同僚が被災者を呼びに行ったところ、導水路に浮かんでいる被災者を発見した。目撃者はいないが、周囲の状況から、被災者は高さ4.23mのコンクリート壁のすぐ側の生垣の剪定作業を行っていて、誤っ	170209	1～9

			て墜落したと思われる。尚、保護帽は被っていなかった。		
2014	1	6 ～ 7	ビル管理会社に勤める被災者は、設備の巡回のため、ビル屋上で設備の巡回を行っていたところ、ビル屋上から地上に墜落した。	150101	1～9
2015	11	9 ～ 10	橋梁の補修工事のために設置された吊り足場の解体作業において、足場の解体作業に従事する労働者が誤って30m下の海に墜落し死亡したものの。	30105	1～9
2015	1	10 ～ 11	RC造2階建校舎の雪下ろしの作業のため、1人で約10mの高さの校舎屋上にて雪庇を降ろそうと端部に近づいたところ、屋上のパラペット部分に積もった雪庇とともに10m下のアスファルトへ墜落した。雪庇は約70cmパラペットの端部からせり出していた。	120109	1～9
2015	1	9 ～ 10	雨水受けタンクを設置し終え、発注者と一緒にその設置状況を確認する作業中、タンク内部の明り取りのために、被災者1名がタンク上部に上がり、タンク上部のマンホールを開けたところ、マンホールの蓋とともに約10m下のタンク床面に墜落した。	30309	10～ 29
2015	5	16 ～ 17	珪石サイロ内部の珪石抜き取り作業中、サイロ下部に設けられたコンベヤーにより珪石を抜き取るため、被災者はサイロ内においてドラグ・ショベルを運転し足元を固め作業場所を確保していたところ、突然サイロ中心部の珪石が陥没しドラグ・ショベルが後方に転落し運転席から投げ出された被災者に崩れた珪石が覆い被さり上半身が埋没したものの。	10901	50～ 99
2015	6	22 ～ 23	滞在国現地時間6月12日10:30頃、同国市内の会社において、金属加工用機械の納品及び設置のため出張中の被災者が、客先で機械の組み立て作業指示を行っていたところ、当該設置する機械の据え付けピット付近で足元の鉄筋につまづき、深さ約3.3mのピット底に転落して頭部を強打したため、脳内出血と脳挫傷により、搬送先の病院で現地時間同月19日14:23に死亡した。	11301	1～9
		16	労働者3名が、光波測量を行うための敷地境界の踏査を終えた後、林地の斜		

2015	6	～ 17	面を登る途中で高さ1.5メートル、幅3メートルの水路に入ったところ、1名が急こう配の水路を15乃至20メートル滑落して死亡し、1名が水路の淵で足を踏み外して水路の中に落ち負傷した。	170202	1～9
2015	3	11 ～ 12	橋下の護岸工事現場において、施工済みの護岸ブロックの上から、高さ3.3m下のコンクリート地面に墜落したものである。被災者は、作業時に保護帽を着用していたが、安全帯は未着用であった。なお、災害発生時は護岸ブロック上での作業はなく、通常通路としても使用していない箇所であった。	30107	30～ 49
2015	4	18 ～ 19	作業構台から地下4階部分の鉄骨建方を行うため、構台覆工板の一部を開けて移動式クレーンを使用して作業を進める過程で、被災者が覆工板開口部から約27.5m下の地下4階スラブ上に墜落した。病院に搬送され死亡が確認された。	30201	10～ 29
2015	7	12 ～ 13	被災者は、会社が警備業務を受託したパチンコ店において、店舗に付設してある立体駐車場で巡回警備を行っていた。平成27年7月19日、午後0時から巡回警備を開始。巡回中、立体駐車場4階の非常窓から約15メートル下の立体駐車場出入口スロープまで墜落し、死亡した。	170201	10～ 29
2015	6	11 ～ 12	PC橋桁架設のためのエレクションガーダー（長さ82m、1本65トン×2本）の高さを調整するため、油圧ジャッキでガーダーを持ち上げていたところ、ガーダーが傾き、ガーダー下に敷設されていた鉄骨ブロック等がはね飛ばされ、その反動で労働者2名がPC桁の上に組まれた鉄骨ステージ上から約20m墜落し、1名が死亡もう1名が被災した。また同ステージ上で、飛来等した鉄骨ブロック等により2名が被災した。	30105	30～ 49
2015	9	2 ～ 3	被災者は、7階建てのビルに隣接する鉄骨造の立体駐車場の解体工事現場において、鉄骨の外周に設置されている壁パネルの撤去作業中、ビルの屋上部から25.4m下方の地上に墜落した。災害発生時、被災者は墜落時保護用の保護帽を着用していた。また、安全帯は着用していたものの、使用していなかった。	30209	10～ 29
2015	7	～ 17	スチール会社3製鋼天井クレーンランウェイ上の粉じん清掃作業において発生。ダスト吸引車での吸引作業完了後のホース片付け作業中、天井クレーン	11001	30～

		18	ランウェイから地上にホースとともに25.4m墜落した。		49
2015	1	11 ～ 12	被災者は、市発注の測量業務委託において、同僚と水源林の境界を測量する準備作業として、刈り払い機を用いて、雑草の刈り払いを擁壁上で行っていたところ、4.8メートル下の道路上に墜落した。保護帽の着用や墜落防止措置はなされていなかった。	170209	1～9
2015	5	13 ～ 14	始業時刻直前に、事業場4階電気室で点検業務に従事していたところ、当該点検業務に係る点検箇所が存在しない屋上の端から墜落し、死亡したもの。なお、屋上の端には墜落防止用のパラペット（手すり壁：墜落箇所の高さ0.97メートル、幅0.36メートル）がある。地上からパラペット上部までの高さは14.5メートル。	10701	10～ 29
2015	2	0 ～ 1	地下鉄駅で、案内業務交代時にホームから墜落した。	170201	100 ～ 299
2015	2	9 ～ 10	通信ケーブルの更新工事において、山頂に設置したウインチで旧ケーブルとこれを架設していたメッセンジャーワイヤーを巻き取る際に、メッセンジャーワイヤーに取付けられたケーブル支持用金具を取り外すため、被災者と現場代理人は支柱上で作業を行っていたところ、被災者は高さ約20mの位置から墜落し、現場代理人は手の指を切断したもの。	30301	1～9
2015	9	22 ～ 23	通信用光ケーブルの張替作業終了後、小用を足すためにガードレールを乗り越えてコンクリート擁壁の上端に立ったところ、足を滑らせ約16m下の川へ転落した。コンクリート擁壁の上端には苔が生えており滑りやすい状況であった。また、現場は照明が無く薄暗い状況であった。	30301	1～9
2015	7	15 ～ 16	木造家屋建築工事現場（新築）において、火打梁（高さ約3m）の上で母屋材の設置を行っていた時に、足を踏み外し墜落したことにより右頭部を打撲し、病院に搬送されたが、午後9時56分頃死亡した。	30202	1～9
2015	11	11 ～	被災者と同僚は、小麦粉用サイロの外側をデッキブラシ等で清掃する作業を行っていた。同僚はサイロの頂上部分の掃除を行い、被災者がサイロ中段部	10104	1000 ～

		12	分の清掃を行っていた。その時、被災者が高さ約5メートルの位置から地面に墜落した。（被災者はヘルメット、安全帯未着用で作業を行っていた。）		9999
2015	2	7 ～ 8	被災者の同僚が、何か落ちた様な音が聞こえ、5階エレベーターホールの窓が開いていたことを不審に感じ、窓の外をのぞいたところ、地上1階部分の駐車場に被災者が倒れているのを発見したもの。	10909	50～ 99
2015	1	9 ～ 10	造船会社第1号ドックにおいて、修繕船のショットブラス補助作業を行っていた被災者が、ドックサイドに固縛していたブラストホースを解き、移動させようとしていたところ、約9メートル下のドック底部に転落したもの。傷病名は、重症頭部外傷	11501	1～9
2015	1	8 ～ 9	防球ネット改修工事において、防球ネットを支えるコンクリート製の支柱に登り、防球ネットを取り外し、引き続き支柱上部の補強用ワイヤーを取り外す作業を行う際に、高さ約9mから墜落したもの。安全帯（U字型）及び墜落防止用の保護帽は着用していた。	30209	10～ 29
2015	1	17 ～ 18	右岸側の橋の上方の斜面より落石があり、現場監視のため、橋を通行止めにして自動車を止め、右岸側の同斜面の落石状況を確認していたところ、土砂崩壊が発生し、土砂により橋桁が崩落し被災者2名が、河川に墜落したものの。	30106	30～ 49
2015	8	11 ～ 12	被災者は川の支流にかけられた橋付近で、河川の点検作業を1人で行った際、右岸側の石積み護岸の天端を通行中、約4.7m下の河床まで転落した。	30199	50～ 99
2015	1	17 ～ 18	右岸側の橋の上方の斜面より落石があり、現場監視のため、橋を通行止めにして自動車を止め、右岸側の同斜面の落石状況を確認していたところ、土砂崩壊が発生し、土砂により橋桁が崩落し被災者2名が、河川に墜落したものの。	30106	30～ 49
2015	1	1	多目的イベントホールで開催されたコンサートの舞台装置撤去作業中に、可動式客席が格納されるピット内（深さ約2.5m）で倒れている被災者が発見された。（現認者なし）発見時ピットの囲いとして設けられている移動式の間仕切り壁が一部開放していた。被災者は病院に搬送され、外傷性脳出	100109	1～9

		2	血、血胸、肋骨骨折と診断され療養していたが、平成27年1月16日死亡した。		
2015	8	14～15	5階建てマンションの防水工事現場において、不動産管理を行っている同社の営業社員が現場の状況を確認中に4階屋上から3階屋上（高さ約3.1メートル）に墜落し、死亡したもの。同社は、マンションの所有者から依頼を受け、U社に防水工事の施行一式を発注しており、被災者は出張中に被災したもの。警察署において、災害調査実施済。	80409	1～9
2016	12	2～3	朝刊の配達中、川に掛けられた橋を歩行していたところ、凍結した床面に足を滑らせバランスを崩し手すりの隙間から3メートル下の川へ転落した。	80205	10～29
2016	12	11～12	被災者が寺院境内の斜面を切り開いた段状になっている墓地区画の清掃の作業を行っていたところ、枝や枯れ葉を集めるポリ袋が約2m下に落ち、これを熊手で拾い上げようとしたところ墜落した。	170209	1～9
2016	12	9～10	送電鉄塔のアーム上で被災者は同僚2名とともにアース線接地作業を行っていた。被災者は作業中に安全帯の補助ロープを取りはずした後で、何らかの理由でバランスを崩したはずみで、安全帯のメインロープもかけた箇所からはずれ、約40メートル下の地面に墜落した。	30301	50～99
2016	12	16～17	民家敷地の法面保護工事において、当日の作業を終えるために片付けを行っていたところ、資材置場として使用していた場所に隣接する道路（幅1.1m）の下方に位置する民家の敷地（コンクリート上）に倒れている被災者を発見し救急搬送したが、頭部打撲により死亡した。	30199	1～9
2016	12	13～14	急傾斜地崩壊危険区域台帳を作成する測量のため、同僚は地上で測定器の操作、被災者は法面に登り、ミラーを設置する作業分担で、急傾斜地の測量作業を行っていた。その際に、コンクリート法枠に登っていた被災者が約5.9m（計算値）の高さから墜落した。	170209	1～9
2016	11	11	避難タワー建屋内スロープの踊場に位置する東端から高さ2.7メートルの地面に墜落した。	30201	1～9

		12			
2016	11	11	アパートの屋上防水改修工事において、被災者が布設されている防水シートをカッターナイフで後退りしながら切断中、墜落防止措置が講じられていなかったため、アパート屋上（高さ9.3m）から地上に墜落した。	30209	30～ 49
2016	11	21 ～ 22	被災者は、ダム管理所の夜間警備及び情報連絡業務を単独で行っていた。午後9時30分頃、施設管理者の担当者に停電通知メールが自動送信されたため、原因調査のために当該担当者が翌日午前0時10分頃にダム管理所を訪れたところ、玄関横に倒れている被災者を発見した。	170209	100 ～ 299
2016	11	10 ～ 11	霊園内の生け垣の剪定作業を行っていた被災者は、高さ約3.6mの擁壁上から墜落し、死亡した。	170209	10～ 29
2016	10	7 ～ 8	橋脚の耐震補強工事現場において、現場代理人である被災者が、早朝、現場が始まる前に工事現場の上方に位置する橋の欄干（既設）から現場の状況を確認するため身を乗り出した際、約21メートル下の地面に墜落した。	30105	10～ 29
2016	10	8 ～ 9	被災者は4階フラットデッキ上で配筋作業を行うための準備中、フラットデッキ上を歩いていたところ、フラットデッキにあらかじめ取り付けられていたインサートの突起につまずき、その衝撃でフラットデッキが梁からずり落ち、フラットデッキとともに4.55m下の3階床に墜落し、コンクリート床に激突して死亡した。	30201	1～9
2016	9	0 ～ 1	勤務途中から行方不明となっていた被災者がスキー場Cリフトの支柱の下に倒れて死亡しているのが発見された。	140309	1～9
2016	9	10 ～ 11	建造中の船のアップパーデッキからドックの底部床コンクリートに墜落し即死した。	11501	1～9
		14	労働者が、外板シームをガウジングするため、高所作業車に乗り作業床を旋回させていたところ、上部旋回体が船台の作業ヤードに設置された墜落防止		10～

2016	9	15	～	用の手すりに接触し、手すりが破断。破断した手すりの先端が上部旋回体に引っ掛かったため、労働者がそれを引き抜いていた際にバランスを崩し、3 m 6 0 c mの高さから船台に墜落した。	11501	29	
2016	9	10	9	～	小学校プールの屋根部分に相当するビニールテントをはがす作業を終え、親綱を取り外す作業に取り掛かろうとしたところ、鉄骨梁（高さ約3. 6 m）から墜落し、出入口コンクリートたたきに左太ももを強打し、出血性ショックのため、病院搬送後約1 2時間後に死亡した。	30202	1～9
2016	8	14	13	～	1 3時3 0分頃、被災者が空調の室外機の点検が終了し、事務所に戻るため、室外機が設置されている普通教室棟の屋上から管理室棟の屋上へ移動していたところ、屋上の端部を移動していたため、バランスを崩し、約1 3 m下の地上へ墜落した。	120109	100 ～ 299
2016	7	13	12	～	被災者は教育資料用の写真撮影のため、デジタルカメラを持って1人で建屋（機械棟）屋上に上がった。その後1 3時1 0分、地上に墜落して倒れているのを同僚に発見された。屋上は地上から高さ2 3. 4メートルあり、屋上に張られた避雷針のワイヤロープのそばに左足の靴だけが残されていた。	150109	10～ 29
2016	7	17	16	～	擁壁補修工事において、被災者は高さ3. 5 7メートル、6 0度の斜面上でロープ高所作業によりフレームの設置作業を行っていたところ、身体保持器具をメインロープに取り付けていた接続器具（ロリップ）を取り外していた際、墜落し、死亡した。	30108	10～ 29
2016	7	14	13	～	小学校解体工事現場において、高所から地面に墜落し、胸部を打撲。胸腔内臓器損傷による血胸で死亡した。	30199	10～ 29
2016	6	12	11	～	被災者含め3名は、無線局の鉄塔の地上高さ3 4 mの位置にあるプラットフォームで、新たなケーブルの設置工事を行っていた。被災者は、プラットフォームの外側にて作業していたところ、地上に墜落し、死亡した。	30301	10～ 29
		14			バイオチップ製造工場の新築工事現場にて、建屋3階の天井クレーンのレールを設置するためのH鋼（床面から高さ5. 4 m、幅3 0 c m）に、高所作業車で親綱を取付けするスタンプの設置を行っていた。H鋼にレール		

2016	6	6 ～ 15	(重さ300kg、長さ10m)が仮置されており、スタンプの設置に差支えたため、H鋼に乗りレールを動かそうとしたところ、高さ5.4mのH鋼から床面まで墜落して負傷し、同日搬送先の病院で死亡した。	30201	0
2016	5	9 ～ 10	被災者が、自身の勤務するビル7階の事業場の窓から、直下の歩道へと墜落し死亡した。墜落高さ22.9m。災害発生状況を確認した者はおらず、通行人が、倒れている被災者を発見した。	90201	1～9
2016	5	10 ～ 11	被災者は、室外機の交換作業のため、2階建て建物の屋上に接して架け渡された幅15センチメートルの鋼材上に立ち、滑車ロープを用いて室外機を下ろしていたところ、固定していた滑車が外れたことにより、バランスを崩し、約6.4メートル下の床面に墜落し、搬送先の病院で死亡が確認された。	30309	1～9
2016	5	9 ～ 10	隣のプラントで運転業務を行っていた構内下請事業場の労働者が物音に気づき確認したところ、被災者が地面に横たわっていた。被災者は工事開始に先立ち、下請けとの打ち合わせをするにあたって現場の状況等の確認をしていたところ、サイロの上のコンベアの点検歩道付近より地上に墜落した。	30302	30～ 49
2016	4	8 ～ 9	3階建てビルの塗装工事の養生を行う予定の被災者が、路上に倒れているのを通行人が発見し救急車で病院に収容されたが死亡した。	30309	1～9
2016	4	12 ～ 13	12時過ぎ、工場のアスベスト対策工事現場において、つり足場の解体に伴う足場材の荷卸し作業中、高さ約14mの足場(ステージ)上から地上に墜落した。	30209	1～9
2016	4	14 ～ 15	増改築工事現場において、R階の大梁を取り付けるため、柱頂部に取り付けられたスタンプに接続された安全ブロックを用い当該柱に昇り、梁位置調整用バールをボルト穴に仮差し後、何らかの原因でスタンプが外れ、スタンプ、安全ブロックごと墜落した。	30201	30～ 49
2016	3	17	マンション防水工事現場において、高さ14.4mの屋上で塩ビ製シート設置作業に従事していた被災者が、塩ビ製シートロールを持ち後退しながら高	30209	1～9

		18	さ約38cmのパラペットを乗り越え墜落した。		
2016	3	13 ～ 14	3階建てのビル解体工事現場において、被災者は屋上階にある階段室内で外壁解体の手元作業にあたっていたところ、窓枠及び外壁とともに9.64m下の地上に墜落して死亡した。	30209	1～9
2016	2	15 ～ 16	被災者は、擁壁の建設中、擁壁の端部にいた時に高さ約4メートル下に墜落し、入院して治療していたが、約4箇月後に死亡した。	30199	10～ 29
2016	2	12 ～ 13	重油の配達先において、高さ約2.8mの重油タンクに給油するため、タンクの側面に固定されているタラップに足をかけて作業を行っていたところ転落し、コンクリート製の防油堤の淵に頭部を強打した。災害後意識があったが、2日後、病院で死亡した。	80109	10～ 29
2016	2	16 ～ 17	解体工事現場において、解体していた建屋屋上で4人が作業に従事していた。そのうちの作業員2名（被災者を含む）で取り外した折板屋根部材を屋上端部から投げ下ろしていたところ、被災者がバランスを崩し、3m10cm下の地面に墜落した。	30309	10～ 29
2016	2	7 ～ 8	被災労働者が高さ約19mのタンクの天井部の端で、タンク内部の温度計等の状況を確認するためタンク検尺口を取り外す途中、当該作業箇所からコンクリートの地上へ墜落した。	80401	10～ 29
2016	2	15 ～ 16	カーポート取付工事現場において、被災者一人が、現場より52メートル離れた休憩場所で座り込んでいたところ、前のめりに転倒し、深さ1.37メートルの用水路内に転落し、水深10センチメートルの同用水路内にてうつ伏せの状態で見つかるのを発見された。	30309	1～9
2016	1	16 ～ 17	太陽光発電施設の内部で行う柱、はり等の防錆塗装工事において、塗料の飛散汚れを防ぐためにソーラーパネルのビニール養生作業をしていた被災者が、約10m下のアスファルト路面に墜落した。	30209	1～9
		11	ビル4階建て（本館、別館）の窓拭き作業を6人で行っていた。被災者は、別館の建物4階の外側の庇（幅1m、地上からの高さ11.6m）で、外側		100

2016	1	12	～	の窓拭き作業を1人で行っていた。その後、しばらくして、何か落ちたような音がし、他の作業者が見に行ったところ、アスファルト上の地面に倒れている被災者を発見した。被災者は、救急車で病院へ搬送され、死亡した。	150101	～	299
2016	1	16	～	17	店舗兼住宅の解体工事現場において、店舗部（平屋鉄骨造）の屋上ベランダ上で廃材等の清掃を行っていた被災者が、既に梁を外した箇所のスラブに乗ったところ、スラブが長さ約7.2m、幅0.93mにわたって崩落したため、一緒に約3mの高さから墜落した。	30209	30～ 49
2017	12	22	～	23	冷蔵倉庫のプラットホーム（高さ1m）上で、10tトラックの荷台後部から食品用空コンテナをプラットホームに降ろし、次にプラットホームから冷蔵庫内へ運ぶ作業を単独で行っていた被災者が、プラットホームの下で頭部左側を下に横向きで倒れているところを発見された。なお、安全帽は着用していなかった。高さ1mのプラットフォームから転落したものと推定。	40301	100 ～ 299
2017	12	8	～	9	被災者は、一人で戸建住宅の完了検査を出張作業にて行っていた。隣接する建物の外構工事をしてきた者が音がしたので行ってみると、被災者が倒れているのを発見した。検査を行っていた建物の敷地と発見された隣地には約1.6メートルの段差があった。	170209	10～ 29
2017	11	16	～	17	被災者は、建物内にある自動ラック倉庫の鉄骨・ダクト等をガス溶接機により解体していたところ、ラックの棚上から約10m下の床に墜落し、死亡した。	30309	1～9
2017	11	14	～	15	地震で損傷した高床式倉庫の復元模型の復旧作業に従事中の被災者が、床材（重量約45kgの丸太）の荷上げ作業を行っていたところ、地上から高さ1.8mの床部に上がった被災者が地上に墜落し、死亡した。なお、荷上げを終え床部に仮置きしてあった床材も同時に落下した。	30202	1～9
2017	11	12	～	13	被災者は、林道改良工事現場において、橋の山側端部にガードレールを取り付ける支柱の設置作業等を行っていたが、当該栈道橋の端部を移動中に5.1m下の斜面に墜落、当該斜面を目測60m以上滑落し、さらに切り立った崖を30m以上墜落して、山沿いを流れる川辺に落ちて死亡した。	30106	30～ 49
		10					

2017	11	～ 11	1 1 階建の建物窓ガラスを清掃中、地上まで約3 1メートル墜落した。	150101	1～9
2017	10	～ 11	10 工事現場において、休憩中、被災者の行方が分からなくなり、音がした場所 11 で、被災者が倒れていたところを発見された。建物から墜落したものと思わ れる。	30309	1～9
2017	10	8 ～ 9	被災者らは碎石場内に構築したブロック積みの法面の補修を行うべく、法面 の天端で転圧作業を行っていたところ、突如法面が崩壊し、使用していたド ラグショベル、タンパーとともに墜落、崩壊した土砂やコンクリートブロッ クの間に生き埋めとなった。	30109	0
2017	10	～ 11	10 3階建て居住用マンションの共用部の清掃業務を行っていた被災者が、何ら 11 かの原因で1階の庇の屋上部分にて身動きが取れない状態になり、その後救 急車にて搬送されたが死亡した。	150101	300 ～
2017	10	～ 15	14 関連会社の監査中に、建屋屋上（約1 4 m）から下方を見下ろしていたとこ 15 ろ、地面に墜落した。	170209	1000 ～ 9999
2017	8	8 ～ 9	被災者は、当該事業場校舎とラクビーグラウンドの間にある屋外通路の手す りを越えて行う除草作業の事前作業として、レイカー（熊手）を用いて除草 区域における蜂の巣の有無の確認を行っていた際に、誤って開口部より約5 メートル下の地下駐車場に墜落した。	120109	300 ～
2017	8	～ 17	16 管理しているマンションの外階段の踊場（9階から1 0階部）において、脚 17 立を用いて作業をしていた際に、その踊場から約2 5メートル下の地上に墜 落し、全身を強打した。	150101	1～9
2017	7	～ 9	仮置きしていたFRPタンク（高さ＝8 m、直径＝3 m）のマンホールの向 きを変えるため、被災者がタンク頂部ノズルフランジ（直径＝5 6 c m）に ベルトスリングを2重に巻きつけた。同僚がドラグショベルで地切りしたと ころ、ノズルフランジ部が切断してベルトスリングが外れてその弾みでタン ク頂部から墜落した。	70101	1～9

2017	7	8 ～ 9	被災者は、朝礼を始める際、換気のために開けていた消防用の窓を閉めようとしていた。ブラインドカーテンの紐が、窓の外側に出ており、このままでは窓が閉められない為、窓枠に上がり、手を伸ばし、紐を取ろうとした際、窓が動き、バランスを崩し、4階より地上に墜落し、全身を強打した。	80302	10～ 29
2017	7	10 ～ 11	ビルの5階の雨漏り補修工事を行っていたところ、何らかの原因で脚立ごと落下した。	30209	0
2017	7	8 ～ 9	被災者は鉄筋コンクリート造5階建てマンションの大規模修繕工事において屋上階スラブ面の防水シートの張り替えの作業を行っていた。両面テープが施された防水シートを後ろ向きの座位の体勢で張り替えていたところ、屋上の端部に気づかずにパラペットを乗り越え、約15m下の地上に墜落した。	30209	1～9
2017	7	8 ～ 9	原料を倉庫から自動搬送装置で搬出中、搬出口である棚4段目（高さ約5.5m）で自動搬送装置がエラーで停止したため、被災者が状況を確認するため4段目の棚に登ったところ1階床に墜落した。	10101	50～ 99
2017	6	10 ～ 11	出張先の外国において、得意先との食事会の後、宿泊しているホテルに戻り、ホテルの窓から墜落し、死亡した。	80109	50～ 99
2017	5	14 ～ 15	被災者を含む2名の労働者によりごみ処理施設のピットにパッカー車に積んでいたゴミ袋を手作業で投げ入れる作業を行った。その後、1名がパッカー車を運転してピット際まで後進し、当該パッカー車のタンクをダンプさせてタンク内のごみを投入したところ、被災者の姿が見当たらなかった。搜索の結果、被災者が、ピット内に溜まったゴミに埋まった状態で発見された。	150103	30～ 49
2017	4	14 ～ 15	プラントの貯蔵びん内補修工事に立ち会っていた被災者と施工業者の責任者が、ホッパーの排出ゲートが開いた状態で排出されていなかった骨材（砂）をスコップでほぐす作業を行っていた。施工業者の責任者が作業道具を探しに貯蔵びん内のタラップを昇っていたところ、下方から悲鳴が聞こえ、振り返ると、被災者はヘルメットが見える状態で砂に埋まっていた。3時間後に救出されたが、死亡していた。	10901	10～ 29

2017	4	4 ～ 5	元方職員がクレーン警報音のスイッチの場所が分からず、別の場所にいた被災者に携帯電話で連絡をとり確認している途中で会話が途絶えたため、元方職員が被災者を捜したところ、通路から深さ5.5メートルの立坑内に倒れていた。	30102	10～ 29
2017	3	10 ～ 11	光回線のケーブル新設工事のため、電柱に上って作業をはじめようとしていたところ、約5メートルの高さから地上に墜落し、全身を強く打った。上る際には安全帯を「ベルブロック」に掛けていたが墜落した際には、ベルブロックから安全帯は外されていた。	30301	10～ 29
2017	3	14 ～ 15	既存ごみ焼却施設解体工事において、蒸気タービン建屋最上階で、チッパーにてALC板の床の解体作業を行っていたところ、建屋西面の既に解体したALC板の破片が、水平ブレスに引っかかっていたため、被災者は、当該破片を落とそうとしたところ、ALC板の床の端部より約15メートル下の中間層に墜落した。	30201	10～ 29
2017	2	8 ～ 9	専門学校駐車場で講師がビルの屋上から墜落し倒れているのが発見された。	120109	10～ 29
2017	2	14 ～ 15	S造5階建雑居ビル解体工事において、車両系建設機械（解体用機械、鉄骨切断機）を使用して5階天井部分から随時解体を行っていたが、鉄骨のガス溶断のために作業していた被災者ががれきの上に墜落した。	30209	1～9
2017	2	12 ～ 13	マンション5階の屋上の除雪作業中に、屋上の端から地上に墜落（約15m）し、意識不明の状態での病院へ搬送され、その後死亡した。	140309	1～9
2017	2	10 ～ 11	老朽化した用水路を取り壊して、新たに拡幅による用水路の設置工事現場において、用水路の法面を仕上げるために凹凸箇所を均す法面整正作業を行っていた。被災者は、用水路に背を向け、その縁にしゃがんだ作業姿勢から次の作業に取りかかるため立ち上がった拍子に、突然、仰向けで、深さ1.0mの用水路の底へ墜落し、後頭部を打ち付けた。	30107	1～9

2017	2	14 15	マンション新築工事現場において、朝から地中梁の配筋作業を行っていた被災者が、午後の休憩を終えて作業場所に戻るべく、地足場から地中梁（高さ約2.4m）に降り、反対側の地足場に安全帯を掛け替えようとしたところ、左手の革手袋が地足場のクランプに引っかかり、身体のバランスを崩して、根切り底に後ろ向きに墜落した。	30309	1～9
2017	2	12 13	プール棟の屋上に設置されている採光用ガラス（厚み6.8mm）のシール部の補修作業中、被災者がガラスを踏み抜き約9.2メートル下の屋内プールに墜落した。屋上には安全帯取付設備として単管が格子状（上下・左右1.8m間隔）に設置されていたが、被災者は安全帯を着用していたものの墜落時使用していなかった。	30203	1～9
2017	1	14 15	2階建てビルのガラス清掃業務の現場において、ガラス外面の清掃のためロープ高所作業を行う予定であった被災者が、路上に倒れている状態で他の作業員に発見された。	150101	1～9
2018	12	16 17	同日、駅に入線する8名（本）の電車の運転士に対し、実設訓練を行っていた。被災者は2本目の電車の出発前に、出発信号機から約1.2m、線路の路盤から2.5mの高さにある、排気シャフトのコンクリート壁の縁（幅約20cm）に立ち、表示灯に訓練カバーを取り付けていたところ、誤って排気シャフト内の約12.4mの地下3階に墜落し、死亡したものの。	40101	100 ～ 299
2018	12	8 9	被災者は、立体駐車場屋上（5F）の社用車置き場から墜落した。	120109	1000 ～ 9999
2018	11	12 13	既設送電鉄塔の点検保守作業後、アース（送電線を鉄塔に接地）取り外し作業を終えた被災者が鉄塔から地上に降りる際、約30メートルの高さから墜落したものの。アース取り外し作業は被災者を含め2名で行われており、降下の際被災者が背負っていた搬送部材の落下を防止するため途中で2名の上下位置を入れ替えようとした際に上側に移動した被災者がバランスを崩し墜落に至ったもの。	170209	100 ～ 299
			高さ25メートルの照明塔（内部に踊り場が7階、頂上に屋上を有する。）		

2018	10	10 ～ 11	の附帯設備の更新工事を作業員7人で行い、被災者は床上までの高さ15メートルの5階踊り場において、1人で塔外側に張り出た無線アンテナ（単管の先端にアンテナが取り付けられている。）の交換作業をしていたところ、踊り場の周囲に設けられた高さ1.2メートルの手すりを乗り越え、地上に墜落し、死亡したものである。	30203	1～9
2018	9	12 ～ 13	2階建て木造家屋の解体工事現場において、2階床部分の端で、解体した木材を1階部分に停めていたトラックの荷台に投げ下ろしていたところ、木材に付いていた釘が作業服に引っ掛かり、バランスを崩して木材と一緒に2.6m下のトラックの荷台に墜落した。被災者は医療機関へ搬送され、意識不明の重体であったが、後日死亡した。	30209	10～ 29
2018	8	14 ～ 15	工場の増築工事において、既設の鉄骨の横梁の取外し作業を行っていた。被災者は、ローリングタワーを使用して横梁のボルトを取り外す作業を行っていたが、隣の列のボルトを取り外すためにローリングタワーから鉄骨に移り、鉄骨上でボルトの取外し作業を行っていたところ、約3m下のコンクリート床に墜落した。なお、災害発生時において、被災者は保護帽を着用していなかった。	30201	1～9
2018	7	12 ～ 13	擁壁上に設置されているネットフェンスに絡んでいる雑草を擁壁上（高さ約2.4m）で撤去作業中に、墜落したものの。救急搬送後、死亡が確認されたもの。	150101	30～ 49
2018	7	10 ～ 11	天井クレーン設置建屋に設けられた建屋側歩道の手すり（壁）のさらに内側（手すり（壁）と天井クレーン走行レールの間）に設置されたグレーチングの床に工事（建屋梁改修工事）で使用した架設部材（作業床、単管）を移動式クレーンで荷下ろしのため仮置き作業中、グレーチング床端部（天井クレーン走行レール内側）より2.5m下へ墜落したものの。	30201	1～9
2018	7	14 ～ 15	被災者は、勤務先の養護老人ホームと道路との境界付近に設置されたコンクリート擁壁上の作業床の端部で清掃作業に従事していたところ、3.75メートル下の道路上に墜落し、死亡した。被災者は、保護帽及び安全帯未着用であった。	130201	30～ 49

2018	7	8 ～ 9	10階建てマンションの窓ふきのため、被災者は1人で屋上からブランコを設置した後、何らかの理由で約25.5m下のエントランスの屋根に墜落し、その後、約3.5m下の地上に墜落したものの。	150101	10～ 29
2018	7	14 ～ 15	被災者は配管工として建設現場に入場していたが、1階で作業をしていた内装業者よりエレベーターピット付近で人が墜落したような音がしたとの連絡を受け、元請作業所長が確認したところエレベーターピット内で倒れている被災者を発見した。発見後、AEDによる救命措置等を行ったが搬送先の病院で脳挫傷による死亡が確認された。	30201	1～9
2018	6	6 ～ 7	被災者が高さ1.12メートルの手すりが設置されている高さ1.9メートルの作業床面において、手すりから身を乗り出して点検口をのぞき込み点検作業を行っていたところ、何らかの原因により墜落したものと推定される。被災者は保護帽を着用していた。	10909	50～ 99
2018	6	18 ～ 19	作業場兼倉庫の地上4mの底上で作業場兼倉庫の外壁の釘打ち作業を行っていた被災者が墜落し、地面に頭を打ち付けた状態で発見された。病院に救急搬送されたものの、脳挫傷により後日死亡したものの。	30202	1～9
2018	5	14 ～ 15	物流センターの工事現場において、鉄骨建て方のため3Fの床に長さ約6.7メートルの鉄骨柱4本の根元の仮止めを行った。2本の柱に鉄骨梁を渡して柱と梁の仮止めを終えたところ、門型になった鉄骨が仮止めした柱の根元から倒れた。この時、仮止めのために柱の上部にいた作業員2人が投げ出され、一人が約20メートル下の地上に墜落、もう一人が墜落防止ネット上に墜落した。地上に墜落した作業員が頭部を強打し死亡したものの。	30201	1～9
2018	5	10 ～ 11	水処理後の汚泥・し尿を、圧送用ポンプを用いてバキューム車から予備処理タンクに移送する作業中、予備処理タンクが設置された高さ（深さ）約4mのピット内に墜落し、急性硬膜下血腫により死亡した。	150102	1～9
2018	3	12 ～ 13	8階建て集合住宅の消火用連結送水管の耐圧試験を実施するため、被災者は屋上で送水状況等を確認し、その後、使用していたホースを巻き取るため、一旦ホースを伸ばそうと後退していたところ、屋上の端から後ろ向きに落ち、地上に駐車していた乗用車の上に墜落したものの。	11502	30～ 49

2018	3	16 ～ 17	アンテナ設置工事の見積もりを行うため、同僚と2人でマンションの屋上塔屋部へ登り、既設アンテナの状態とケーブルの配線状況を確認するため、幅24cmのパラペット上を移動していたところ、バランスを崩して23.3m下のアスファルト道路に墜落したものの。	30301	1～9
2018	2	10 ～ 11	県道道路法面からの岩石、岩盤崩壊の状況を確認する道路防災点検業務を行うに当たり、道路下を横断するボックスカルバートの中の土砂の堆積状況等の写真を撮影するため、被災者が道路のガードレールを乗り越え、道路下の法面上に突き出たボックスカルバート（下流側）の天端に降り、さらに下にある小段に降りようとしたところ、13.48m下の川床に転落して死亡したものの。	170209	1～9
2018	2	6 ～ 7	職長の指示により船尾部ブロックの歪み取り作業を開始するため、当該ブロックの甲板にある縦2.45メートル横3.00メートルの開口部の周囲に墜落防止用の手すりを設置しようと作業床高12メートルの高所作業車を操作して甲板に上がった直後、手すりを設置するため甲板上を移動していたところ、高さ5.42メートルの同開口部から墜落した。その後、搬送先の医療機関にて療養していたが、後日死亡した。	11501	10～ 29
2018	2	14 ～ 15	民間航空機レーダー施設更新工事に伴うドーム取付け架台の撤去作業において、被災者を含む労働者2名がコンクリート壁（周囲約48m、高さ約3.1m、幅約30cmの円筒状の壁）の上に跨り、約50cmスパンで埋設されていたアンカーボルトの撤去を行っていた際に、被災者が次のボルトを切断するために中腰で立ち上がり後ずさりしたところ、誤って約3.1m下のテラス部に転落し死亡した。	30301	10～ 29
2018	2	10 ～ 11	送電鉄塔の高さ47.5mの腕金にある水平レール端部を閉塞する作業中、被災者が作業予定箇所まで移動後に地面に墜落した。被災者は水平レールに接続した移動用ロープ（単軸ローラー）を安全帯のD環に取り付け、作業予定箇所まで移動したが、墜落時移動ロープのフックはD環に取り付けられておらず、水平レールに接続され、本胴綱のフックはD環に取り付けられた状態で安全帯等は使用されていない状態だった。	30301	10～ 29

2018	1	12 ～ 13	市道に設置されている街灯の灯具をLED化するための工事を実施していた。電柱の高さ4.67mの位置で作業を行っているとき、U字型安全帯を使用していたものの、安全帯のロープを電柱に巻いて、自身の着用した安全帯のD環にフックを掛けるところを、ハンマーホルダーの環にフックを取り付けて作業したため、体重をかけたところでハンマーホルダーの環が破損し、地面に墜落。全身を強打し後日死亡した。	30301	10～ 29
2018	1	16 ～ 17	ビート集積場において、ビートを放水により、水路（幅68.5cm、深さ113cm、水深20～30cm）に落とし込む作業を行っていたところ、何らかの要因で水路に転落し、水路内に設置された柵に引っ掛かり、ビートをせき止めている状態で同僚に発見されたもの。水路を流れているビートに押され、柵とビートの間に挟まり、窒息死したと思われる。	10109	10～ 29
2019	12	8 ～ 10	個人宅の無線鉄塔の解体作業で、鉄塔上でトラス部材のボルトを緩めた後、移動しようとした際に、緩めたトラス部材にU字吊り用安全帯をかけたため、体重をかけた瞬間に、トラス部材が鉄塔から外れ、安全帯がトラス部材から抜け落ち、約11mの高さから墜落した。被災者は墜落用保護帽を着用していた。	30209	1～9
2019	11	12 ～ 14	被災者は、災害発生日の午前中に屋上パラペットの仮設の手すりを取り外し、午後から屋上パラペット付近の除雪作業を行っていたところ、約12m下のアスファルト路面に墜落した。パラペットの高さは約30cmであった。親綱等の設置はなく安全帯は着用していたものの使用はしていない。保護帽は着用していた。	30209	1～9
2019	11	12 ～ 14	ダム洪水吐右岸側の排水管の敷設工事において、擁壁の上に設置されていた墜落防止用の手すり（単管パイプ）を解体していたところ、手すりとともに12m下の洪水吐の孫ダム水路（コンクリート製、当時水深約30cm）に墜落し、被災した。	30199	10～ 29
2019	10	8 ～ 10	木材加工会社の保管庫に木材チップを受け取りに行き、その保管庫からチップをトラックに移す作業中に、チップに埋没しているところを発見され、病院に救急搬送されるも、窒息により死亡した。	40301	10～ 29

2019	9	12 ～ 14	マンション新築工事中の建物8階において、外部枠組足場に設置された建設用リフト搬器から内装材（クロス材）を建物内に搬入する作業中に、外部枠組足場と躯体との隙間35センチから、21.6メートル下の地上まで墜落したものの。	30201	10～ 29
2019	9	10 ～ 12	被災者は、区に所在する液化ガスの受入配管の架台の塗装作業現場において、作業箇所への移動中に当該架台の下部（高さ5.5メートル）から墜落した。被災者は、墜落後意識を失い、病院へ搬送されたが7日後に死亡した。	30309	1～9
2019	9	12 ～ 14	廃棄された墓石や石塔の仮置き場で、重機を用いて側溝の法面に墓石等を石積み（2段）作業を行った後、土の裏込めや石の微調整を行っていた被災者が、何らかの理由で側溝内に転落し、頭から血を流した状態で発見され、搬送先の病院で死亡したものの。法面の高さは約3.5メートルであった。	10909	1～9
2019	7	10 ～ 12	被災労働者は、災害発生場所に所在する経理事務所の庭木の剪定作業を出張作業として行っていた。同日、被災労働者が脚立を用いて高さ1.7メートルのブロック塀に上り、高さ0.2メートルの段差に左足をかけ、庭木を剪定する作業を開始したところ、直後にバランスを崩して道路側の地面に墜落した。搬送先の病院で被災労働者の容体が急変し死亡した。	130101	50～ 99
2019	7	6 ～ 8	建物3階玄関の屋根に上がり、4階の網戸取り付け作業を行っていたときに誤って転落した。	170209	10～ 29
2019	4	6 ～ 8	店舗のシンボルタワーを設置しようとして高さ12mの木製の支柱に3名が上がり、移動式クレーンで吊り上げられた木製のパネル（1枚150kg）を支柱に取り付ける作業中、一番上にいた被災者が地上に墜落したものの。	140201	100 ～ 299
2019	4	14 ～ 16	船底ブロックのロンジ上で配管固定作業を行っていたところ、2.7m下の地上に墜落した。被災者は病院にて療養中であったが、後日死亡したものの。	11501	1000 ～ 9999
		12	被災者は保安対応力テストのための現場巡回中、テスト対象場所ではない地		300

2019	3	～ 14	下1階の部屋に入り、地下2階ピット吹き抜けに通じる扉を開けて、約6メートル下の地下2階に転落したものの。	170209	～ 499
2019	3	～ 22	事業場敷地内破碎選別プラントにおいて、選別作業を行うベルトコンベヤーのリミッタースイッチに不具合が生じたことを示すランプが点灯したことから、破碎設備に上ってターンシュートと呼ばれるベルトコンベヤーの分岐点でリミッタースイッチに干渉していた堆積粉じんの除去作業を行っていたところ、3.2メートルの高さから墜落し死亡したものの。	20201	10～ 29
2019	2	～ 12	被災者は同僚とともに、3階の窓（地上からの高さは約9m）を廊下側（内側）から清掃していた。同僚は大きな物音が聞こえたので、音のした方を見ると、被災者が使用していた脚立があり、窓が開いていた。すぐに近づいて、窓の外を見たところ、仰向けになって地面に倒れている被災者を発見した。被災者に意識はなく、救急搬送された。	150109	10～ 29
2019	2	～ 10	工場2階加工室の南側に位置するスリッターと呼ばれる反物加工機械周辺をほうきとちりとりで清掃していた際に、換気のため開けていた窓から工場の外に墜落し、死亡したものの。	10309	30～ 49
2019	1	～ 10	建築物屋上にて、高所ガラスの清掃作業を行う準備作業を行っていたところ、墜落して死亡したものの。	150101	30～ 49
2020	12	～ 10	被災者はホッパー下部に堆積している残留微粉炭をバキュームホースで吸い出すため、縄梯子を使用してホッパー内部に下り、吸い出し作業を行っていた。その際、被災者が頭まで微粉炭に埋もれて、窒息により死亡したものの。	30302	10～ 29
2020	12	～ 16	被災者は、工場のスレート屋根の張り替え工事で使用した足場の解体作業を行っていたところ、腐食していた既設点検台の床面を踏み抜いて地面に墜落したものの。	30209	10～ 29
2020	12	～ 16	被災者は、鉄骨製倉庫の新築工事において、地上から高さ約5mにある倉庫屋根の端から墜落し死亡した。	30201	1～9

2020	11	2 ～ 4	トラックで配送作業中、座席に置いていた書類が助手席側の窓から飛ばされ たために、トラックを道路上に停車させて、降りて書類を探していたとこ ろ、高架橋の柵を乗り越えて墜落したもの。	40301	50～ 99
2020	11	12 ～ 14	工作物解体撤去工事（建物解体後に残っている基礎部分と人工地盤の解体撤 去、自社が元請）において、被災者は、人工地盤に混在している廃棄物（皿 等の生活用品）を手作業で分別作業中、人工地盤の端部から高さ約5.79 メートル下の地上部分に墜落した。救急搬送先の病院で、多発性外傷からの 出血性ショックによる低酸素脳症のため死亡したもの。	30209	10～ 29
2020	10	12 ～ 14	橋梁の補修工事現場において、昼休憩を終え、作業を再開しようとしたが、 被災労働者が見当たらず、付近を確認したところ、付近の河床に被災者がう つぶせで倒れているのを発見、病院に救急搬送されるも死亡が確認されたも の。	30105	1～9
2020	9	10 ～ 12	支店の構内にある建屋の屋根の雨漏り補修工事を行うため、雨樋の取付作業 を行っていたところ、1次下請の作業員が高さ約5メートルの位置（ベラン ダの腰壁の上）から誤って墜落し、死亡したもの。	30209	1～9
2020	8	14 ～ 16	工事現場で発生した建設残土を施設跡地内残土処分場に仮置きし、被災者は ドラグ・ショベルで残土均し作業を行うため仮置き場所に常駐していた。作 業中に作業場所が崩れ落ち、大きく開いた穴（直径約4.5m、深さ約3.0m の穴）にドラグ・ショベルごと墜落し、水抜き後、泥に埋まった運転室内で 遺体が発見された。	30110	10～ 29
2020	7	8 ～ 10	4階建マンションの屋上防水工事において、職長と被災者が屋上（地上から 高さ13.43メートル）に上がり、当日の作業内容の説明後、職長は被災 者を残し、1人で1階に降り、道具を（高圧洗浄機、電源コード）を持って 再度屋上へ上がった。職長は、道具を使用する際の電源や水の準備のため、 1階にエレベーターで降りたところ、マンション敷地内で仰向けに倒れてい る被災者を見出し、同日に死亡が確認された。	30209	1～9
		10	被災者は、プールの天井裏に設置した温度計8個を撤去するため、当該プー ルの天井裏において、移動中又は作業中に、天井板（地震対策用軽量天井		300

2020	7	～ 12	板) を踏み抜き約 10 m 下のプールサイドのコンクリートの床に墜落したものの。	11409	～ 499
2020	6	～ 18	被災者は、6 階ベランダから同階ロフト部分の作業床開口部に架け渡してあった足場板上を通行していた際、約 2.7 m 下の 5 階スラブに墜落し、死亡したものの。	30201	1～9
2020	5	8 ～ 10	被災者が夜になっても帰宅しないことを不審に思った被災者の息子が事業場に赴き捜索したところ、事業場敷地内にある魚加工作業時に生じる排水を貯留する沈殿槽内に体を丸め横向きに倒れ沈んでいる被災者を発見した。沈殿槽はコンクリート製、長辺 1.2 m × 短辺 0.9 m × 深さ 1.0 m で発見時には水槽内に 0.2 m 程度の水が溜まっていた。目撃者がいないことから災害発生状況は不明。	10102	10～ 29
2020	3	8 ～ 10	農場内において、被災者はバルク車から高さ約 6 m のサイロ上部の投入口に飼料を入れる作業を行っていたが、サイロ脇の地面で頭部から血を流して倒れているところを発見されたもの。発見時、被災者は墜落制止用器具を装着しておらず、ヘルメットが外れていた。負傷後、入院加療を行っていたが、後日死亡した。	40301	30～ 49
2020	3	14 ～ 16	水管橋歩廊上にて足場解体後の資材を一輪車にて運搬作業中、前方で別の一輪車を押していた作業者が停止していたため、追い越そうと歩廊の手すり(高さ 90 センチメートル) を乗り越えて、歩廊外にある水管橋の横桁を移動しようとしたところ、バランスを崩し当該横桁上(高さ約 13 メートル) から墜落した。	30309	1～9
2020	3	16 ～ 18	木造 2 階建て民家の新築工事において、被災者は、午後、建築中の躯体の外壁に張る合板を丸のこ盤で加工する作業を終え、後片づけを行っていたところ、何らかの理由で躯体の 2 階から墜落したものの。	30202	1～9
2020	3	12 ～	5 本の鉄骨支柱と鉄製屋根(高さ 2.5 m) からなる鉄骨製倉庫の解体作業中に、溶断した鉄製屋根の一部(根元を溶断した支柱が 2 本付いた状態) を車載型移動式クレーンで吊り上げたところ、残る屋根を支える 3 本の支柱が	30301	10～ 29

		14	折れて屋根が倒壊し、当該屋根上で溶断作業のために立っていた被災者が地上に落ち、死亡したものの。		
2020	3	0 ～ 2	新幹線のトンネルの坑口の上に通路が2段あり、被災者は、作業（坑口構造物の草取り）場所に行くため、上の段の通路を歩行中、体勢を崩し前のめりになり、たたらを踏みながら下の段の通路に落ち、体の向きを180度変えて、背中から更に11.5m下の線路付近に墜落した。通路の幅は、上の段1.5m、下の段1.6mで、下の段は上の段の1.9m下にあり、その間の斜面は長さ3.6m・傾斜32～35度であった。	30104	30～ 49
2020	2	12 ～ 14	建物の窓ガラス清掃中の作業者が、2階窓のサンと壁の厚みの部分に足を置き、窓の外側を清掃していたところ、4.85m下の地面に墜落したものの。	150101	100 ～ 299
2020	2	14 ～ 16	太陽光発電設備設置現場において、既設の立体駐車場2階床部分に太陽光発電設備を取り付ける作業中、開口面の向かい側へ渡るために使用していた道板（長さ4メートル、幅20センチメートル、厚さ3.5センチメートル、重さ13.2キログラム）を付け替えのため外していた際、4枚のうち1枚目を持ちあげたところバランスを崩し、高さ約3メートル下のアスファルト面に墜落したものの。	30209	1～9
2020	2	14 ～ 16	河川整備工事において、被災者は型枠解体が完了したコンクリート製樋門の表面仕上げ作業を行っていたところ、高さ1.1メートルの作業箇所から地面に墜落し、後日死亡した。	30107	10～ 29
2020	2	12 ～ 14	県道沿いの河川に高さ50cm幅1m奥行約1mの護岸ブロックを奥行方向に25cmずつずらしながら約13段積み重ねた最上部に現場打ち施工のため型枠を組んでおり、被災者は補助作業員として、階段状になっている幅25cmの護岸ブロック上を移動してホームタイを締めていたところ、高さ470cmから墜落した。	30107	1～9
2020	1	10 ～	建造中の化学薬品運搬船のタンク内の水洗い作業のため、被災者がマンホールからタンク内に降りていたところ、高さ約12メートル下のタンク底に墜落したものの。被災時の被災者を目撃した者がいないため、どこからどのような	11501	10～

		12	にして墜落したのかは不明であるが、タンク内のはしご道を降りていた際に発生したものと推測される。		29
2020	1	14 ～ 16	被災者は、工場内において、2名の労働者とダクト工事のため下見を行っていた。下見は現場に設置された作業ステージ上で行っていたが、被災者は作業ステージの安全柵を越えて、骨組みの構造物の上で、ダクトを確認していたが、L形鋼にかけ渡してあった石膏ボードに乗ったところ、石膏ボードが割れ、約4メートルの高さから墜落した。	30309	10～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html